虹色の造形

2000年
北海道造形教育連盟創立50周年記念誌

目次

創 虹の造形 P5～P21

・記念誌発刊にあたって……芝木　秀明
・歴代委員長の言葉
・座談会「連盟50年をふりかえる」

遥 あゆみ P25～P114

・連盟50年間のテーマ
・第１回大会から第40回大会のあゆみ
・第41回大会から第50回大会の記録
・21世紀を前にして……阿部　宏行

遊 造形ひろば P117～P129

トンボの羽　（伊藤　善彬）
美術教育の実践の中で学んだこと　（関　健治）
セピア色の写真から　（窪田　恵子）
園児から学ぶ　（小尾　喬）
教師の意識改革と，ひとみを輝かせて取り組む造形学習　（中村　紀雄）
私と造形連盟　（藤井　正治）
新教育課程とこれからの美術教育　（村谷　利一）
回想　（竹内　堅治）
ある授業研究から　（川合　薫）
「第30回全国大会・札幌大会」の思い出　（多田　紘一）
「何を創っていますか？」　（松井　茂樹）
雑感　（北村　哲朗）
オホーツク造形連盟と私　（須貝　徹）
人との出会い　（稲實　順）
全道研と教育界の激動の時を同じくして　（玉手　稔唯）
自分を見つめる機会を　（久住呂　志奈子）
造形連盟での学び　（佐藤　聖子）
友達大好き，人間大好き　（池田　悦子）
感動と喜び　（吉水　由華）
雑感　（瀧本　伸幸）
造形との係わりと思い　（矢元　政行）
回想　（柿崎　雄二）
ネットワーク奮戦記　（野切　卓）

連盟役員・委員名簿 P133
北海道造形連盟規約 P141
編集を終えて－50周年記念企画委員会 P143

遊

創

創

虹色の造形

歴代委員長の言葉
座　談　会

連盟誌発刊に寄せて

第十八代委員長　芝　木　秀　昭

北海道造形教育連盟は戦後の荒廃の中、まさに新しい学校教育制度発足等の教育改革が行われている時、昭和二十六年十一月二十四日に北海道図画工作連盟として創立されました。

初代委員長は百面相で有名な野村英夫先生でした。

以来、北海道造形教育連盟は五十年の歴史を積み重ねつつ、北海道に造形教育の輝かしい活動の足跡を残してまいりました。

創立四十周年を迎えた平成二年に、十年後の五十周年での集大成を期待して、それまでの造形連盟の活動の記録保存を目的に、四十年誌「創造の大地」が発刊されました。その中に、第七代委員長の辻悦平先生が造形教育のあり方について「造形教育のあり方が人間そのものの生き方に連なることを再確認して互いに意欲を燃やし、心と心を結び合い、はだかになって人間としての夢を探求し続けることを願う」と述べています。そして「造形教育連盟の歴史は意欲と善意と誠意によるひたむきな創造の歴史でありました。」とも述べられているように、造形活動への想いをもち、現在を生き、未来に生きる子供たちの育成の視点から、常に時代にふさわしい理想を掲げ、実践研究の花を見事に咲かせてきた北海道造形教育連盟の諸先輩に深い敬意を表するものであります。

この四十年誌「創造の大地」は三十年誌「創造の炎」に続くもので今日の北海道造形教育連盟の大きな拠りどころとなり、創立してから四十年間の造形教育の変遷と活動の歩みをたどる上での貴重な資料となっております。

そして　今年、平成十二年に北海道造形教育連盟は創立五十周年を迎え、五十周年記念誌を発刊することになりました。

現在の教育をめぐる状況は、第一の教育改革と言われる明治初期の学制発布、そして北海道造形教育連盟が発足した頃の戦後の新教育への転換時期であった第二の教育改革に次ぐ第三の大きな教育改革を迎えています。今日、家庭や地域社会の教育力の低下が指摘されていますが、学校教育においても様々な課題に直面しており、学校教育は大きな転換点に立っているとの認識をもって進んでいかなければなりません。今、学校教育には自ら学び、自ら考える力の育成、つまり「生きる力」を重視した教育を目指して「ゆとり」のある教育環境で、一人一人の子どもを大切にした教育活動を展開していくことが求められています。

北海道造形教育連盟は、造形教育の基本理念を人間育成の基本教科・科目として位置づけ、感性・感覚・感情・表現という心の奥底の生き方そのものに関わることとして研究・実践を積み重ねてきました。

したがいまして、「生きる力」の育成が大切であると言われている現在、私たち造形教育に携わる者として、さらに意を強くして実践を積み重ね、研究を深めていかなければならないと痛感しています。

このような時に、五十周年記念誌を発刊しましたが、本誌は造形教育連盟の活動の足跡を記すだけのものではなく、今日までの成果と課題を踏まえ、今後の造形教育のあり方、連盟の進むべき方向をも示唆することを願って発刊いたしました。

北海道造形教育連盟五十周年記念誌が多くの人々の手にするところとなり、造形教育連盟の発展と造形教育に寄与することを願ってやみません。

最後になりますが、五十周年記念誌発刊にあたり、記念誌編集委員の方々の大変なご努力に心からお礼を申し上げます。

道造形連盟五十年を迎えて 連盟発足から基盤固めまで

第六代委員長　高橋栄吉

昭和十三年九月軍隊から除隊した私は、札幌東小に赴任しました。早速札幌美術連盟委員長、東橋小野村英夫先生の門をたたきました。以来六年間は、東京の安井曽太郎先生に師事しました。連盟の副委員長は、新妻・赤石両先生でした。当時北光小の和田芳郎先生が、全市の研究公開授業を自ら行いました。教科書は、大家の版画、技術は注入の指導に夢中でした。

昭和三十三年頃には、東京から久保貞次郎・北川民次・湯川尚文が来道、北九条小で全国大会を開きました。創造教育造形センター、バウハウスの教育、ハーバードリード、チゼック、ローエンフェルドの本などが紹介され、札幌市では、和田・伊藤・長谷川・高橋などがその洗礼を受けました。当時東京では、美術教師の世界会議があり、日本の子どもの作品には「さっぱり生きた姿がない。技術は大人のものだ」と断定されたのです。これを聞いた赤石先生が、北大の砂田教授に語り、図工の実践授業の分析をはじめました。その後数年間は東書の分室を借りて道採用のワークブック作り、分析実験授業の報告の集積に集中しました。その後、「指導の構築」と伊東先生が称した、指導過程教材の系統発達段階と助言方法、子どもを生かす創造教育が始まったのです。長谷川・金井・伊藤・高橋等が活動し、第二回の全国大会を白楊小で開催された。

辻・白井・佐々木・吉田・森川・土岐・三谷・谷・種市・遠藤・鹿嶋・佐藤の諸先生と全道各支部組織を集めて、千人を越える会員により、創造的な子どもの姿を如実に表した研究会を実現したのであった。

来る二十一世紀には、美術教育を育てる全国大会を北海道で開く予定と聞いていますが、連盟全道一丸となって研究実践を研鑽されます様祈ってやみません。

輝かしい造形連盟 50周年記念を祝う

第八代委員長　遠藤久男

連盟本部入りは昭和40年でした。

当時、地方では道教委の広域人事がはじまり、同一校勤務がある年数を越えた教員は、他管内に移動させるとするものでした。私は昭和22年新卒で、当時の新制中学校に勤務し、昭和40年まで約19年間ですから勿論対象者でした。

こんな時、縁があって札幌市の小学校に転じたのです。

前任地（中学）時代、教育界では度々教育改革が行われ、その度毎に教育課程も変化、その都度、自校の特色ある教科課程が求められ、こんな時、連盟の発表した「学習内容系統表」「造形能力体系表」を自主編成の参考にさせてもらい、以来連盟びいきになっていた。

本部入り当時は、前述の内容系統表や能力体系表の研究に続いて、「指導の構築論」が始められていた。度々委員会があったが、新参者にはあまりにも難解でただ聴き居るばかり。ある時は、児童の作品を参考資料として、指導目標等経過説明等々……。これに対する質疑応答も堂に入ったものである。その質疑応答が熱がおびた頃、ある先輩が持っていた模造紙を張って、討論の要旨を手際よくまとめてくれる。委員には上下は無くひとり一人が研究者である意志の疎通が図られた素晴しさを感じる。委員会や部会を重ねるうちに連盟が如何に秀れた集団であるかを認識させられた。この連盟の一員として名を連らねた事を誇らしく思う。

これからも半世紀に及ぶ年月を経た貴重な財産を、英知ある情操豊かな人間育成にご活用ください。50周年を迎える本連盟のますますのご発展を祈念申し上げます。

私と連盟五十周年

第九代委員長　種　市　誠次郎

連盟は研究団体であり、発足当時から参加してきました。全道から人を集めるために、研究授業をしたのは始めの頃でした。

私は戦後の混乱の中で、教科書もなく、図工教育の中味も評価も困難で、自分なりの試案をつくり指導していました。それを荒木先生に見ていただき、必要なものだと認められました。その後、連盟の集まりで、この研究を深めることを提案すると、野村先生や伊東先生の賛同を得、皆で研究が進められました。やがて連盟が、教育課程の基本となる学習内容の系統表と造形能力の体系表を作成したことは、発達段階をおさえ、学習内容を焦点化したもので、指導のおさえとして役立てられるものになりました。そこで研究紀要として第一集（一九六七年）を出すことになり、「研究のあゆみ」として私が原稿を書きました。週一度ぐらいに集まった研究は熱気のあるものが六年間も続きました。（参考連盟支部短信、一、四、二九発行）

昭和五十二年の全国大会（札幌）では、会計として準備や大会当日十ヶ所の会費の徴収とあと仕末等の苦労など、忘れられません。

昭和五十九年に委員長になりましたが、留萌大会には加藤委員長他地域の方々の努力で参加者五六二名という数と内容のある大会となり感謝に堪えません。又、翌年は札幌大会で、札教研の協力を得て、森川先生の小学校で無事大会を終了させることが出来ました、又、函館や旭川にも大会をお願いし、特に旭川には全国大会を引き受けていただき頭が上がりません。それぞれに厚くお礼申し上げます。

今、連盟は若い方々の意欲に満ちた研究と新しい試みに取り組むのを見て、非常に嬉しく思います。現在顧問として参加しながら連盟を見守っているこの頃です。皆様のご活躍を期待しています。

虹色の景色

第十代委員長　森　川　昭　夫

「わぁ、すごい！」パチパチと一人拍手してはしゃいでいる母親を見て、キョトンとしている子どもたち。車の中で、どんどん移りゆく美しい景色を、六歳の息子とまだ二歳の娘に理解してもらおうと、私のまとまりのない解説が始まる。

「窓の外を見てごらん。すごくきれいだと思わない？　もう収穫の終わった畑の土の色、秋まき小麦の緑、防風林の紅葉、山の青、山の上のかすんだ色、空の水色に真白な雲、まるで虹のような景色だよ」

子どもたちの目もどんどん輝き始めた。「本当だぁ」と息子。娘も拍手している。良かった、私のつたない言葉のスケッチでも通じたようだ……（新聞に載っていた帯広の主婦が書いた文章の一端である）

何と素敵な母親だろう。わが子たちに美しさとは何かを素朴にうったえ、共鳴させ感動させようとしている。

物の豊かさと過保護、過干渉の中にどうしたら感性、好奇心をよび起してやれるか。子どものしらけムード、無感動、無関心、無気力、無責任、無神経。「つまんない」「関係ない」の連発に、体験を通して感動や感性をどう刺戟してやれるか。テレビ、コンピューターゲーム電子玩具、マンガからくる過剰刺戟に、どうしたら価値あることに集中させてやれるか。画一化され、知的つめ込み時代の子どもたちに表現意欲、表現することの大切さ、楽しさ、喜びをどうわからせてやるか。等と考えさせられる。

新しい指導要領は「週五日制の実施」「総合的な学習」などと、図工科の時間削減、内容の整理がなされるが、逆に枠がはずされ自由に教師の個性を発揮できる場になったと、充実発展させる途を拓きたい。

さらに、子どもたちひとりひとりの内的動機づけを大切にして、表現の場をふくらませ、行事や生活に生き生きと取り組ませたい。

二十一世紀に突入する子どもたちの為に、連盟は心の餓えに届く造形教育を進め、虹色に輝くまわりを心から楽しみ、生きる喜びを感じ取らせる教育を続けたいものである。

座談会 実践発表会

第十一代委員長 松島 輝男

連盟結成以来五十年を振り返っての座談会がもたれた。詳細はこの記念誌に載るが連盟半世紀の、ことに前半の研究活動の成果について話題のつきない一刻であった。連盟結成の裏話、研究の様子、財政面の苦労など盛り沢山で、おそらくこの全部は載せられないことになろう。司会の不手際（私である）で、最近の事や未来につなぐ期待感などにあまりふれなかったが、とにかく出席の諸先輩の記憶の確かさには驚いた。皆さんお元気なうちに話を伺えたのは何よりのことであった。数日後、S校の実践発表会に出席した。一年生の授業（図工）を主に参観した。ベテランのI教諭の準備万端整った上、温かくきめ細かな指導で楽しく活動する子供達を久し振りで見た。続いて四年生との共同授業で、人形劇場を創り上げる内容である。ニコマの授業を終えた子供達の表情に、せい一杯取り組んだ喜びが溢れていた。こんな姿を見ると、学級崩壊など、どこの国の出来事かと思える安心と期待感がしみじみと感じられた一日であった。

爽やかな港の朝風を楽しみつつ丘を登り、武揚小学校に着く。大きくユニークなテーマ塔をみつつ参会社にもなれ、大会場に入る。

正面、壇上いっぱいに輝くばかりの金屏風かともみえるすばらしいパネル。日本古来の紋章をあしらいながらも、モダンな美しさにうたれる。さながら、全道各地より馳せ参じた全員の面々の、背にかかげる旗差物の並ぶが如く、梅鉢、四ッ菱、二ッ巴等々……。向う二日間のサムライ共が技を磨き、研鑽の力を競う場にふさわしいアイディア。地元、室蘭の意気ごみもあらわれ、深く感銘する。

そのねらいの如く、熱のこもった一日を終え、測量山より、街の灯の、炉の火の、ダイナミックな夜景美を満喫する。

一九六六・七・二七（水） 晴れ

美術教育論争と実践の旅

第十二代委員長 金井 秀男

日本の教育が大きく変わろうとしている中で、連盟が創立五〇年を数えることは、何かしら意義深いものを感じます。

いま、私は『金子／柴田論争』と言う美術教育論争に注目しています。というのも、この論争には今日の美術教育が持っている課題が明確に示しだされているからです。

九七年の美育文化五月号で、金子一夫氏（茨城大）は「教育改革と美術教育―未熟の価値から成熟の価値への転換を―」という論文を発表し、戦後の創造主義教育をまるのみにした現行の美術の授業を痛烈に批判したのです。これを受けて、柴田和豊氏（東京学芸大）が反論する形で、藤澤英昭氏（千葉大）を加えて、九七年一〇月号で「戦後美術教育における"創造主義"の再検討」をテーマとして鼎談が持たれたのです。論争はここから始まりました。それからは全国の教師がこの論争に参加し、特集を二回編みましたが、それでも足りないほどの投稿があったのです。

論争の焦点は、戦後の美術教育の評価であります。金子氏は『アートがアートを生み出す。』と主張すれば、柴田氏は『私がそれをアートと言うならばアートになる。』と反論します。つまり、金子氏は近代リアリズムを基本とした"芸術知"を軸として、戦後の甘い創造心理主義と学習の方法の欠如を突くのです。一方柴田氏は私が私の美術を決定するとして、創造主義をロマン主義的精神のひとつとして捉え、子どもの自由を願った戦後の美術教育を積極的に擁護するのです。

私は久し振り論議に興奮すると共に、本連盟の実践研究のこれからは、この論争への答を出す実践の旅になることをイメージしたのです。

若い力に「連盟」を託す

第十四代委員長　鹿嶋　健

戦後まもなく発足した北海道造形教育連盟が五十周年を迎える。教職の大半を連盟と共に歩んだ私は過ぎし日々に想いを致し、誠に感無量のものがある。いまでこそ連盟は全道はもとより全国にも冠たる地位をなし、幾多の業績を上げてきたが、設立当時の苦労は並大抵なものでなかったと聞く。今日の隆盛を見るとき、新ためて先達のご労苦を偲ぶと共にその先見の明に敬意を表したい。

この半世紀、連盟は熱意と善意と誠意による、ひたむきな創造の歴史であった。常に進取の精神に富み、新しい理論の構築、新しい教材開発に心掛け、その指導方法にも口角泡を飛ばして語り合う仲間であった。また、研究を一歩離れるとこよなく酒を愛し、酌み交わしながら人生を語る仲間でもあった。この温かい人間関係と厳しい研修の中から多くの仲間が育っていった。

その多くの方々が職を退かれ晩節を全うされているが、元老の高橋栄吉、伊藤恵両先生のお元気なお姿を拝見できることは誠に喜ばしい限りである。その反面、連盟の歴史と共に歩まれた故辻　悦平先生、第十三代委員長故佐々木理温先生。ご健在であればこの五十周年をどんなにか喜ばれたことであろう…と残念でならない。

二十一世紀を迎えて人々の意識や考えも大きく変わり、学校教育も変革を迫られている。連盟もまた、これを節目に変わらなければならない。過去の実績にとらわれることなく、新たに人間の生き方を見つめ直して研鑽を重ねていく必要がある。いま、若い素晴らしい人達が連盟を支えてくれている。この若い力に連盟を託したい。そして、連盟の歴史が今後も永々に続くことを心から願ってやまない。

連盟と共に歩んで

第十五代委員長　船着　昭弘

この度、本造形教育連盟五十周年記念誌の発刊に伴う寄稿依頼を受け、本連盟と共に歩み学んできたことに思いをいたし、感慨深いものがあります。

第十一回大会に参加以来、毎年必ずの参加となりましたから、教職生活の殆どを連盟と共にした思いがします。この間全道各地の方々と交流を深め、多くの知己を得ることができ、感謝しております。

思い起こせば、余市大会で「小・中・高学習内容の系統表」、次の年の「造形能力体系表」に触発され、「子どもの造形能力とは何か」「指導の構築を具体化する」を研究主題とする一連の研究と実践に、強い刺激を受けたことを思い出します。これら研究主題の流れの中にあった苫小牧大会では、スタッフのみんなが一人三役四役の取り組みでしたが、充実感、成就感を十分に味わうことができました。

それから十年後、本部研究部長を仰せつかり、「指導の構築・第四集」を十年振りに発刊する機会をいただきました。これは、学習内容の系統表及び改訂造形学習能力表試案の発表以来、長い年月を経たことから、社会環境の大きな変転に伴う子どもの姿をみつめ直し、その立場から再改訂の作業に取り組みまとめたものとなりました。これ以後、全道の多くの仲間の数年にわたる実践と本部常任委員各位のひたむきな研究と意欲が集積されたものとして第八集までを毎年発刊できたことは幸せでありました。

人間の生き方を求め、人間の心を育ててきた本連盟五十年の輝やかしい歴史を讃えると共に、二十一世紀の日本の造形教育が北海道から始まると聞き、その意義真に大きく、より一層の発展を祈ります。

造形連盟に感謝

第十六代委員長　白井圀毅

今年もオホーツクブルーに輝く網走で、造形教育の大切さや造形連盟の温かい雰囲気を肌で感じました。

毎年、各地域の風土に根ざし創意あふれる全道大会で出会う子供達の目の輝き、会員の熱気に新たな気力が与えられ幸せです。

私の最終の勤務校である山鼻小を主会場として開催された第四十六回札幌大会も印象的でした。大会主題である「愛・感・美・遊・創」は、これまでの「心の教育」を新しい学力観に統合した「資質・能力・心」を一体化したまさに「生きる力」そのものでありました。

授業開始時刻を階段式に配置したり、「八つの扉」に分けた分科会では幼小中高の校種の壁を取り払ったり、更に、近代美術館等では芸術作品のささやきにたっぷり浸る一日を設けるなど随所に新しい趣向が実現されました。また、校種、地域を越えた全道十八支部の実践交流の場としての全道ネットワークの活動も活発になりました。

当時、学校のカラ出張、業者との癒着などの批判も時代の流れと受け止め、会の運営に誤解のないよう気を配ったのも思い出です。

造形連盟は発足五〇周年、常に時代を見通す目とひたむきな情熱で子供の感性をゆさぶり、豊かな人間性の育成に寄与してきました。これが我が造形連盟の歴史であると考えています。

二〇〇〇年には「二十世紀から二十一世紀へ～心の風景の発信を！」をテーマに函館で、更に二〇〇一年、二十一世紀の幕開けは札幌（全国大会）で、北海道の熱い思いが全国に問われます。「日本の新しい造形教育は北海道から」という日を心待ちにしています。

造形連盟五〇周年、喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。

さらなる発展を願う

第十七代委員長　吉田倭雄

造形教育連盟が五〇周年を迎えるにあたり、結成の経緯や活動の足跡を先輩顧問の方々から縷々お聞きし、戦後の図工・美術教育に連盟や先輩顧問が果たしてきた業績の偉大さを再認識いたしました。

振り返ってみると、かれこれ三〇年近く連盟と関わってきたことになりますが、巡り合わせというのか私如き者が会計部長、事務局長、そして委員長を仰せつかり在任中は自分の力不足と職責の重さに緊張の連続でした。先輩の話を聞くにつけ、果たして自分は連盟のために役立てたのだろうかと心苦しく思っていますが、有り難いことに常任委員各位のご厚情に支えられて大過なく務めることができました。

大会長として参加した一九九七第四七回全道大学は、長年にわたる根室造形教育連盟の熱き思いが実を結んだ、連盟の歴史の上でも意義の深い大会でした。ちょうど現行教育制度が五〇周年を迎え、新制中学がスタートして五〇周年の年でもありました。中央教育審議会の答申、教育課程審議会の中間まとめ、教職員養成審議会の答申もあり、二十一世紀を展望した新しい教育の在り方を巡って教育内容の厳選統合選択と言った学校教育改革の動きの中にあって、造形教育が人間育成の基本を担う重要な役割を果たしてきたことを自覚し、新しい時代にむけて造形教育の理念を再構築することが迫られた大会でもありました。

課題であった二〇〇一年の全国大会開催も、顧問や常任委員会委員総会の賛同を得て決定することができ、次の時代へつなぐと言う私の役割をなんとか果たせたのではないかと安堵しています。

幼小中高の優秀な実践者が結集している本連盟が、全国大会開催を通して低迷する全造連の活性化に貢献することを期待しています。

座談会

連盟五十年をふりかえる

と　き／平成11年11月2日　午後2時～4時
ところ／三川屋会館

出席者

高橋　栄吉／第六代　委員長
伊藤　　恵
長谷川　傅
種市誠次郎／第九代　委員長
森川　昭夫／第十代　委員長
松島　輝男／第十一代委員長（司会者）
佐藤吉五郎／　〃　副委員長
金井　秀男／第十二代委員長
鹿嶋　　健／第十四代委員長
船着　昭弘／第十五代委員長
白井　園毅／第十六代委員長
吉田　倭雄／第十七代委員長
奥野　郁男／　〃　副委員長
芝木　秀昭／第十八代委員長
土岐　禎次
三谷　哲司
五十周年企画委員
今　裕子・小林　充裕・植木　則子

司　会　昭和二十三～二十四年、連盟のはじまった経緯についてお話下さい。

伊　藤　草創期は二十四～二十六年頃で、二十四年に偉い先生を呼んで絵の講習会みたいなものを開きました。会長が藤野さんで副会長が野村さんで、名前は、美を育てるで札幌美育連盟ということで、教育大学で旗上げして、講師に松田先生をお呼びして、みんなにお知らせして、みんなが集まってそして習った。そうそうたる人達が集まってくれました。二十五年には研究授業をやっていて、その研究授業をやったのは、僕と石川さんと三谷哲司さん。ここに居る、この三人で授業やって、何で授業やっているか僕ら自身わからなくて、わからないでやっていたらみんなが集まってきてすごい賑わいだったの。それが第二回の美育連盟の会だったの。第三回、昭和二十六年が連盟発生の年になっている。確かそうなっている。それが二十六年の十一月にやったのが最初ということになっていますが今だから言えるのですが、教育大学の佐々木教授がここへ来ていきなり連盟の会長にさせれと言って大騒ぎになって、藤野さんが降りると言って、藤野さんの上にその教授だかがきたの。かまわないでおいてくれればそのまんまなっていたのが、その人が口を出したのしかたないから佐々木教授を会長にしたの。その後、会計を一手にやっていた野村さんが

やめて、そしてもう一回組織をせざるをえない状況が起きたの。それはね、図工のワークブックっていうのかな、図工の学習というお手本みたいなものを作ろうということになったの。作るためには図工の先生集めなきゃなんないということでそれで何人か集まって、その時に、全道に呼びかけて新たに連盟を作ったの、それが二十六年の十一月二十四日だと思う。そういうことがありました。

司　会　だいたいその頃の方お亡くなりになったような感じがするのですが、そうでもないですか。

長谷川　その頃の人、栄吉さん居たよね。

伊　藤　居たのか

高　橋　居たよ

伊　藤　ごめんね（笑）

司　会　その後も研究を続けて、北海道造形教育連盟と名前が変わりますよね。

種　市　図画工作連盟から、途中から

司　会　その第一回の大会が金井さんの所で行われたんですよ。

金　井　いえいえ違います。

司　会　違うの

伊　藤　ここに書いてあるよ。八月に図工の学習編集になっているよ。

種　市　連盟作る為にね、私が二十二年に北光小学校に行ってね。そこに和田先生が居て和田先生と同じ学年になって和田先生の指導を受けたんですよね。私は師範学校に居た時図画版に居たので、和田先生も絵を描いていて、道展にがんばっていて意気投合して、おまえがんばれとか言ってね、ま、そんなことで連盟を作る為に全道から人を集めなければならない、その時に何か理由ないと人を集めるのにうまくないからおまえ授業やれと、北光小学校の二階で私が授業やらされた。野村さんとか来てね。授業の後会議やってね、連盟の基礎ができて、人集めのダシに使われたというか、そんな協力をした記憶があるね。

高　橋　二十六年の年だったと、チョット忘れたけど、世界の美術者会議があってね、高橋おまえ行けと野村さんに言われてね行ったよ、絵を持ってね。保育園の先生が北海道から行った。小学校四十八県、小学校、高等学校大学の先生も居て、都道府県全部集まって、文部省も後援したらしい。東京の麹町の学校の運動場借りて、小学校から順々に絵を並べたでしょ。外国の先生が、女の先生も居て批評していたね、通訳ついてね。『日本の小学校中学校、大学、保育園とその絵は子どもが見えてない、技巧は確にうまい』とそれはもっともな話で、手本が中心の絵ばっかりの教科書だったから、それを真似するというか追求するというかそれを一生懸命やったから、それが後の指導の構築の基になったんだな。昭和二十六年頃だから。それを報告したんだ。さっぱり子どもが見えてないと、児童画に子どもが見えてないと。十八歳の子どもだと見たみたいだとね。それでギャフンとしてね、これは研究しなきゃなんないと、ショックで発想のひとつになったね。

金　井　今話してるけどまとめるのなかなか難しいよね。五十周年になるでしょ、どこから数えて五十周年になるのか。だから二十六年の十一月の十四日が発足の時期と考えなきゃいけないの。その前にいろいろな準備的な事柄が有ったんだと。高橋先生のお話の様に本州のような教育の動きが有って、そして教育大附属を中心にした研究をやろうじゃないかというのがあった。もうひとつ学習帳の編集という動きがあってそれぞれの教科連盟が全てワークブック作りで連盟ができたと言って過言でない。最初は国語ができて社会科ができてと言うようにワークブックで、それを教育評論社が後押した。そのことを桜井さんが詳しく書いてる。今、高橋先生がおっしゃった事柄がやっぱり美術教育のインパクトになった。同じく全国的には、創美が生れた時期と重なるんだよね。その創美を呼ぼうじゃないか。二十六年に一回目の研究会やったけど今の様な研究会の規模でないの。組織的にやったのが第二回で曙小学校だった。創美の久保先生を呼ぼうということになったけど忙しくてこれなくなり、この時は、湯川さんが

授業をした。お話の絵という。そういうお話を湯川さんから聞いてメモしてたんだ。

種　市　あの授業みたけど、黒板にねこが描きやすいように絵描いてね、それを見せていたの記憶にあるね。

長谷川　描かせるというようなことがたいした重大な問題でなくて、その作品を全部体育館に貼ったんだ。そして全員がそれを見ながら「あなたはどの絵がいいと思いますか」というのをやった。野村さんや新妻さんは、北海道はレベルが高いからいばってやれって言ってみんなやったんだ。みんなペケ（笑）そんなことが有って、僕は脱退者だから全然参加しないで湯川さんのまねしてたんだ。

三　谷　久保さん来たのその頃でしょうね。

金　井　久保さん来たのは大会でなくてゼミナールの時で、神宮のね。

種　市　毎年講師を必ず呼んでね。一流の、優秀な講師が来て毎年勉強だった。

司　会　二十年代は、旭川で函館で釧路でと毎年大会をもって移動しながらの大会が多かったですね。函館に北川さん来てたのかしら。

金　井　そう北川さんいらしてたね。

種　市　メキシコに居たんだよね。

司　会　そして、昭和三十一年になって全国大会が始まった。この頃の事お話いただけますか。

長谷川　あの時、曙が小学校部会で、啓明中学が中学校部会ね、それから高校が南高。幼稚園が、中の島幼稚園でないかな。縦に並んだ形で会場設定して、あの時、それぞれ部会に別れて会場運営やったんだわ。

三　谷　その時の一番のメインの講師は

金　井　今泉さん、

司　会　井手さん、

金　井　みんな有名な人だよ。

伊　藤　この年はみんなでやったので「つくり出す力をどう理解したらよいか」という材料に対する抵抗をね、全市あげて調べた。何か、生まじめでね、今考えたらバカみたいなことやった。針金どれくらい力入れたら曲がるかなんてね。

長谷川　暮らしの手帳の別冊で特集したんだよ。伊藤恵さんの原稿で。

伊　藤　いやーそれは。

長谷川　クレヨンの原稿問題と。

金　井　どれが筆圧かかるかとかね、何グラムでなんてね。

長谷川　あれは説得力あったんだよ。あれで文部省低学年から絵の具を導入していいということになったでしょう。

伊　藤　いがいとねクレヨンみたいの力がいるんだ。そういうことわかったのね。それとかんなをかけたりするのがわかったの、どれくらい力いるか。そしたら、雑布あれば力いらないってわかったの。だから上手な人がかんなかけた時の力だけ計って、これを中学一年生でも出来ると判断するのは間違いでないかという問題も出てきたのね。ハサミ使うことでも、手の力はハサミを動かすのに十分な力はあっても慣れていないとスイスイと切れない。そういうことが力があっても出来ないという場合があるってことがはっきりしてきたの。

金　井　ただあの頃は、科学的に物を考えてみるという、先駆だったと思うね。実証して行こうという。共同的にワークというのはこういう方法の形がいいんじゃないかという問題を提起し、こういう問題だけでなく理論闘争だけをやっていたということだったんでね。それが能力体系表とか指導の構築とかにつながっていったと思いますよ。

長谷川　あの頃は、文部省に物申すというのが連盟の主体だったの。今は、文部省に従っているしょ。まったく根本的に逆転して、クレヨンが復活したのと同じだ。あれから、日本中の美術教育が堕落したんだ。

司　会　三十年代の真中頃から連盟というふうに称するようになりましたね。帯広で。その前三月の総会で「北海道造形教育連盟」と改称しました。

金　井　あの頃連盟っておもしろくて、連盟って札幌だけやっているんじゃなくてね、かなり地方と深く連携しあっていたんですよね。発足当時の委員の名前なんかも、地方の人が

たくさんいてね。空知で伊藤将夫さん。石狩が辻悦平さん。そういう周りの人達が集められて委員総会をやって全道の絆を深くしようとしたの。その中でも有名な人いた。函館は理論家の人。網走の人は、新聞なんかに投書する人だったの。函館はその他に佐々木さんという人居たよ。帯広は、平塚さんがいて。釧路は小山田さんという人が居て、今釧路はこの人の息のかかった人がずっといて、こういう人達といつも出会いながら、会合やってこの人達の意見を開陳し合うのが連盟として非常におもしろい会でもあった。今の様な結果報告ばかりでなく、意見をどんどん言う人ばっかりだから。

伊　藤　たとえばホテルアカシアが南三条くらいの所にあって。そこで、みんなが集まってきて本気で研究発表していた。あそこの会場使えなくなって、いつのまにかなくなっちゃったのね。みんな来たら経過報告みたいの聞いて役員改選して一杯飲むようになったの。

長谷川　そうだね。

司　会　そういうことがあるから毎年各地方で大会をもってもらえたということですね。三十年代はいかがですか。全道大会の網走、滝川とありまして

長谷川　あの頃は、全道に連盟の声を届けるために能力表を検討したり、それで地方から実践した声が戻ってくる。その内金井さんが伊藤将夫さんと構築を企んだ。

金　井　三十年代は、各地区のそれぞれの委員が中心になって大きな研究会を開いた。小樽でもそうだった。工作も入った大きな研究会だった。帯広の研究会も大きかった。室蘭の研究会もまた大きな研究会だったね。そういう様な規模の研究会がずーっとほどなく過した。その中では、本部の役員が地方にものすごく働きかけたことは確か。これは野村さんの働きや、新妻さんの事務的手腕だと思う。僕が別海に居た時出会った。野村さんが来て組織のいろいろな人を地方に送りこむわけだ。伊藤恵先生とか長谷川先生など。こういう人いるから会ってくれとか、授業やれとか、スタンバイをして、出版社が応援したり、業者が応援したり、そういう流れだったな。

船　舞　そういう勢いがあったから、その時期に都市部でない余市でも会ができたんだね。

金　井　大きな都市を回って、一巡するのが三十五年まで。函館から始まって旭川、小樽、室蘭、釧路とか回って、大き都市がなくなっちゃったんで一番先に、中都市の滝川にくるのが、昭和三十六年だね。十六回だね。地方が最初に始じまった。そして余市だとか、名寄だとかに移っていくんだね。

司　会　能力表をつくったんですが、どんな人達が、おりましたか。

種　市　ここに居る、長谷川さんとか、高橋さんでしたね。

司　会　出版社の分室で。

種　市　そうそう、伊藤将夫さんとか、毎日じゃないね。一週間に一遍。なんだか毎日集まった感じしたけどそうじゃない。二回位集まったね。そして障子外して、壁に紙貼ってね。

高　橋　みんな実践したことを報告するんだよ。伊藤将夫さんが「指導の構築」という名前つけたんだよ。教材の系統化と、指導過程それと発達段階この三つを眼目にして指導の構築という名前で、五～六年続いたかい。第六集が出たんだ。

種　市　三十五年から四十一年ぐらいまで、毎週集まって指導の構築に辿り着いたんだよね。

高　橋　出版社の分室でね。

種　市　あそこに集まってやったもね。みんなでやったんですよ。

司　会　僕らも出た記憶はあるんですよ。

種　市　そうでしょ。ほとんど古い方はみんな出たんではないかな。

司　会　何か食べる物もあまりあたらず手弁当の感じがするね。

種　市　新指導要領が三十六年に出たんです

よ。その段階を迎えるために、帯広大会ね。新段階に向ってどう進んだらいいか。そこから始まって連盟のカリキュラムが、いわゆる三十五年に出来たんだよね。その為に教育課程を編成して、出版社とタイアップして連盟の教科書みたいなものをみんなでつくり、その基本になるものが能力表であり、学習内容の体系ですね。それでカリキュラムの根本をつくって、それを改訂していった。

司　会　その成果が指導の構築という冊子で続々と発表された。

種　市　これが一冊目なんですよね。この表紙は、伊藤暢紀さんがデザインしたんだ。

高　橋　六冊出たのかい。

種　市　これが一冊目なのね。第一号

伊　藤　四十年くらいかい。

種　市　四十二年。これが一番早いのね。それから毎年でないけれども、何か五～六冊出た気がするね。

船　着　全部でね八集出てます。

高　橋　八集出てるの。

船　着　間に「造形あそび」が入ってるのね。

高　橋　八集ってことは、八年間出しているのか。毎年出してるのか。間に二年に一回くらいってこともあったか。

伊　藤　あんまりね題名が一般的でよかったもんだから、次の人が変えようと思ってもね変えたら結局そこへ戻ってくるのね。だからしかたなしに同じ題名にして、何年か同じ様なことやってたの。

高　橋　ハーバード大学の先生の発達心理学をもとに、実際の授業分析やってね。我々の学校でやったのを指導の構築に報告したのね。合わせてみたら、だいぶ合ってたんだよね。しかし欠けたところもあったぞ。発達心理学の訳本が出たんだ。それと比べてみたんだ実際のものと。ベースラインとか金井さんが言い出したんだよな。ベースラインというのはなかなか見つからなかった気がした。あとは、だいたい似てたな。

金　井　造形が教材として誇れるのは、側面に発達段階という科学的根拠が有るということなの。そういうのは、ヨーロッパが席捲してた。美術教育はその上にのっとって教育が営まれていた。日本の場合そういうものがなかなか入ってこないで模索していた時代だった。二十年代。三十年代前半はカリキュラム化はしていない。ただ民間運動的なものであった。それで連盟は能力表的なものと発達段階的なものを結びつけてみようと考えて三十六年から七年にかけていろいろな試みをやった。それが生きているのが能力表というもので。ヤクルトソンなどの雑誌で出ている考えを、かすかな情報を紡いでいった時代だった。そういうものが全世界大会までに話し合われていたから、子どもの空間の認識の中で一番問題になるのは絵だったら上下といえばベースラインじゃないかと、基定線といえばベースラインとそのまま直訳したんだね。ベースラインて何だと言って連盟の中でもわからない人いたんだよね。（笑）

三　谷　終戦まもなく、チベットなんかの本が謄写版の本で、そういうので二十年代に出ている。そういう中の動きとして、もうちょっと古い時代からで、それがまだ体系化していなかった。それを我々なりに体系化したのをあてはめたんだね。

種　市　それは、三十九年だね。

司　会　大会がある日突然と言ったらおかしいですがゼネラル形式になったこともあったですよね。札幌神社に泊りこんでやりましたね。

長谷川　連盟だけでなく他の会と合併してやったから、場所がないから神宮で合宿したんだね。

金　井　それは、伊藤将夫さんが委員長だったんだね。能力表ができて、能力表をカリキュラム化するために指導の構築というそういう考え方をもってカリキュラムしてみようと

いう動きだったの。あるいは単元化してみようという動きだったわけだから。そうそう。それと一緒に、北海道の教職員の団体の研究会もマンネリ化しはじめたね。さらに、気分的に経済的にだんだん豊かになってきたもんだから、みんな出なくなったような時期と重なりあっていたんだよね。一番困ったんだろうと思うね。神宮でやる時に、あういう所の会場だし、ゼミナールのような方式でやろう。いわゆる車座になって勉強しようということで、その夜、単元はできたけど実際的に指導法みたいなものは、まだまだ確立されていなかった。それで小学校の場合、青森の先生をお呼びして青森の実践的な先生を四人、版画をやっている人とか。そういう人達を呼んでそのことをみんなで絵を見合ったり、指導の具体的な手法などを交流し合った。あそこでは斉藤さんなんかが会場係で一生懸命お仕事をなさっていたのをよく知っている。あそこでは、函館の凧の先生だとか、文部省の人達もたくさんきて今迄とやった研究会と違った形の研究会をもてて、いい印象だったね。

司　会　よかった。評判よかったですね。

種　市　内容がよかった。

司　会　来た講師も、誉めていたですね。

種　市　神宮写生会を私が、前田宮司に頼まれて、やっていたものだから、あそこの会場聞いてみたら、全館神宮全部使っていいという。本殿まで全部宿泊できて。借りれて。

司　会　危機があっても大会は、その後続いたんですね。どういうわけか、財政的なことも。

金　井　ある意味で、きちんとした形で会計簿に基づいた形で、どこの連盟も同じ様なことやって、財政が確立した。それで元に戻った。

司　会　それと並行して美術展なんかでの協力金も大きかったのではないでしょうか。

伊　藤　栄吉さんが委員長やっていた頃でないですか。

高　橋　六代目か。伊藤将夫さんの次だ。

長谷川　伊藤さんが我々の力でやろうと言い出して、等間隔でつきあおうと。栄吉さんの時代は、悦ちゃんが金集めしていたみたいだよ。

金　井　連盟を奇麗にしたのは、伊藤将夫さんで、純粋に研究をやろうと。しかし財政が破綻しそこで運営的な力を発揮したのが辻悦平さん。その頃、全道の教科書も地域で違っていた。

　あの頃は、指導の構築は小学校ばかりでなく中学校もやっていた。中学校は教科の性格からいって、もっときちんとした教育内容を整備しなきゃならない。色と形の認識ていうのは中学校だけできちんと立派なものを出したの。これは連盟の中に位置づけて記録しておいてもらわなければならないと思う。

三　谷　これは、全国的にも高く評価されたですね。

司　会　安定してからの研究面は、そろそろ我々の時代になるのかな。

三　谷　中学校の方で言うと、文部省の指導要領の改訂で各学年、2・2・2・2だったのが2・1・1になるというのがあって、これはだめだと、連盟の力を借りて反対運動した。2・2・1までしたんです。こういうのを連盟の力を借りて全国的にも組織的にやったのは北海道だけでなかったのかな。そういう事がありました。自分としては重大な。

長谷川　中学自身で戦うってね。中央創成がまだあって、中央創成で会議して徹底的に応援するって言ったけれども、哲夫さんが中心になって東京に行って掛け合ったりいろいろしたんだよね。あういう運動が連盟の本当の仕事だなーと見てたんだよね。

金　井　教育美術展が生まれたのは、社会的背景があるんだよね。それは、ちゃんと覚えておかなければならないことは、その頃は、拡大宣伝だとか景品つけちゃいけないというのがあって、景品出してた展覧会やらなくなって、道展の方も、教育的になにもないじゃないかという動きがあって衰退の一途をたどっていたの。問題が二つ重なって、じゃどこに子ども達の展覧会の場所を作るかと言うこ

とになって二つしかないのね。一つは全国教育美術展と。世界児童画展かな。この二つしかなかったの。それは狭き門であって、大きな働きができないじゃないか。全道的に大きな試みをもった展覧会どうしたらいいかと言うことで、北海道だけでやろうということになって、展覧会が生まれたの。それと一緒に嬉しいことに三浦さんが地域のためにということで会場を提供して下さり、そういう好意で初まったんだな。子どものために教育的仕事出来るというのがメリットあると考え、教育美術展を後援してくれたというのが発足の動因であったと言うことですね。

種　市　その頃子ども道展というのやっていて、一万点か三万点で全道規模でやっていた。道展が文化を向上させるためにやるのは、大人だけでいいということになり高校美術展、子ども美術展もうやらなくていいって総会で批判したんだ。やめたのと連盟で何かというのがちょうど一致して、地盤そっくりもらってうまくいったのね。その切り目に居たのが吉五郎さんだったよね。だから子ども道展の印も持ってるわけだ。我々両方つながってうまくいったという。一年も休まないでちょうどうまくいった。私は、子ども道展もやっていて高橋さんもそうだけど連盟でその続きをずっとやっているという結果になったわけだ。

司　会　ということで研究も仕事も安定してきたことについては今居らっしゃる方が御存じですし、お話するまでのことでもないと思います。御発言なさらなかった方に一応エピソードで結構でございますから、思い出をお話いただけませんか。

土　岐　私が連盟に入れていただいた切っ掛けは、昭和三十一年に札幌で、学校でのほほんとしていましたら招集がかかったんですね「おまえ記録にあたっているから幌西小学校に来い」と、当時、伊藤将夫先生が記録の係長で、当時、私勤めて間も無いものでしたから造形連盟の仕事も何も知らなくて、お伺いしましたら、あの先生は頭がよろしくて簡単明瞭にお話されるもんですから「まこうこうこうだぞ」と、「当日はここへ来いよ」と。あの時の開会式はスポーツセンター。昭和二十九年に国体がございまして、出来て間もない会場の前に集まりまして、大会の開会式と総会の会合に出させていただきまして、もちろん教育と言いましても、内容についても十分でないですし、今でもそうなんですけど、記録を出して、あの先生がうまくまとめて下さったのではないかというふうに思います。その時、まず造形連盟ということについて深く感心したのは、入っていって、みなさんで集まっている中で、非常に人情が有るっていうことなんですね。我々の様な初心者を大事に可愛いがって下さった。この連盟から抜けられなくなったひとつでないかと。人情が有り情熱という風なもの。学生として現場に入ってまいりまして、当時の学校というのは、今の学校がそうでないと言うわけでないですが、ひとつの活気のある頂点のひとつではなかったかという風に思うんですね。情熱の下にまた熱がついて熱気という風なものも感じてた。私が教育したということでなく、連盟の集まりの中でいろいろなことを教えていただいたということで非常に感謝を申し上げ、今日の集りも、発言するというよりも、あの当時のお話を聞かせていただきたいなという気持ちの方がありまして参加させていただきました。研究部なんかに入りましていろいろと仕事をしたというより足を引っぱって、初心者を特に小学校の先生が中心になりまして全部美術とか図工とか図画の先生ではない、そのような先生を、どのように指導したらよろしいか、いろいろと研究されているということともうひとつ啓蒙するということに力を感じさせていただいたこともひとつです。私当時、パークホテルの所に有った中島中学に入ったんですけれども、中学校で教えていく、例えば、長谷川博先生の息のかかった生徒さ

んだと言うことが机間を周ってすぐわかるんですね。これが小学校の先生の授業といいますか、指導の力ということ、これをいかに伸ばしていくかという風なこと、そして次にどのようにつないでいかなきゃなんないか痛切に感じさせられました。少し長くなりましたがありがとうございました。

森　川　私も連盟で育ててもらった一人です。非常に連盟は居ごこちのいい所だと今思っています。単に造形教育の親交を図るため、たったそれだけなんですよね目標は、そして、みんな主義主張があったにもかかわらずそれらを全部ひっくるめて一生懸命というのは心の深い団体だなーと思います。幼稚園、保育園、小中高大まで入っている団体って珍しいと思います。芸術性ばかりに目を向けるのではなくて、必ずそこに子どもの顔が有るという。教育的配慮という言葉が入って、みんながそれで輪になってわかりやすいんでないかと思います。連盟のいい所というのは今までこんなに立派になっていくというのは地区とのつながりが強いという、これも忘れてはいけないことだと思うし、ただちょっと残念なのは立体造形展なんとかなくさないで守りたかったなということ。僕が居た時になくなってしまったので非常に残念に思います。あれを何らかの形でできたらいいなと、これからの人達にお願いしたい。

佐　藤　造形連盟という名前聞きますと、私も教員をずっとやっていて、やらないと参加できない、やらないともの言えないというそういう事がはっきりわかったのが造形連盟です。ですから、今でも時々夢みましてね、最近暇なものですから夢みるんですね。連盟で出版社の寮で、栄吉先生がでっかい紙貼って、マジックで書いてみんなで読んで書いて伊藤先生はおにぎりかじりながら、ポソッともの言ったり、ああゆう場面がいつも思い出されて、あの場は、授業を通して子どもと何かして、どうやってきたかを中心に話していた。明日からどうしたらいいかも話していた。あそこで話したことは、さっそく次の日授業で試すことができたという。ああいう研究の場というのは連盟しかなかったなーという感じです。やってない人はものが言えないし、やった人は、どうなんだ、自分のやったことがどうだったか聞けるただひとつの貴重な場面だったと思っています。今でも非常に貴重な、教員としての一生の中で、あの場面が無かったらどうだったかなーということをいつでも感じております。

船　蕃　私が造形連盟にかかわらせていただいたのは、三十六年の滝川第一小学校での大会。確か金井先生がいらっしゃった。それ以来お世話になって、連盟に育てられた男の一人として半世紀を迎えた連盟に感謝したいという気持ちで参加させていただきました。その間に研究部の仕事をさせていただいて先程話題に出た指導の構築の続きを作れと辻先生に言われて、みなさんの力を借りて、四集から八集まで作らせていただいた。お金がどういう風に有ったのか、補助が有ったということですけれども、詳しくわかりませんが、そういう準備をしていただいて携わっていただいたということが、私にとって思い出に残る記録になると思っております。これから先また二十一世紀札幌から始まるようですけれども、連盟が益々発展していくだろうという期待を込めて見守っていきたいと思います。ありがとうございます。

鹿　鳴　みなさんだいぶお話になったんですけれど、とにかく連盟という所は非常に人間的に温かい所ですね。私連盟に入れてもらったのはだいぶ遅かったですから、確か羊丘小と東山小で全国大会やりましたですね。その時に種市先生の会計をお手伝いしたのが初めてでその後、研究というより事業の方に席を置きまして、教育美術展のちょうど四・五・六かな、その頃白揚小学校で寒い思いしなが

ら頑張ったのが若い頃の思い出として今残っています。十四代目の委員長を務めさせていただいたのですが、その頃は、地方の研究家が、先生方が活動家がどんどん出てきて全道的に連盟の研究活動が拡がっていったと。私が居た頃は、その活動した方がだんだん退職された時期にあたりまして、その先生が退職されるとその市がダメになって、そういう時期にあたりましたものですから、室蘭だとか帯広だとか研究大会お願いするのが大変だった。どこもない時は、札幌に持ってきて、札幌には大変迷惑かけたかと思います。とにかく連盟に支えられて今日まで来たとこういう風に思っております。本当にありがとうございました。

白　井　みなさん言われる様に連盟に入っていて良かったなーと思っております。感謝しております。印象に残るのは、事業関係が多かったのですが、教育美術展が始まるという時には、もう組織が、松島先生が事業部担当ということでおひとりだったんですよね。松島先生が提案なさって全員が取り組むという様なやり方だったと思います。その時に集まった作品の梱包したものを解くことから始まって丸三日間かかって審査いたしました。それで無駄な時間もけっこう有りますし、どうしたら効率よくできるのかということで、松島先生としょっちゅう話し合いして、用紙作

ったらいいとか、こういう手順でやったらいいとか、とにかくよく話し合って実行に移したというのが残っています。その話し合いというのも一杯飲みながら、飲み屋で話し合って、それをまとめていって実行に移したというのが印象に残ってますし、最近では教育美術展も研究の一環としての位置づけを明確にして、審査をしながら我々も勉強しようじゃないか。そういう方向が打ち出されてきていい美術展になってきてるなーとそんな風に感じます。

奥　野　みなさんも話されておりましたけど私も、初めて連盟に入れさせていただいたのが滝川大会でしょうか。三十六年でした。右も左もわからない中でお付き合いさせていただいて、本当にいい勉強させていただいたなと本当に思っております。ただ白井先生ともよくお話し合いしたり、いろんな事が有ったんですけれども、先程から出てます能力表の時も、一生懸命出版社でもって夜遅くまでお手伝いしたのも覚えております。私ども、どうしても中学校の場合、連盟のあり方と連盟の中学校部のあり方と中学校の持っている札教研というもののあり方とそれから、全道大会かな、確か白揚小学校に来た時に、確か私ども方で坂田先生が部長さんでなかったかと思いますが、組織的なことでどの様に位置づけになっているかということがわかりずらい。札造連が出来たいきさつも陰の方から話し申し上げたのですが、組織をきちんとしていかなければ、これからは若い人を育てるということを考えた時に、ちょっとうまくないんでないかとお話をさせていただいたんです。やはり、連盟のもたれている中学校部の部としてのあり方、特に育てていただいたんですけれども、これから若い人を育てていく時の有様というものを考えた時、みなさんのお話されているこの温かさプラスやはり力量を我々が試される、そういうものを伸ばしていけるという場を若い人に結びつけていくかということが大きな問題になっていくだろう。益々年代的なものがひらいていっています。若い先生は、ある意味でビジネス的な感覚できている先生が多くなってきていますので、そうゆうあたりどの様にしていくとよいのか。また、北海道を一つにしていく、それから発信地になっていく連盟の強さを大事にしていく時でないかなと思います。微力ながらお手伝いさせていただきたいと思います。今日は本当にいろいろどうもありがとうございました。

吉　田　みなさんお話なされたんですけれども、私、連盟というと印象強いのが人との出

会いなんですね。みなさん何時から連盟に入ったというお話がありましたが、私は何時からなのか定かでなく、旭川で研究大会有った時いつの間にか私は連盟に入りなさいと言われた覚えも入った覚えもないのに提案者になっていたりとか。全国大会有った時には授業やりなさいと言われて、なんとなく、私自身は何時から連盟だったのかな、はっきりしない様な状態で、先程から話されている人とのつながりとか温かさで今日まできた様な気がします。その中で、これはという事は一切していないんですけれども、白井先生の後を引き継いで、次の今の芝木先生の新しい時代へ何とか橋渡しできたということが、連盟での私の唯一の仕事でなかったかと思っております。ありがとうございました。

司　会　一わたり御発言いただいたのですが先生方何かございませんか。

伊　藤　今までと、何の関りもないんだけれど、連盟でいろいろな有効な表をこしらったんですよね。後から見ると、僕だけかもしらないが、僕は今見ると時々わかんないんだわ。いろいろ読んでるとわかるかもしれないが、読む気もおきないし、こんなの一生懸命やったなーっていうだけで、何か本というものの空しさを近頃感じているね。これからの若い人に、こういうこと言ったら勢い出ないと思うけどね、表っていうものは全部ふさがなくてもいいんでなかったのかなって思う。無理にふさいだところがけっこう有る。ここはこうやって書いておけ、このぐらいでちょうどいいぞというので、結局知恵をしぼっている様だけど、あんまりしぼってないんだよ。本当にわかっている部分が有って、わからない所も有るんだよ。世の中には。ところが、わからない所を好い加減にふさいでしまう為に、後の人が見た時に我慢するんだよね。あーこうなのかと。だからわかる所だけ書いてね、わかんない所はうっちゃいといてね、後のやつはここはこうでないかと、だんだんふさがって発展する表というか、そういうもの出来たらいいんでないかなと思う。あんまり、これから作る時、頑張って無理してふさぐ必要なかったんでないかなと、前から感じているんだよね。ダメかもしれないけれどね

司　会　ありがとうございました。後ございませんか。

種　市　表の話だけど、表にしてしまうと言葉数が限られるから、後で読んでみてわからない所出てくるのだけれど、作っていく時は話し合って「そうだ、そうだ」ってその時はわかっているんだけれど、後でわからなくなるってことあるね。だけど、大変立派な表なんで、あれをもう一回反芻してほしいなと、これからの方が、能力表だとか学習内容だとか指導の構築だとか、表の部分もそうだけど、人間性を育てる造形教育のあり方という最初の根元のところの考え方、大変大事なんですよね。それを具体化する為の考え方、能力表で言えば、指導の側にいろいろあるんだけど表を見ると、なるほどということがたくさんあるんですよね。幼小中高と発達段階がきちんとしているということ。幼の次に高校までうまくいくように考えていたとか、人間性の問題だとか、どういう風な子どもを育てるとか、ねらいがはっきりしているとか、ひとつの授業をとってみても、一番始めに発想の段階、その次、授業の中で計画する能力。その次、大事なのは技術の力。ひとつの授業を見ても始めに子どもが発想して計画して、そして技術を使ってと、授業の流れまで考えた表になっているわけ。基本がちゃんと出来ている。そういったものを押えてほしいなと思うんですけども、後から見ると、それを使う側にとってみると使いづらいのかなと思うけど。もう一度言いたいのは、指導の構築に至る、能力表の最初の人間「どんな人間つくるのか、どんな教科であるか」教科性の問題であるとか、教科性が今うすいと思うんですよ。図工教育が、造形教育そのものがあまり重要視されないと。本当は大事なのに、教科性をもっと大きな声で言う必要があると思います。そういう面で造形能力だとか、指導の構築だとかそういう面でどんな人間を育てる、造形教

育とか芸術とかというものはどんな子どもとの関係があるとか、発達段階に向ってよく見つめて、発達段階にあわせて指導しなきゃならないとか、そういう事をしっかり書いてあるわけですよね。できれば、ひと通り目を通してもらうと後の時代の方もひじょうに何か役に立つものか有ると思っています。

長谷川　今まで立派だと話されて都合悪いんだけど、あの能力表できちっとした為に、子どもを見なくなったね。こういうもんだって。ところが、今の子ども見てると大学まで子どもなんだね。幼児期から毛がはえて大人になっただけで、何も育っていない。そっち側の部分が連盟の今度の五十年誌のこれからという所にきちっとうたっていかないと、人間心の状態が段階を追ってこうなりますよって、今迄は通ったけれどもこれからは、さて我々何を考える。子どもからの提案ということを連盟ではどう受けとめるんだよと先生方に指導していかなければなんない。そういうことを編集の後半の部分について編集の人がみんなで考えるんだろうけれども、種さんが言われた今迄の仕事とと四次元的な後半の部分、そういうものもう一度練る必要あるんでないかい。

種　市　うまくつながっていけばいいんだけどね。

司　会　先程、能力表の功罪を深くつきつめて話し合っていただければよかったのですが零してしまって申し訳ないと思っております。

三　谷　私は、もうここで発想の転換をする時である。今、長谷川先生が言われて、ですから、発想の転換をしないと教育は壊れると思います。

司　会　お約束した時間がチョットオーバーしたようですが。お話してるうちに、いろいろな仕事に関って早く亡くなった方、辻さんとか佐々木さん山本金次郎さん大変惜しい方がたくさん亡くなっているので御冥福を祈りながら終りたいと思います。どうもありがとうございました。

北海道教育造形連盟発行の冊子「指導の構築」

リサイクル造形

もうひとつの自転車

あゆみ

50年の時を超えて～

連盟50年の歩み

年	回	開催地	テ　ー　マ	委員長	備　考
1949年			（札幌美術連盟組織　全道図画工作教育講習会）		
1950年	第１回		情操教育の一環としての本道図画工作教育の進展を図るため		北海道美術教育会と改称 第1回全道図画工作教育教育集会
1951年		札　幌		第１代 村野　英夫	北海道図画工作連盟創立
1952年	第２回	札　幌	図画工作教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について		
1953年	第３回	旭　川	美術教育の指導とは何か		
1954年	第４回	函　館	図画工作教育実践上の諸問題について		
1955年	第５回	釧　路	図画工作教育における学習指導上の問題の解明		
1956年	第６回	札　幌	造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか		
1957年	第７回	室　蘭	のぞましい造形教育における具体的諸問題について		
1958年	第８回	小　樽	図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか		
1959年	第９回	帯　広	新段階における造形教育のあり方		北海道造形教育連盟と改称
1960年	第10回	網　走	本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見出そう		
1961年	第11回	滝　川	子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか		
1962年	第12回	名　寄	子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか		
1963年	第13回	余　市	子どもが生活を見つめ造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか		
1964年	第14回	札　幌	子どもの創造能力とは何か	第２代 新妻　　清	
1965年	第15回	稚　内	子どもの創造能力とは何か		
1966年	第16回	室　蘭	子どもの造形能力とは何か	第３代 赤石　武士	
1967年	第17回	函　館	指導の構築を具体化する		
1968年	第18回	苫小牧	指導の構築を具体化する		
1969年	第19回	札　幌	造形能力は、どのような指導によって育てられるか	第４代 和田　芳郎	
1970年	第20回	旭　川	ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか		
1971年	第21回	札　幌	造形能力は、どのような指導によって育てられるか	第５代 伊東　将夫	
1972年	第22回	帯　広	未来に生きる子どもの造形教育 （生活に根ざした造形教育をどう高めるか）	第６代 高橋　栄吉	
1973年	第23回	室　蘭	未来に生きる子どもの造形教育 （たしかな表現力をどのように育てるか）		
1974年	第24回	美　幌	未来に生きる子どもの造形教育 （ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか）		第１回 教育美術展

年	回	開催地	テ　ー　マ	委員長	備　考
1975年	第25回	江　別	未来に生きる子どもたちの造形教育 （自ら創り出す力をどう育てるか）		
1976年	第26回	岩見沢	未来に生きる子どもの造形教育 （すべての子どもに造形のよろこびを）		第１回 立体造形展
1977年	第27回	札　幌	みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践		第30回全国造形教育研究大会をかねる
1978年	第28回	函　館	みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践（すべての子どもが生き生きとりくむ学習）	第７代 辻　悦平	
1979年	第29回	旭　川	生き生きとしたゆとりのある子どもを育てる 図工美術教育のあり方		
1980年	第30回	苫小牧	ひろがりと深まりの造形教育を求めて		
1981年	第31回	釧　路	創りだす心をよびおこす造形教育		
1982年	第32回	室　蘭	見る、知る、感ずる、そして創りあげる喜びを	第８代 遠藤　久男	
1983年	第33回	留　萌	生活とふれ合い、創る心のひろがりを求める 造形活動		
1984年	第34回	札　幌	知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動 （わきたつ発想・たしかな表現・つくりだす喜び）	第９代 種市誠次郎	
1985年	第35回	函　館	知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動 （心をこめてつくりだす子どもを育てる）		
1986年	第36回	旭　川	子どもの心をゆり動かす造形教育 （つくる心のひろがりを求めて）	第10代 森川　昭夫	第39回全国造形教育研究大会をかねる
1987年	第37回	紋　別	子どもの心をゆり動かす造形教育 （表現のよろこびにひたる子どもを育てる）	第11代 松島　輝男	
1988年	第38回	滝　川	子どもの心をゆり動かす造形教育 （ひたむきに創る心を育てる）		
1989年	第39回	帯　広	子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実 （君はいま創造のとりこに）	第12代 金井　秀男	
1990年	第40回	苫小牧	広がり、深まり、そして感動を！		
1991年	第41回	札　幌	子どもの個性的表現を授ける造形教育 （子どものつくる喜びをひらく）	第13代 佐々木理温	
1992年	第42回	函　館	子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実 （感動、そして創造する喜びを）		
1993年	第43回	旭　川	思いをあたため心はずませる創る喜びを	第14代 鹿嶋　健	
1994年	第44回	釧　路	心ときめく、創造の喜びを求めて		
1995年	第45回	千　歳	豊かな心と確かな力をはぐくむ造形学習を	第15代 船着　昭弘	
1996年	第46回	札　幌	自らの心を拓く造形学習の在り方 ～造形＝愛感美遊創in札幌～	第16代 白井　図毅	
1997年	第47回	根　室	感動から発し躍動する力を育む造形学習を！	第17代 吉田　倭男	
1998年	第48回	留　萌	楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と 共感し寄り添う指導	第18代 芝木　秀昭	
1999年	第49回	オホーツク	オホーツク発　思・創・喜・感 ～一人ひとりが創造的な喜びを実感するために～		
2000年	第50回	函　館	心の風景（ビジョン）の発信を! ～豊かな自分づくりを生かす創造活動を～		

第１回　札幌大会

日　時　1950年11月13・14・15日
会　場　学芸大学札幌分校附属小学校

研究主題
情操教育振興の一環として
本道図工教育の進展を図るため

- 各地における図工教育の実態に立った具体的共通問題の究明
- 全道小中高大教員の大同団結を図り組織結成をする。

◆講　演

「現代図工教育の理解とその方法」
東京教育大学教授　高橋　正人

「自信を新にしましょう」
図画工作研究所理事長　後藤福次郎

あれから

札幌市立曙小学校（当時）　中川　大三

あれから10年。といっても、そのあれからが記憶力の薄れる年輩の仲間入りをした私にとって誠に頼りないものであるのだが……。たしかに連盟の飯を食って居た事実として、二つのことだけが頼りないながらも記憶を甦えらせてくれる。その一つは附属小学校で持たれた第一回の大会の際に、広島で行われた第三回全国図工教育研究大会の出席報告のようなものを黒い顔を赤くしながらさせられたこと。他の一つは、私の奉職校である曙小学校が鉄筋建築のモデルスクールとして、現在のようにきたないしみのつかない、いささかながら一種のスマートさを保持して居たかと思われる、そこを見込まれて第二回大会の会場として嘱望され、電話の取次、草履の世話など、我ながら適役であるわいと満足感を抱きながら仕事をしたこと。

その大会の講師として当時創造美育の重鎮であった、室靖、湯川尚文の両氏が出席され、室氏はヨーロッパでのゼミナールについての講演を、また湯川氏は体育館で、本校の上学年の児童に浦島太郎のお話を絵にする指導をされ、私も本校児童と共に参加し、それ以来創美について関心を持つようになったというわけ…、その後釧路、小樽での大会に出席はしたものの、健康の勝れない私としては連盟には名のみのつながりであったが、この十年を機に再び若い気を起そうかと秘かに期す次第。

（10周年記念誌より）

第２回　札幌大会

日　時　1952年8月9・10・11日
会　場　札幌市立曙小学校

研究主題
図画工作教育の新思潮である
創造主義美術教育の
諸問題について

- 附記「ユネスコ国際美術教育ゼミナールの報告」

◆講　演

「ヨーロッパにおける
美術教育について」
東京都第九中学校　室　　靖

●実演授業

「お話を絵に描く『浦島太郎』」
指導　東京都根津小学校　湯川　尚文
※体育館にて曙小児童に指導

第３回　旭川大会

日　時　1953年8月8・9・10日
会　場　旭川市立日新小学校

研究主題
美術教育における指導とは何か

◆講　演

「造形指導の理論と実践」
千葉大学教授　森　桂一

「近代美術の動向」
国立近代美術館次長　今泉　篤男

「生活と色彩」
北海道学芸大学教授　朝倉　力男

「造形教材における具象と抽象の概念」
山形大学教授　手塚又四郎

第４回　函館大会

日　時　1954年8月8・9・10日
会　場　函館市立大森小学校

研究主題
図画工作教育実践上の
諸問題について

◆講　演

「美術教育の経験を語る」
北川　民次

メキシコにおける美術教育と児童美術教育の豊富な経験を見事な話術でお話しされ、参加者を感動させた講演であった。（10周年記念誌より）

「図画工作教育における
諸問題について」
渡辺　鶴松

氏はコース・オブ・スタディの編集責任者であられ、その内容についての広汎な資料や、豊富な経験を懇切にお話しくださった。（同上）

第５回　釧路大会

日　時　1955年8月7・8・9日
会　場　釧路市立旭小学校

研究主題
図画工作教育における
学習指導上の問題点の解明

● 第4回大会に引続く問題としてとりあげた

◆講　演

「ヨーロッパの美術教育」
東京学芸大学教授　倉田　三郎

昭和29年9月から31年1月末まで巡遊視察されたユーゴスラビア、西独、イタリア、フランスなどの美術教育の状況、風土等。

「子どもの創造性を培う」
岡田　清

子どもの絵と工作をどう考え、どう伸すか。材料の問題、技術指導をどう受け止めて指導することが望ましいか、などについて。

第9回　全国図画工作大会
第6回　札　幌　大　会

日　時　1956年8月7・8・9日
会　場　中島スポーツセンター
札幌市立幌南小学校
札幌市立曙小学校
札幌市立中央創成小学校

大会シンボルマーク

- 造形教育においてつくりだす力をどう理解したらよいか
- つくりだす力を養うため指導内容はどうあるべきでしょう
- つくりだす力を養うための学習指導方法はどうしたらよいか
- つくりだす学習活動を旺盛にするため環境条件をどう整えたらよいか

研究主題　造形教育において　つくりだす力を養うにはどうしたらよいか

◆講　演

「アイヌの造形文化について」
北海道大学教授　河野　広道

強い研究組織に感銘

東京葛飾小学校　大和屋　巌

私は長い間、北海道にいたものだから札幌におりた時、これは本当の北海道でなく、東京の造形文化の直移入である街のようなものを感じたのです。北海道というものから根の生えた造形文化、このようなものが、これでよいかというのが第一印象です。もしこれが造形教育とつながるとすれば教育というのは大変なものだと思うし、この度全国大会がここであったことがとてもよかったと思いました。とても強い研究組織が出来、本当の北海道を見なおしているようです。個々の研究から集団の研究へと進んでいます。来会者の学ぶところでありました。北海道の皆様これをエポックにすばらしい北海道文化を作って下さい。

（10周年記念誌より）

第6回大会（札幌）
【上】参会風景
【下】主会場全景

第7回　室　蘭　大　会

日　時　1957年9月6・7日
会　場　室蘭市立常盤小学校

研究主題　のぞましい造形教育における具体的諸問題について

- 造形素材をどのように生かし取扱うとよいか。
- 非具象的表現をどのように指導したらよいか。
- 生き生きとした立体表現の指導について。
- デザインの学習をどう進めたらよいか。
- 共同制作はどのように指導したらよいか。
- 特殊教育における造形活動はどのように指導したらよいか。
- 評価はどのように考えたらよいか。

◆講　演

「抽象的表現と新しい造形教育」
東京お茶の水女子大学附属中学校　熊本　高工

第８回　小樽大会

日　時　1958年7月29・30日
会　場　小樽市立富岡小学校

研究主題
図画工作学習によって、
児童生徒の人間性が
どのように培われるか

●分科会テーマ
①児童の発達段階に即した造形活動はいかにあるべきか。
②現在直面する図工教育の危機を打破するための方策はいかにあるべきか。

※この年に完成した
連盟マーク・バッジ

◆講　演

「国際的にみた日本の美術教育」
千葉大学教授　森　桂一

「工作教育のねらいは
何処にあるか」
東京都窪町小学校教諭　公楽源一郎

第９回　帯広大会

日　時　1959年8月2・3日
会　場　帯広市立帯広小学校

研究主題
新段階における
造形教育のあり方

※この年３月の地区委員総会で本連盟は、
北海道造形連盟と改称した。

◆講　演

「造形教育における芸術性と技術性」
東京教育大学教授　松原　郁二

「デザイン学習について」
学習院大学附属小学校教諭　坪内　千秋

「新指導要領の工作分野の
指導について」
東京都窪町小学校教諭　公楽源一郎

第10回　網走大会

日　時　1960年7月30・31日
会　場　網走市立網走小学校

研究主題
本道における造形教育の
実践を通して
今後のあり方を見出そう

◆講　演

「デザインのあり方と指導の系統」
東京都今川小学校教諭　藤沢　典明

第11回　滝川大会

日　時　1961年7月28・29日
会　場　滝川市立滝川第一小学校

研究主題
子どもたちの芸術性を育てるために、私たちはいま、何をあたえ、何をしなくてはならないか。

第12回　名寄大会

日　時　1962年7月28・29日
会　場　名寄市立名寄南小学校

研究主題
子どもが生活をみつめて、造形的に高まって行くために、われわれは、どのようにしたらよいか。

第13回　余市大会

日　時　1963年7月31日・8月1日
会　場　余市町立黒川小学校

研究主題
子どもが生活をみつめて造形的に高まっていくために、われわれは、どのようにしたらよいか。

第９回　全国造形教育センター北海道大会
第14回　札　幌　大　会
北海道造形センター創立研究大会

日　時　1964年8月2・3・4日
会　場　札幌市立北九条小学校

研究主題　子どもの造形能力とは何か

- 発達段階に立つ学習内容のたしかめ
- 子どものデザインとは何か。

第15回　稚　内　大　会

日　時　1965年7月28・29日
会　場　稚内市立稚内南中学校

研究主題　子どもの造形能力とは何か
　　―教材の面からのたしかめ

第16回　室　蘭　大　会

日　時　1966年7月27・28日
会　場　室蘭市立武揚小学校

研究主題　子どもの造形とは何か
　　指導の構築はどうあるべきか

- 「何を」「どのように指導したか」
  「あなたは……」

第17回　函 館 大 会

日　時　1967年8月5・6日
会　場　函館市立青柳小学校

研究主題

指導の構築を具体化する

- 新しい教材と新しい授業づくり
- 何を学ばせるか
- どのような教材を選定して
- どのような授業を組み立てるか

第18回　苫小牧大会

日　時　1968年7月30・31日
会　場　苫小牧市立苫小牧東小学校

研究主題

指導の構築を具体化する
―教材の新しいとらえかた―

第19回　札 幌 大 会

日　時　1969年7月31日・8月1日
会　場　札幌市立中央小学校

研究主題

造形能力はどのような
指導によって育てられるか

第20回　旭川大会

日　時　1970年7月30・31日
会　場　旭川市立北星中学校

研究主題

ゆたかに生きる子どもの
造形能力をどう育てるか

- 幼稚園・幼児期ののぞましい造形指導
- 小学校低学年・あらわすことの喜びをもつ子どもを育てるための指導
- 小学校中学年・たしかなものを創る子どもを育てるための指導
- 小学校高学年・自分の願いをゆたかに表わす子どもを育てるための指導
- 中学校・表現をゆたかにするための基礎的能力を生かす指導
- 高等学校・技法練習と創造表現を関連させての指導

大会シンボルマーク

第20回旭川記念大会を迎えて

第四代委員長　和田芳郎

昭和二十六年は敗戦の現実にさらされていた。物質的にも精神的にも枯渇しきった私どもには、「生きる」根性で勝負のきまる毎日だった。以来二十年、連盟結成に情熱と意欲をもやした私にも、今はあわい郷愁物語りで、実感は再燃しにくいところである。この年、第一回全道図画工作研究大会が札幌で開催されたのである。連盟は当時のすさんだ、大人と子ども達を、芸術教育を通して、情操を純化しようとする指導者の団結であり、団体でもあった。

私は、伊藤恵（現、札幌市立羊丘小教頭）君と二人で、第二回全国図画工作研究大会の発表者として本道から初めて参加した。（第一回は東京でささやかなうぶ声、第二回は京都、昭和二十三年）これは、その後の北海道造形教育研究大会の運営と研究内容に非常に参考になるものがあった。未だ若く、末席にあった私どもの願望が、連盟、上層部のとりあげるところとなって見事開花し結実しようとしていることはまちがいない。

旭川が開催地となることは昭和二十八年以来、第二回目のことである。建設途上の役員のかたがた、或は会員のかたがたも、幾多の起伏、転変があったが、その人々のご功績や協賛を心から感謝申しあげる。

今日では若い人々が、科学的に分析し、領域別に深究するようになった。理論は広く、教育学全般に、或は心理学に、又は生理学に、そして又美学の原理もふまえなければならない。而も単なる理屈では納得は容易でないから、実証価値は作品の成果にも影響することになった。実証された作品は、次の発展の反省資料とし、客観的原理、原則の手がかりともなり、更に、課題を生む。

私は思う。『問題解決は、教えて貰えるものでもなく、真似をするものでもない。指導者の解決への実践的意欲の連続ではあるまいか。』

諸君のご研鑽を心から望む。

（元札幌市立豊平小学校長・20周年記念誌より）

第21回　札幌ゼミナール

日　時　1971年8月5、6日
会　場　北海道神宮参集殿

●第21回　札幌ゼミナールの日程

■オリエンテーション	■分科会	■分科会	■散　策	■分科会	■分科会	■分科会	■分科会
●ごあいさつ 伊藤委員長 ●会のねらうもの 研究部／長谷川 ●分科会について 研究部／金井 ●道具のプロフィル 研究部／森田 ●進来の支部合 研究部／金井 ※ユーモアこそ心のきづなとなることをわすれずに	分科会A　ガイド・ホスト ・型に分かれること （必要な準備をして） ●問合　ガイド ・道具紹介 ・自己紹介（簡単明快に） ・会の運行について 1 輪になって歌おう 2 会をたてて 〈好ましい絵とは…… 立場の主張が…… 相心者への心づかい〉 3 このましい言葉と このましくない言葉と 4 問題の作品 〈要請して全体協議に〉 ※楽しく　握手して	分科会　B　ガイド ・実践発表者紹介 ・発表（指導法と作品） ・発表者別グループ ・幼小・中高 ・領域別 ※認めよ　ゆらぱ むくいられん	天然記念物の河合は植物の宝庫です 一人で歩くより二人で歩くのが楽しい 相手を見つけるのに たのしいのある方は ホストにどうぞ 語るもよし 語らぬもよし 言葉ばかりはつきうないエノコログサやヤブヨモギョ と、楽しい時には 仲間を忘れまう 全の交流は相撲である	分科会　C 幼稚園・保育園 ・魅力ある先生と子どもの作品 ・これが子どもの顔です ・体験を生して　お互を認めあえる それがこの会の収穫です ・そろそろ他の型を研究しましょうか	分科会　C 小学校低学年 ・自分の子どもの自慢をしましょう どれだけできるかうんと　がんばって ・この絵を私はこう読みとります ――この絵の指導は　こうして―― ・この絵をこのましいことばで語りましょう ・ことばは生きている 子どもはそれをトレーニットのように心の中にとりこます	分科会　C 小学校中学年 ・私の子どもの作品を見てください ・このましいことばで語ってください ・文部大臣として好ましい美術教育を語ってください ※エニークに語るときは共感するものが少ないものである	分科会　C 小学校高学年 ・この絵を読こう 私は作者と あなたは鑑賞 〈神の国の絵きはどのように展開するのが望ましいのか〉 ・実践の病巣を探べ ・実践によって論争し ・実践によって検点をみいだす ・できるだけ豊かなことばで　コンテストする ※神は事実のみにほほえも
■分科会	■分科会	■フリータイム	■楽い劇のために	■全体協議会	■閉　会	■パーティー	■あとしまつ
分科会　C 中学校 美術科における学力とはなにか ではどのように学力を高めることができるか ひとつひとつの教材を通して考えてみよう	分科会　C 高等学校 ・新教育要領にもとづく教育課程の編成について語りましょう ・全国の実践を考えましょう ・私の教育実践を語りましょう ・写真の表現について ・構想による表現について ・デザインについて ・美術工芸について ※美意識を最後まで表現に	疲れたときは　どうぞ気ままに―――― ・語りあかそうイスループ ぼんやりボケ 熱帯魚のマネロのように 頭と口だけは開いているときには マラソン大会もよし 野遊びもよし 遊びもよし 絵のこと 書は語らずもうたるやしょう すべて書家は 無題　あなたのものです ※フリーとはなかなか考えないことがフリーなのです	朝のあいさつ 森の中から挨拶をおくろう 森の中から挨拶をかえそう 朝飯は草の上で おいしい空気と おいしいごはんと おいしい小鳥の声と ミルクを一杯そえて 盛り上がるファイトで 9：00から大広間で 思いのたけを語ろう ※挑戦はあなたのもの	・学校種別毎の発言がある ・領域ごとの発言がある ・人間　芸術　人間 芸術　人間　芸術 ※高い知性はユーモアを感ずる	歌声 あいさつ 声を大きく輪を大きく かたく手と手を 掌に汗を感じ　共鳴する鼓動を 又あう日まで 又会う日まで カメラマンよ走れ ※握手　すべてが了解される	・会費　安い 酒　安い ラブチュンファイアを飲もう 人気に会えるかもしれない 酔って　ふらっと　手をつないで 道の小路は　いろな小路 道半ば又あいましょう さらば　バスの停留所ではありません 教育さんの道路ラッパがなりわたる ※よかったね またあいましょう	まず　お掃除をしよう 神様あなたの おかげです みなさん　ありがとう ※ないごの一筆で絵が完成する

第22回　帯広・十勝大会

研究主題
未来に生きるこどもの造形教育
―生活に根ざした造形表現をどう高めるか―

日　時　1972年7月30・31日
会　場　帯広市立柏小学校

●公開授業一覧

学年	領域	教材名	氏名	学校名
幼	製作	ふね	坂田　敏子	帯広渡辺学園幼稚園
小1	絵画	みんなでのろう	高橋セツ子	帯広豊成成小学校
小1	デザイン	すてきなくびかざり	谷内　敏	十勝善得郁足小学校
小2	工作	かんむり	寺本　吉明	十勝は寒西小学校
小3	画賞	私達のまち	菊　厚夫	帯広東小学校
小4	絵画	笛をふく人	高橋　ミチ	帯広稲田小学校
小5	彫塑	運動をする人	成田　隆	十勝芽室小学校
小6	彫塑	建築現場で働く人	森戸　春樹	帯広大空小学校
中1	絵画	働く人	小西　三雄	十勝鹿追中学校
中1	デザイン	クラスの仕事	宮沢　克忠	帯広第1中学校
中2	絵画	身近かなもの	岡宮　秀雄	帯広第3中学校
中2	工芸	ひもによるかざりびん	舟藤　敏明	十勝幕別白人中学校
中3	彫塑	仲間たち	小室　史	帯広第6中学校
高校	版画	森の詩	中谷　有逸	帯広精華高等学校
単複	絵画	砂利工場で見たこと	大越　哲也	十勝清水下人舞小学校

●分科会（1日目）一覧

分科会名（公開授業）		司会	提言	記録者
幼稚園	絵	○長尾みつえ（札幌・みなみ幼） ○塩原　文（札幌・栄北幼）	○大野　和幸 （帯広・聖公会幼）	細川　真藤（東　小） 目塔　幸子（上士幌）
小　1	絵	○中澤　馨（空知・厚山小） ○中橋　幸男（空知・赤平小）	○佐伯　進 （釧路・日新小）	福井　正春（上士幌小） 鈴木　新子（稲田小）
小　1	デ	○吉田　義明（旭川・神楽上小） ○小松　厚（旭川・北星小）	○柳野　哲明 （十勝・昭尾小）	赤津　建治（白人小） 熊井　一子（東　小）
小　2	工	○若林　宏一（釧路・都津小） ○中村　彰（釧路・都津中）	○金子　章 （帯広・帯広小）	佐川　春治（清水小） 後藤　敦子（北見小）
小　3	彫	○石塚　潔（釧路・常盤小） ○古平　清史（釧路・常盤小）	○伊藤　明記 （札幌・本郷小）	市村　英和（駒目小） 赤川　昌子（稲田小）
小　4	絵	○池本　良三（苫小牧・東小） ○内藤　光雄（苫小牧・北栄小）	○石井　久 （函館・港小）	池本　晃（本別小） 安藤　和江（西小）
小　5	彫	○早川　紀行（空知・吉住小） ○熊坂　明（空知・下鳥小）	○中村　扶昭 （帯広・川西小）	北　信子（帯　小） 猪口　勲（東　小）
小　6	彫	○伊藤　晃宗（札幌・付属小）	○須　敏治（釧路・長浜小）	岡崎八重（麻内小）佐藤正司（江南小）
中　1	版	○森　健（札幌・中央中） ○坂田　武夫（札幌・八条中）	○田口　英二 （帯広・三中）	片倉　武彦（清水小） 守谷　通利（図　中）
中　1	デ	○福島　正男（釧路・東中） ○羽生　輝（釧路・泉郷中）	○中西　晃昭 （十勝・中札内中）	佐藤　新吾（足寄中） 新　英子（　音　）
中　2	絵	○佐辺　重夫（函館・新川中） ○藤井　昭夫（函館・桔梗中）	○丸谷　隆次 （帯広・五中）	谷内　要（上士幌中） 田村　富子（広野小）
中　2	工	○松川　七（稚内・中央小） ○藤井　正治（稚内・稚内中）	○斉藤　高琴 （帯広・五中）	中谷　茂広（上士幌中） 興梠百合子（稲田小）
中　3	彫	○小林　信雄（旭川・東光中） ○鈴木　俊明（旭川・光陽中）	○横田　裕美 （十勝・幕別中）	佐藤　節男（広尾中） 石田　恵子（清水中）
高　校	版	○木下　勇二（釧・江南高） ○長尾　秋造（釧・西高）	○千葉　武夫 （釧路・湖陵高）	石川　幸雄（本平西） 青木　清一（三　条）
		○田村　宏（室蘭・室蘭工高）	○金丸　孝徳（室蘭・室蘭工高）	
単　複	絵	○白谷　礼司（釧路・亀田小） ○近堂　俊行（釧路・泉郷小）	○福川　守 （十勝・松沢小）	平　直秀（光和小） 前鋼　晴夫（清水小）

第23回　室蘭大会

研究主題　未来に生きる子どもの造形教育

日　時　1973年7月30・31日
会　場　室蘭市立常盤小学校

●特設公開学習

学年	領域	題材	授業者	勤務校
幼稚園年少	絵画	形みつけ	本田　公子	室蘭桜ヶ丘幼
幼稚園年長	絵画	たのしいえ	後藤　恵	室蘭桜ヶ丘幼
小1	工作	ふくろをつかって	江津　明	室蘭市立天沢小
小2	描画	わたしの先生	高谷　節子	室蘭市立栄翼小
小3	描画	かもとりごんべい	塚田　勝也	室蘭市立常盤小
小3	彫塑	動物	今川　忠良	室蘭市立祝勝小
小4	デザイン	四角な形をつかって	石塚　靖	室蘭市立本輪西小
小4	描画	月の夜	佐藤　光雄	室蘭市立大沢小
小4	版画	工場で働く人	中村　英子	室蘭市立日新小
小5	描画	港のようす	赤司　賢二	室蘭市立本輪西小
小6	彫塑	働く人	遠藤　昇	室蘭市立天沢小
小6	描画	群像	鈴木　則子	室蘭市立常盤小
中1	工芸	絵皿	伊藤　香	室蘭市立蘭東中
中1	デザイン	タンポポになって	本多　正義	室蘭市立鷲ケ岳中
中2	デザイン	コーラジュによる構成	大滝　憲二	室蘭市立東町中
中2	彫塑	友だちの顔像	高橋昭五郎	室蘭市立港南中
中2	描画	友だちと学校	長谷川英二	室蘭市立港北中
中3	描画	友だちの顔	工藤　善蔵	室蘭市立港南中
高クラブ	描画	人物のデッサン	木滑　邦夫	室蘭清水丘高

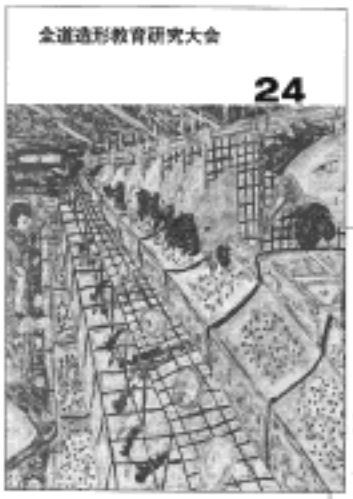
第24回　美幌大会

研究主題　未来に生きる子どもの造形教育

日　時　1974年7月30・31日
会　場　美幌町立東陽小学校

●公開授業一覧表

学年	領域	題材	授業者	勤務校
幼稚園1年	絵画	おともだちのかお	岸浪　睦子	美幌幼稚園
幼稚園1,3年	絵画	おさかなをかこう	高橋真知子	美幌幼稚園
幼稚園2,3年	絵画	すいぞくかん	山田　初恵	美幌幼稚園
小1	工作	どうぶつをかこう	山宮　喜也	美幌東陽小
小3、4年	デザイン	もようをつくる	三宅　真平	美幌都橋小
小4	絵画	友達	新藤　勇	美幌東陽小
小5	工作	花（きりえ）	黒河　洋輔	美幌東陽小
小5	版画	工場	原　弘	美幌東陽小
中1	工芸	土の鈴	横田　勇吉	小清水中
中2	版画	山園の四季	今井　竜男	東藻琴山園中
高校	美術クラブ	人物画	永吉　正彦	美幌高校



第25回　江 別 大 会

研究主題　未来に生きる子どもたちの造形教育
―自ら創り出す力をどう育てるか―

日　時　1975年7月28・29日
会　場　江別市立大麻東小学校

●公開授業一覧

学年	領域	題材	授業者	勤務校
幼稚園	デザイン	切り紙による花火	海野　洋	大麻幼稚園
幼稚園	版画	あそんでいる私	小山キヨ子	元江別わかば
小 2	描画	にらめっこの顔	露本　清枝	大麻西小
小 3	描画	うんていあそび	亀谷　武春	大麻西小
小 4	描画	絵をかく友だち	安部　富雄	江別第二小
小 3	描画	ガソリンスタンド	中山　尚博	江別第二小
小 4	版画	ぼくの顔・私の顔	金井　満子	大麻東小
小 3	版画	ぼくたちのトレーニング	関　建治	角山小
小 6	彫塑	飛ぶ鳥（石こう）	加藤　悌英	江北小
小 6	彫塑	表情のある顔	藤井　正治	江別第二小
小 4	デザイン	おもしろい魚の葉書	綱渕　敏幸	大麻小
小 6	工作	動くおもちゃ	笹原　武丸	大麻東小
中 1	描画	両手のみえるポーズ	手島圭三郎	江別第三中
中 1	彫塑	木彫によるいろいろな顔	村瀬　千樫	大麻中
中 2	デザイン	美しい虫のデザイン	伊藤　善彬	江別第二中
中 2	工芸	風鈴をつくろう	掛上　延孝	江別第一中

大会シンボルマーク

第26回　岩見沢大会

研究主題　すべての子どもに造形の喜びを

日　時　1976年7月26・27日
会　場　岩見沢市立岩見沢小学校

●実験授業Ａ（系統性をさぐる）

学年	題材名	授業者	学校
小 1	友だちいっぱい（全身）	今井　俊子	岩見沢小学校
小 2	ボールわたし（連続）	多田　吉三	〃
小 3	にもつをかついでいるおじさん（物語り風に）	白樺　貞郎	〃
小 4	釣りをする友だち	後藤千和子	〃
小 5	ふれいた友だち（明暗）	渋谷　正男	〃
小 6	作品をねる友だち（ポート三人・重なり）	田村　栄次	〃

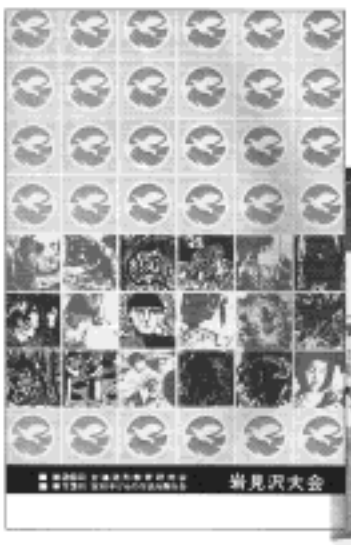
●実験授業Ｂ（遊びを子どもに返そう）

学年	題材名	授業者	学校
幼（4才児）	ヤヤタビラあそび	土門　祐子	天使幼稚園
幼（1年年齢）	ファッションショー	前田　敬子	〃
幼（2年年齢）	さかなのくに	津沢　弘子	〃
小 1	粘土の中であくしゅをしよう（沢のあいた所からなにがでてくるかな）	笹尾　寿徳	岩見沢小学校
小 2	はっけよいのこった（紙ずもう）	佐竹　克帆	〃
小 3	かわった鳥の小鳥屋さん	松田　剛	〃
小 4	まわるロケット	平山　竹男	〃
小 5	つつ風	田中　恒彦	〃
小 6	マジックカード	正岡　良郎	〃

●実験授業Ｃ（Ａ・Ｂを含めた内容）

学年	題材名	授業者	学校
中 1	紙をつかって	加藤　勉	光陵中学校
中 2	動くハンガー	田中　義彦	緑中学校
中 3	石をつかって	石崎　哲男	東光中学校

大会シンボルマーク



第30回　全国造形教育研究大会
第27回　全道造形教育研究大会
第２回　造形教育センター道支部大会

研究主題　みずみずしい中味で　しなやかな子どもを　育てる造形実践

日　時　1977年7月28・29日
会　場　札幌市立東山小学校　札幌市立羊丘小学校

大会シンボルマーク

●公開授業一覧

校種	会場	領域	授業者
幼稚園	山の手		横沢由美子・幾島多美枝 高橋　博
	中の島		小山内利通子・荷野　智子 芝木　捷子
	大通		林　摩里子・山本　容子 石井　雅子
保育所	白石		全員公開
	光華		全員公開
小学校	東山小学校	絵画	能山琉規子（中の島小） 坂口　清一（東山小） 板田　忠術（東山小）
		デザイン	谷　　勲（真駒内緑小）
		版画	葛西　良子（札苗小）
		彫塑	花田　正雄（幌東小） 伊藤　寿郎（西野小）
		工作	白井　国敏（豊水小） 山本金次郎（元町北小） 芝木　秀昭（東光小）
			亀田　寿子・荷井　真三 石川　勝男・葛西秀四郎 藪田正美・吉成孝志（東山小）

校種	会場	領域	授業者
小学校	羊ヶ丘小学校	絵・版	羊ヶ丘小学校全学年 公　　開
		絵画	毛馬内国夫（月寒東小） 日高　晴美（しらかば台小） 高杉　正和（新川中央小） 古瀬　正敏（栄東小） 山崎　裕子（南月寒小） 河野　晩見（真駒内南小）
		デザイン	佐藤　　清（琴似小）
		彫塑	富田　　泰（南月寒小）
		工作	長津　喜代（伏見小） 伊藤　暢紀（附　小）
中学校	向陵中学校	絵画	印象
			大橋　郁夫（清田中） 前田　哲雄（陵陽中）
			構想
			山本　国夫（もみじ台中） 寺島　文憲
		彫塑	彫刻
			香取　正人（啓明中） 山田　礼二（柏　中）
			塑造
			武田　郁代（藻岩中） 広沢　正俊（みすまい中）
		デザイン	使用
			上居　淳公（手稲東中） 多田　能一（西陵中）
			伝達
			田口　　哲（新琴似北中） 三角和加子（新琴似中）
		工作	岩～胡
			田中　　潤（北栄中）
		胡～材	竹村　五郎（美香保中）

第28回　函館大会

研究主題　すべての子どもが　生き生きととりくむ　造形学習

日　時　1978年7月28・29日
会　場　函館市立西小学校
　　函館市立西中学校

大会シンボルマーク

●公開授業一覧

学年	領域	題材名	授業者	学校
4歳 5歳	総合制作	海底であそぼう	武内　信子	函館幼稚園
			松井　智美	函館幼稚園
小2	彫塑	あそんでいる友だちをつくろう	佐藤　良紀	函館市立本通小学校
小2	デザイン	ＵＦＯのそうじゅうし	浦野喜美江	〃　弥生小学校
小3	絵画	りゅうのお話をかこう	石垣由美子	〃　上湯川小学校
小4	デザイン	ゴロゴロ人間	村国　寿英	〃　大森小学校
小4	工作	楽しいかざりのついた風りん	本川　陽子	〃　金堀小学校
小6	絵画	お話の絵（つる）	角谷　聖子	〃　亀田小学校
中1	絵画	友だちの姿	佐野　忠男	〃　湯川中学校
中1	デザイン	私のすきなものは	岡沢　邦彦	〃　西中学校
中2	彫塑	友だちの顔をつくる	隅田　重明	〃　桐花中学校
中2	工芸	オカリナの制作	近藤　　貢	〃　的場中学校

第29回　旭川大会

研究主題
生き生きとした
ゆとりある子どもを育てる
図工美術教育のあり方

日　時　1979年7月28・29日
会　場　旭川市立知新小学校

●公開授業

学年	領域	題材名	授業者	学校名
幼	全	どんな花火ができるかな	新藤 弥生	旭川せつれい幼
幼	全	たてもの　ー紙でつくるー	海老根 幸子	旭川神楽幼
小1	版画	みんなでつくったおまつり（かたおしあそび）	新井 好恵	旭川永山小
小5	絵画	あやとり	高野 亮	旭川陸雲小
小4	デザイン	かげ絵	工藤 斉	旭川東栄小
小5	彫塑	二人であそぶ　ー土ー	大槻 茂	旭川向陵小
小2	工作	大きく並べる　ー造形あそびー	角 邦雄	旭川末広小
小6	鑑賞	木づくりの道具（愛宕をひらいた人々）	原 良三	旭川愛宕小
中2	絵画・鑑賞	中原佛二郎の作品にふれる	鳥本 捷夫	旭川明星中
中1	デザイン・工芸	くらしに生かす紙工芸　ーあんでつくるー	山理 利春	旭川附属中
中1	彫塑	頭像をつくる	坂野 潤治	旭川北門中
高	全	絵画制作の指導（必修クラブ）ー油絵ー	野上 好彦	旭川東高

大会シンボルマーク

第30回　苫小牧大会

研究主題
ひろがりと深まりの
造形教育を求めて

日　時　1980年7月27・28日
会　場　苫小牧市立若草小学校

●公開授業一覧

校種別	領域	題材名	学年	授業者	学校名
幼稚園	絵画制作	顕微鏡で見た絵（プランクトン）	5才児	鈴木 亮	マーガレット幼
	造形あそび	ダンボールあそび	5才児	男沢貴陽子	マーガレット幼
小学校	造形あそび	ダンボールで遊ぼう（かくれよう）	2年	徳田幸次郎	苫小牧若草小学校
	工作	光をかこむ（ちょうちん作り）	4年	宮森 俊治	〃
	クラブ公開	まとい、おみこし	4、5 6年	池本 良三 伊藤 秀雄 佐藤 芳夫	〃
小学校	版画	歯みがきをしているわたし（紙版画）	1年	塗 博美	苫小牧緑小学校
	彫塑	おどかされた時のわたし（粘土）	3年	井下 淑子	苫小牧美園小学校
	絵画	奥行のある風景をかこう	6年	吉田 隆一	苫小牧清水小学校
中学校	彫塑	手をつくる（ブロンズ仕上げ）	1年	大月 猛	苫小牧東中学校
	デザイン・工芸	机上や部屋で使うものを板材で作る	3年	松橋 克己	苫小牧開成中学校
	デザイン・工芸	創作凧をグループでつくる	1年	八幡 治	苫小牧和光中学校

大会シンボルマーク

第31回　釧路大会

研究主題　喜びを感じ豊かな表現を目指す造形活動

日　時　1981年7月28・29日
会　場　釧路市立城山小学校

●公開授業

校種別		領域	題材名	学年	授業者
幼稚園	1	造形	きしゃごっこ	五歳児	豊川幼稚園教諭 北山美佐子
	2	絵画	描画（観察画）	四歳児	鶴ヶ岱幼稚園教諭 斉藤のり子
小学校	1	造形	だんボールのみち	一年	釧路市城山小学校教諭 斉藤典子
	2	デザイン	楽しいかざり	二年	釧路市城山小学校教諭 宝輪勝己
	3	絵画	城山まつり	三年	釧路市城山小学校教諭 高橋稔
	4	彫塑	こわい顔	四年	釧路市城山小学校教諭 中島欣也
	5	デザイン 工芸	部屋かざり	五年	釧路市城山小学校教諭 三浦洸
	6	絵画	なめとこ山の熊　－お話の絵－	六年	釧路市城山小学校教諭 吉田和夫
中学校	1	絵画	描画（手のデッサン）	一年	北海道教育大学附属釧路中学校 川上典
	2	デザイン 工芸	ペン皿の製作	一年	釧路市桜が岡中学校教諭 渋木弘志
高校	1	絵画	描画（油絵）－クラブ員による製作活動－	一～三年	釧路市北陽高等学校教諭 久保克洋

大会シンボルマーク

第32回　室蘭大会

研究主題　見る、知る、感ずる　そして、創りあげる喜びを

日　時　1982年7月27・28日
会　場　室蘭市立中島小学校

●公開授業一覧

校種別	領域	題材名	学年	授業者	授業校
幼稚園	創造的な遊び	トンネルづくり	年長児	中島めぐみ	室蘭港北幼稚園
	絵画	ふしぎな木	年長児	香川京子	室蘭ビノキナ第二幼稚園
小学校	造形的な遊び	いろいろなものをつつもう	2	矢元政行	室蘭絵鞆小学校
	絵画	せんでかく人	1	野々原健次郎	室蘭高平小学校
	絵画	バスケットボールをする友だち	6	鈴木悦子	室蘭大和小学校
	版画	たなばたしゅうかい	2	池弘美	室蘭天沢小学校
	彫塑	ふたつおりのポーズ	3	中村美子	室蘭中島小学校
	彫塑	いろいろな顔のトーテムポール	4	鈴木博哲	室蘭大和小学校
	デザイン・工作	宇宙旅行へ着ていく服	3	吉田佳子	室蘭天沢小学校
	デザイン・工作	とびだすカード	5	赤井秀輝	室蘭中島小学校
中学校	版画	学級の友達	1	長谷川英二	室蘭東明中学校
	彫塑	友達の頭像	2	佐藤冨貴子	室蘭北辰中学校
	デザイン	ポスター　私のうったえたいこと	2	佐藤宏茂	室蘭港北中学校
	工芸	私の手（金属工芸）	3	山本仁	室蘭御前中学校
特殊教育	造形的な遊び	袋で遊ぼう	4・5才児	輪島久美子	室蘭ろう学校
	彫塑	－粘土・やき物－	病	桜井旬	室蘭大和小学校
高校	絵画	静物を描く	2	赤谷良文	室蘭大谷高校

大会シンボルマーク

第33回　留 萌 大 会

研究主題

生活とふれ合い
創る心のひろがりを
求める造形活動

日　時　1983年7月27・28日
会　場　留萌市立留萌小学校

●公開授業

校種別		領　域	題　材　名	学　年	授　業　者
幼稚園	1	造形的な遊び	しんぶんしであそぶ	4歳児	留萌市・かもめ幼稚園 中沢英子・藤原王子
	2	絵　画	ふうせんのさんぽ	5歳児	留萌市・かもめ幼稚園 安富亮子・北島晴子
小学校	1	工　作	たからのおふね	1　年	留萌市・東光小学校 玉手稔唯
	2	造形的な遊び	まよい道をつくってあそぼう	2　年	留萌市・留萌小学校 海東定一
	3	版　画	プール学習	3　年	留萌市・沖見小学校 阪詰一枝
	4	絵　画	笑った顔のわたし	4　年	留萌市・緑丘小学校 島山之史
	5	彫　塑	ろうそくをふきけす顔	5　年	留萌市・港北小学校 池田忠喜
	6	デザイン	郷土の夏と自然から	6　年	留萌市・留萌小学校 二本柳孝志
中学校	1	彫　塑	想像してつくろう	1　年	留萌市・港南中学校 後藤昌治
	2	版　画	身近な風景	2　年	留萌市・留萌中学校 平島敏明
高校	1	絵　画	自画像	部活動	留萌市・留萌高等学校 古舘章

33

大会シンボルマーク

第34回　札 幌 大 会

研究主題

創りだす心を
呼び起こす造形教育

日　時　1984年7月27・28日
会　場　札幌市立白陽小学校

●公開授業一覧

校種別	領　域	題　材　名	学　年	授　業　者
幼稚園	造形遊び	えのぐであそぼう	2　少	白陽幼稚園 大川和子
	絵　画	うみのなかへいってみよう	2　長	中の島幼稚園 大西明美
	製　作	はこであそぼう	2　中	第一幼稚園 樋口裕美
小学校	造形遊び	牛乳パックであそぼう	2	新琴似緑小学校 篠原寛
	絵画（低）	ひっかいてかく絵	2	白陽小学校 奥山慎
	絵画（中）	構想図「ふえのしらべ」	4	中央小学校 益村豊
	絵画（高）	物語の絵「つる」	6	西岡南小学校 大場章子
	版　画	「荒馬おどり」〈木版画〉	5	和山小学校 毛馬内国夫
	彫　塑	お話からつくる	3	新琴似緑小学校 桜田豊
	工作（低）	「わたしのアイディア」	2	三角山小学校 高橋百合枝
	工作（高）	動くおもちゃ	5	白陽小学校 小林長幸
中学校	絵　画	版画「私の好きな動物」	2	元陽中学校 平林冬美
	彫　塑	にぎる手	1	太平中学校 福島昭一
	デザイン	自然物の構成「身近な野菜から」	1	川陵中学校 高橋久美子
	工　芸	土の笛	2	北都中学校 石谷正美

34

大会シンボルマーク

第35回　函館大会

研究主題

心をこめてつくりだす
子どもを育てる

日　時　1985年7月29・30日
会　場　函館市立弥生小学校

●公開授業

校種別	領域	題材名	学年	授業者
幼稚園	絵画製作	たのしい　夏まつり	4歳児	函館市立松風幼稚園 越前屋　彰子 榎本　純子
	絵画製作	たのしい　夏まつり	5歳児	函館市立松風幼稚園 佐賀　晩美 下條　聡子
小学校	造形的な遊び	おめんであそぶ	1	函館市立大森小学校 絵面　和子
	絵画・版画	がっこうせいかつ	1	函館市立中央小学校 鈴木　秀明
		学校生活	4	函館市立北日吉小学校 長谷川　久子
	彫塑	ねん土であそぼう	1	函館市立北昭和小学校 出町　恵子
	工作	どうぶつにのろう	1	函館市立弥生小学校 鶴谷　渉
		切りこみを使って	5	函館市立南本通小学校 若竹　隆邦
中学校	絵画・彫塑	友だち	1	函館市立北中学校 今村　澄子
	デザイン	自然物からの構成	1	函館市立大川中学校 石原　佑一
	工芸	植木鉢をつくる	2	教育大学附属函館中学校 土谷　敬

大会シンボルマーク

第39回　全国大会
第36回　旭川大会

研究主題

子どもの心をゆり動かす
造形教育
～つくる心のひろがりと
深まりを求めて～

日　時　1986年8月1・2・3日
会　場　旭川市立緑が丘小学校・緑が丘中学校

●公開保育・公開授業一覧

校種	領域	年齢学年	題材名	氏名	学校
幼稚園・保育園	造形あそび	5歳児	牛乳パックの家　－お家ごっこ－	西江美智恵・氏元百合子	大谷ひかり幼
	絵画・造形	5歳児	海の中　－水に親しむ－	岡部かおり 陸鶴彰子 前田由紀子	旭川こばと幼
	総合	5歳児	つくってあそぼう　－舟つくり－	小原啓子 森脇由美子 大西恵子	ユリアナ幼
	造形あそび	5歳児	遠足に行こう	熊澤ちず 山内悦子 新橋年紀生	市立神楽幼
小学校	造形的なあそび	1	あきかんであそぼう	木村真義	附属小
	絵画	2	ありさんのくに	柴岡ひとみ	北光小
		3	遊びの中から（版画）	長瀬　優	千代田小
		3	草むらのできごと	長田和代	日章小
		6	底なし沼（アサムサタ）－お話の絵－	宮崎　晃	緑が丘小
		6	力いっぱいひっこぬけ－人と人とのかかわり－	新井好恵	旭第三小
	デザイン・工作	6	わたしたちの用務員さん（版画）	伊藤有為男	神居小
		2	ジャンプ大会	佐藤修司	近文小
		2	この木にと～まれ	土屋るみ子	千代田小
	彫塑	5	音の出るかべかざり	市野恵美子	高台小
		6	一本の丸太から	高野　亮	緑新小
		6	歯をくいしばって	石垣　広	永山小
中学校	絵画	1	私と友だち（版画）	品田　潤	東陽中
		3	校舎・心に残る場所を描こう	加藤　隆	六合中
	デザイン	1	人工物からの構成	菅原敏光	永山中
	彫塑	1	動物をつくる（ヤギ）－石こうのじかづけ－	大槻　茂	東光中
		2	版画をつくる　－チラコッター－	坂野潤治	春光台中
	工芸	1	ウッド・クラフト	飛騨野弘真	東明中
高校	工芸	3	自由制作「大作を作る」	西田武文	藤女高
		2	照明具の制作（金属工芸－メタルレースによる）	橋詰忠靖	東高

大会シンボルマーク

第37回　紋別大会

研究主題　子どもの心を
ゆり動かす造形教育

日　時　1987年7月28・29日
会　場　紋別市立紋別小学校・紋別幼稚園

●公開授業

校種	領域	題材	授業者	学校
保育所	絵画工作	魚つりをたのしむ	高野　友子 奥村　由美	紋別保育所
幼稚園	絵画	えのぐでしゃぼんだまつくり	折目　昌子	紋別幼稚園
〃	〃	〃	坂下　悦子	〃
〃	〃	〃	門井　彰子	〃
小学校1年	造形遊び	つくってあそぼう	木山　順子	紋別小学校
〃　2年	紙工作	なかよしの動物	小藏　春雄	潮見小学校
〃　2年	デザイン工作	ストロー笛	佐々木雅栄	紋別小学校
〃　3年	彫塑	動いている人	小野寺宏二	紋別小学校
〃　4年	デザイン工作	歌う人形	渡辺　智枝	紋別小学校
〃　4年	絵画	お話の絵	政二　美紗	沙留小学校
〃　5年	版画	物語の版画	井上　忠明	紋別小学校
〃　6年	絵画	紋別の町	山田　明弘	紋別小学校
中学校2年	デザイン	オホーツクの旅人	金子　定雄	雄武中学校
小学校特殊学級	工作	ダンボールで遊ぼう （合同学習）	坂本　勝雄 阿部　輝夫	潮見小学校 紋別小学校

大会シンボルマーク

第38回　滝川大会

研究主題　ひたむきに創る心を
育てる造形教育

日　時　1988年7月28・29日
会　場　滝川市立滝川小学校

●公開授業一覧

学年	領域	学校名	指導者
幼稚園	造形遊び	滝川幼稚園	木村　さとこ
小　1	造形遊び	深川菊水小学校	渡辺　貞之
小　2	描画	滝川東小学校	渡辺　強
小　3	描画	滝川東小学校	小黒　善富
小　5	デザイン	赤平赤間小学校	川島　正夫
小　6	描画	滝川東小学校	山片　敬子
複式	版画	岩見沢毛陽小学校	青竹　栄子 関　尚仁
中　1	デザイン	滝川開西中学校	山崎　裕子
中　2	デザイン	滝川明苑中学校	北村　稔

大会シンボルマーク

第39回　帯広大会

研究主題　君はいま　創造のとりこに

日　時　1989年7月27・28日
会　場　帯広市立大空小学校

●公開授業

種別	学年	授業者	学校（園所）名	公開領域等
幼・保		藤田恭子 アシスト　山口かよ子	たんぽぽ保育所	造形あそび　ダイナミックな粘土あそび
幼・保		泉谷美津枝 遠藤五月 アシスト　三井みゆき 阿部初美	第1いずみ幼稚園	総合活動　新聞紙をつかって
小学校	1	出村英和	芽室小学校	工作　ふえをつくる
小学校	3	伊藤隆士	大空小学校	デザイン工作　まよい道
小学校	4	小山田菊太郎	花園小学校	デザイン　つづき絵
小学校	5	柴田真	明星小学校	デザイン工作　立体迷路
小学校	6	遠藤妙子	大空小学校	絵画　人物クロッキー
小学校	複式	岡本真一	人舞小学校	デザイン工作　草花の汁を使って
中学校	1	影山美香	第六中学校	絵画　人物クロッキー
中学校	1	根岸邦昌	札内中学校	絵画（凹版画）　自画像
中学校	2	工藤良三	大空中学校	工芸　輪付きスプーンの製作

大会シンボルマーク

第40回　苫小牧大会

研究主題　広がり、深まり
そして感動を！

日　時　1990年7月31・8月1日
会　場　苫小牧市立若草小学校

●分　科　会

テーマ	校種	提言者	司会者	記録者
地域や学校行事とむすびつく造形活動（広がりの造形活動）	幼稚園	佐藤尚美（苫小牧・清川） 今住子（札幌・平和） 菅紀子（　〃　）	八嶋麻紀（苫小牧・澄川） 細川弦子（札幌・清明）	高田多恵子（苫小牧・澄川） 小林郁子（　〃　）
	小学A	宮森俊治（苫小牧・北光） 飯塚礼二（旭川・永広） 佐藤修司（旭川・緑新）	藤原誠司（苫小牧・澄川） 高野亮（旭川・江丹別）	千葉恵一（苫小牧・緑小） 苫米地明彦（　〃　）
	小学B	鴻江茂（苫小牧・美園） 笠原金一（新篠・白老小） 渡辺貞之（藻川・菊水）	金子正（苫小牧・高丘） 内田暢一（美唄・峰延）	千葉佳津子（苫小牧・清水） 島田信子（苫小牧・美園）
	中学A	遠藤秀二（苫小牧・勝明） 小西三雄（帯広・八千代）	中畑一彦（苫小牧・勝明） 宮沢克忠（岡山・勝央中）	佐藤宏茂（苫小牧・勝明） 千葉光弘（室蘭・白老中）
	中学B	佐藤真幸（苫小牧・光洋） 佐藤富貴子（室蘭・北辰）	森康博（苫小牧・光洋） 佐藤光雄（室蘭・鷲別東）	山日忠（苫小牧・勝北） 広瀬美佳（苫小牧・勇払）
	高校	小林智彦（札幌・南高） 成田俊哉（苫小牧・西高）	中田千年（札幌・稲穂高） 横山和郎（苫小牧・東高）	佐藤康幸（苫小牧・工業高） 木村美子（白老・白老東高）
新しい歴史の造形表現（学校の造形表現）	小学校	徳田幸次郎（苫小牧・澄川） 島田茂（千歳・信濃）	大村昇二（苫小牧・緑陽） 住友俊郎（恵庭・恵庭小）	川村友子（苫小牧・澄川） 吉本登志枝（苫小牧・糸井）
	中学校	吉田とし子（苫小牧・明徳） 本多正俊（新篠・社台）	佐藤公毅（苫小牧・明徳） 片桐勉（苫小牧・東中）	坂東章治（苫小牧・勝北） 鮮田利生（苫小牧・弥生）

大会シンボルマーク

第41回 札幌大会

大会シンボルマーク

日時　一九九一年七月二八・二九日

会場　札幌市立三角山小学校
札幌彫刻美術館

研究主題

子どもの
つくる喜びをひらく

I　子どもの個性的表現を援ける

造形教育のみならず、学校教育が教科書重視の教科中心といった流れが過去百余年間あり、「知識、技術、経済」優先の考え方のもと、系統性という枠はめの中で教育が行われてきました。そこに大きな忘れ物をしてきたのではないでしょうか。そして、この急速な社会の流れは、ますます加速化すると言われています。

このような社会の急速な変化に対して主体的に対応し、自らの生活を築いていくために、生涯にわたって学び続ける力を持たなければなりません。

したがって、学校教育は「自ら考え主体的に判断し、行動する能力を養成する教育」へとより強く思考し、「個性」重視の質的転換を図ることが求められているのです。

私たちは、思考力、創造力、直感力を育み、そして、「問題解決の力」ばかりではなく、主体的な「問題提起の力」の育成に努力しなければなりません。

一人一人の自由で独創的な物の見方、考え

方、感じ方を重視し、子どもの多様さを受入れ、それを援助し「個性」を生かす指導が求められるのです。

一人一人の子どもには、それぞれ教育の適時性があることもおさえなければなりません。子どもが自ら伸びようとする時期に、それを助け伸ばす教育が必要です。教育する側が助けることが、「教育」の本来の姿であることを認識する必要があります。「教える教育」から「学ぶ教育」への転換です。

私たちにとって、ものをつくりだし、具体的なものに表す内容をもった造形教育は、『子どもの個性的表現を援ける』極めて難しく厳しい仕事と言うことができます。

Ⅱ　造形教育の特質として

1　新しいイメージをつくり出し
2　イメージを形や色に表し
3　創る力、感ずる力を養い人間的な良さ、人間性を知ること

を上げることができます。

造形教育は、これらの特質を子どもが、頭、心、手の総合的な活動を通して喜びに出会い、人間としての「心が分かる自分」を自ら育てていくことを助けることです。省みるとそのためにいろいろな実践研究を試みてきたが、今一歩というところで低迷していると言わざるを得ません。

子どもの表現するものの中に、私たちの幾つかの反省点があります。

1、没個性的傾向と作品の画一化
2、一人一人の子どもの独創性を軽視
3、教えることと育てることが混在
4、子どもの生活に結びつけていない
5、手みじかな安易なセット教材の使用
6、造形する態度への「要求と寛容」の不安
7、押しつけ型指導に気づいていない

このような低迷の原因と模索は造形教育ばかりではありませんが、教育の在り方を再評価し、私たちの指導理念の質を整え、新たな情熱が望まれる時です。この在り方は各方面からいくつも提案されていますが、先の新学習指導要領も「急速に発達した科学技術」からの離脱を意図していることも明らかです。

＊21世紀に向けての教育の全体方向として考えられることは、

1、人間形成に必要な基礎・基本的な生活習慣の徹底
2、学習の喜びと生涯学習への思考と意欲の育成
3、自己教育力の育成の多様化の推進
4、国際化・情報化社会への適応力の育成
5、学習の主体性と自己実現の育成
6、教育内容の重点化、精選化
7、体験重視の学習、地域素材の教材化
8、総合学習の意義の自覚
9、学年・学級制度の弾力化
10、自然や地域社会への学習の場の拡大です。

造形教育は、子ども一人一人の「個性的表現」こそが教育の中心課題とならなければなりません。これは、美術教育の授業観と相俟って、教育の主流になることでありましょう。

つまり、

・学習者の個々に焦点を当て、学習者自身の学習が最大になる、"教える"ことよりも"学ぶ"ことを強調
・学習者を一人の人格者として受容し、感覚と発想をより尊重、自ら追及し、自らが回答すること
・個性とオリジナリティ（独創性）を支持、それを育てるための学校の機能は、個人の差異の尊重と認める態勢づくり
・学び方は、体験・経験を通した発見と探索による学習法の強調と推進
・教師は学習のパートナーであり、ガイドに徹し、ティーチから一歩退く

個人の進歩に対しての個別化と一人一人の確認であり、個性や独自性に応じる教育を基盤とする造形教育は、以上のような考えに立って進めなければならないでしょう。

本連盟は子どもの個性的表現の援助のため

の実現をより深めていかなければならないと考えます。そのために次のことが求められます。

1、子どもの生活の見つめ直しと生活のとらえの研究
2、教材の再吟味（評価と有効性）とその実践
3、個に応じた教材・教具の研究
4、教えるもの、育てるものの分析とアプローチの多様化、新しい指導法の研究
5、材料体験を豊かにし、連続性・連鎖性のある題材構成（単元構成）の研究
6、新学習指導要領に対して、ひとつの意見をもつ理論研究の推進
7、地域を生かした造形教育環境の改善研究

これからの私たちの実践課題の柱としては、「教材づくり」であります。流れに対応する教材と指導を一つの理論のもとに、早急につくり整えねばなりません。

Ⅲ　実践の視点として

1、『思いのままに表現する教材と指導』
2、『制作の方法を拡げる教材と指導』
3、『個性に基づいて拘り探求する教材と指導』
4、『領域や分野の枠を取り払った教材と指導』
5、『造形活動の造形あそびの教材と指導』
6、『感性が対話する生きた営みの鑑賞指導と教材化』

が考えられます。

私たちの日常実践は、子どもの実態、地域の特性に応じて常に変わり得るものです。子どもの「個性」を中核に進める造形活動は、その発達段階の適時に何を基準にすれば膨らみ、大きく成長するのか、「何をそだてる」のかを明確にしなければなりません。

Ⅳ　研究主題と実践のおさえ

授業の中で、子どもの活動に驚かされることがあります。彼等の内に固まっているものが溶けたり、ゆさぶられたりすると、「子どもらしさ」がどっと現れたりします。

これは、潜在的にある子どもの力を、予期しないでいる時によく感じられるものです。生き生きとして「子どもらしく」「自分らしく」素直に全身で喜びを表し、人間味を溢れんばかりに表出している時です。

このような子どもの姿に出会った時、形や色を使って「創る」という造形行為はとても人間らしい（その子らしい）と思うと同時に、造形教育は決して強いることなく、子どもが持っている潜在の力を精一杯発揮できるように「手伝ってやる」ということが、私たちの仕事と考えます。『子どものつくる喜びをひらく』はこのような考えのもと、すべき実践課題としておさえています。

1、教師の押しつけや主導ではなく、一人一人の個性や主体性を重んじる授業づくり
2、子どもを今まで以上に理解し、「教える」ことから「学ぶ」教育へと転換した授業づくり

を追及の中心視点と考えました。

したがって、「個性」「思いのままに」を重視することから、これからの造形教育は今までになく難しいものと思います。

造形教育において、子どもは料理人であり、決して教師が料理人であってはならないのです。料理の材料や調味料が、子どもの前に十分用意され、そして、子ども自身がその材料に向かい料理するからです。教師は子どもの意欲をそえて考える料理へと援助（導く）するのです。つくり手はあくまでも子ども自身なのです。言うならば、造形教育の仕事は子どものそれぞれにあるイメージを膨らませ、表現させることであって、教師のイメージを子どもに押しつけたり、一定の枠を与えることではないのです。

「なすことによって学ぶ」という原理は、教育指導を貫く基本と言えますが、時代背景の中で一様ではなかったようです。新たに基本に関わる示唆と考えねばなりません。

また、私たちは、急速に変わる子どもの生活からどのように子どもを見つめとらえていくかがとても大切なことです。

研究主題「子どものつくる喜びをひらく」の追及視点「授業づくり」とともに、教育を受ける「子どもの見つめ直し」も同時に進めてきました。また、幼・小・中・高の一貫美術教育を考える時、児童生徒の活動の基本に『あそび』という視点を考えました。これは、授業づくりを考えていく時、『もう一つの授業』という手掛かりを持ち、今までの実践を振り返りながら、新しい「授業を構築」していこうと考えたからです。今までのものを財産としておさえ、新しいものを志向しようとしています。

子ども本来の本能的なものまで含めたこの「あそび」という人間的な行為や思考を大切にしていきたいものと考えます。

幼稚園の「あそび」、小学校の「造形あそび」、中・高の「遊び心」といったものを、組織的計画的な学校教育の中で実践していきたいものです。

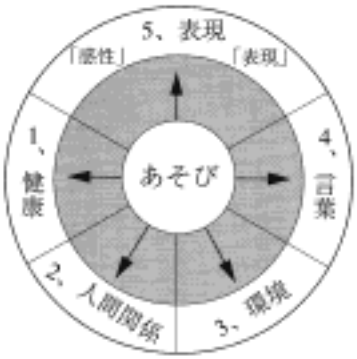
幼小中高の領域構成と実践の基本姿勢

1. 幼稚園

『領域』

1. 健康
2. 人間関係
3. 環境
4. 言葉
5. 表現…「感性と表現に関する領域」

＊動き　＊言語　＊形・色
＊音　＊手触り　＊つくる
＊かた　＊うたう　＊物と遊ぶ



2. 小学校・図画工作

『領域（A…表現・B…鑑賞）』

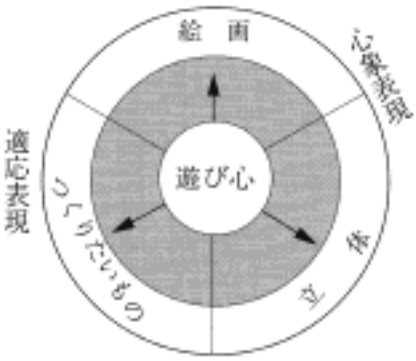
A、表　現

・絵画 ――――――（心象表現）
・立体 ／
・つくりたいもの　　（適応表現）

B、鑑　賞

〈1～4年〉

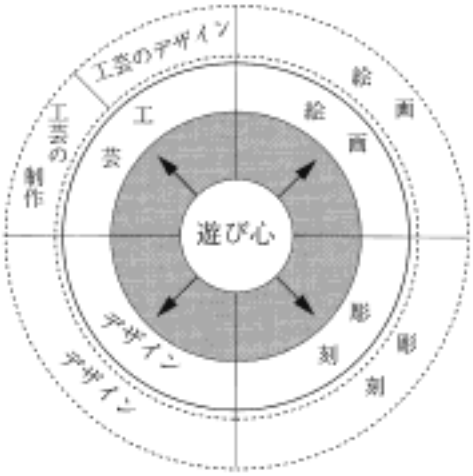
〈5～6年〉



3. 中学校・美術　高等学校・美術

『領域（絵画・彫刻・デザイン・工芸・鑑賞）』

＊工芸のデザイン
＊工芸の制作　　高校
＊工芸の鑑賞



第41回札幌大会に参加して

札幌市立いなづみ幼稚園　柏木　順

造形教育連盟発足50年、お祝い申しあげます。

私は第41回全道造形教育研究大会の、保幼稚園・表現分科会に参加させていただきました。

分科会テーマ「感じたことや考えたことを表現する意欲を引き出す造形活動」をもとに「一、幼児期の造形活動をどのようにおさえるか」「二、造形活動への意欲を引き出すような環境のあり方」という二つの視点から研究を行いました。

造形教育連盟では幼稚園から高等学校までの一貫した研究が行われており、特に小学校低学年担当の先生方にご助言いただけたことは大変勉強になりました。また普段は交流することの少ない私立幼稚園や保育園の先生方と一緒に保育を考えることができたことは、今考えてみても貴重な経験です。

研究大会当日は、なかのしま幼稚園の子供たちが会場となった三角山小学校に来て公開保育が行われました。普段遊び慣れた幼稚園と違い、初めて来た小学校で遊ぶことは子供たちにとって、戸惑うことが多かったと思います。また保育された、なかのしま幼稚園の先生方は事前の準備等、子供たち以上に戸惑うことが多かったと思われます。

しかし、当日の公開保育では、豊富に用意された様々な素材を使い、子供たちは生き生きとした表情で「楽器づくり」を楽しんでおり、参観されていた方に自分の作ったマラカス等を誇らしげに見せていた様子が今でも印象に残っています。

提言では、子供の作品を見ながら教師の援助のあり方や環境構成の工夫等　について話が出されました。

普段の公立幼稚園の研究会では経験できない貴重な勉強ができ、今でも忘れることのない、楽しい大会でした。

第41回大会高校分科会の回想

北海道札幌北陵高等学校　沖田　守世

私が前任校の滝川高等学校に勤務していた時分の事で、詳細な部分は思い出せないでいるが、札幌の先生方に誘われて、初めて参加させてもらったのがこの大会で、会場の三角山小学校が大変見晴らしの良い所であった事を覚えている。

参加者は、ご退職された先生では、土岐、香西、渡辺、斉藤、佐野の五名の先生方。そして開沼、中田、照井、小林、沖田の計十名の参加だったと思われる。

さて、「生徒の意欲を喚起させる題材研究」をテーマに、自校の生徒の作品を持ち寄って、和気藹々とした中、説明や質問意見などのやり取りが活発に行われ、お互いの実践について理解を深め、かつ自分たちの肥やしになる大変有意義な分科会であった。

その模様を思い出してみると、香西先生（平岸）は、静物の鉛筆デッサンと平面構成の作品を並べて、年間授業の中での扱いについて話され、また佐野先生（真栄）は二匹以上の昆虫をモチーフにしたB6大のドライポイントを沢山持参され、そのユニークな作品群は目を見張った。さらに、土岐先生（北）はケント紙を使って、幾何形態の相関体をかなり精緻に表現した作品を持参され、みんなを驚かせたのを覚えている。

私は新教育課程の中で出てきた、コンピューターグラフィックの扱いに関連して、レポートを発表した。当時私自身はアップル社のマッキントッシュを使用し、イラストレーターというソフトでロゴタイプやマークを作成したりしていたが、一般にはまだ、パソコンでどんなことができるかがよく理解できない時代だったので、興味深く聞いて貰えた。

特にフォトショップという写真を自在に操るソフトが発表されたばかりで、これを紹介したときには参加者全員が驚いていた。

最後に照井先生（当時白石、現国際情報）から、将来的に高校美術科の単位数が減単になりそうな動きであること、そして、それらを守っていくには、結局、我々美術教師の意欲と努力しかないのではないかという確認で分科会はとじられた。

第41回全道教育研究大会（札幌大会）をふりかえって

札幌市立八軒北小学校　熊谷　悦代

1991年の暑い暑い夏。第41回全道造形教育研究大会が札幌の三角山小学校を会場に開催されました。三角山小学校は、すぐ裏手に三角山を配し、街の中の学校としてはとても恵まれた環境にありました。また、彫刻美術館がすぐ近くにあるなど学校をとりまく一連の環境は文化面でも充実していました。

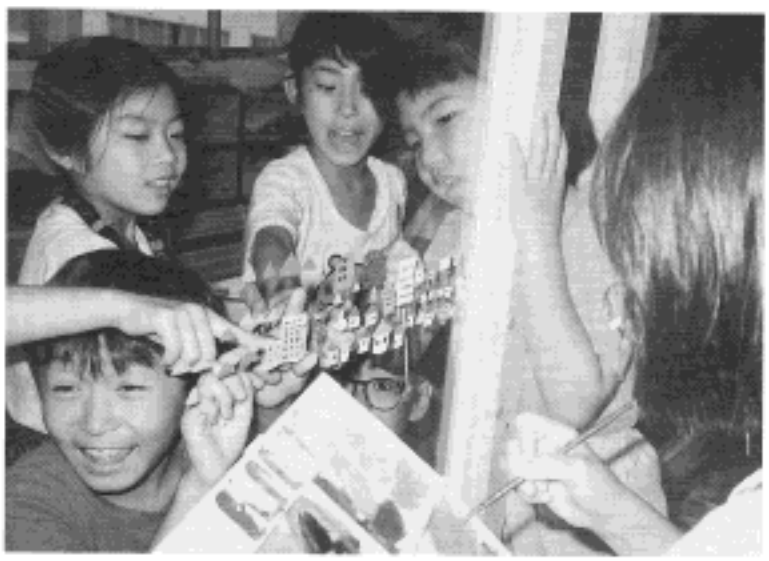
5月の末から6月の初めにかけては、セミの大合唱の中グランドで体育を楽しむことができ、また、北海道地方にしか棲息しない山地の蝶エゾシロチョウの羽化を学校の庭で見ることができます。シロチョウの仲間であるこのエゾシロチョウはサナギや幼虫のそのグロテスクな様とうって変わって鱗粉の少ない清楚な蝶になります。その羽化はみるみる間に行われ、子どもたちの周りを輪舞する様は感動の一コマです。さらに子どもたちは「三角山の時間」の活動を通して三角山と様々なつながりを持っていました。

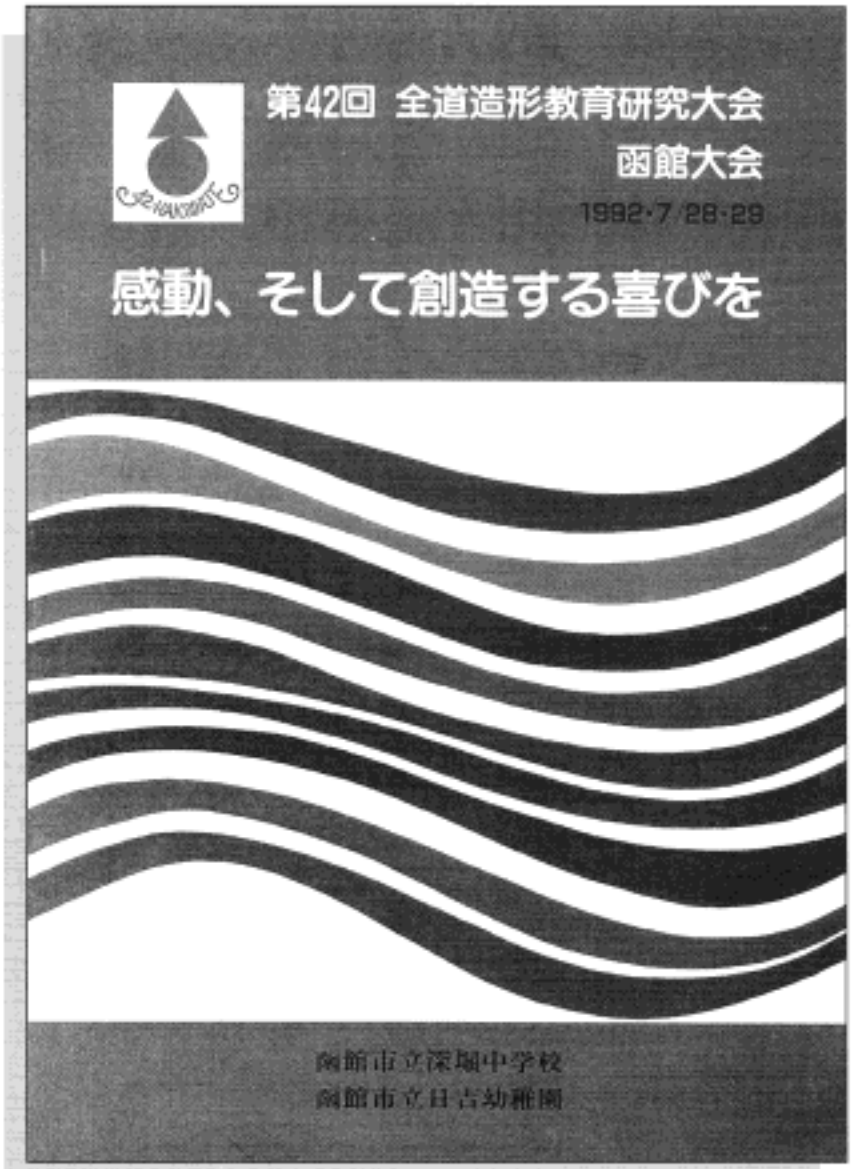
大会の授業時は4年生を担当していましたので、感じる主体の"想い"を中心に体感感動や対象感動を絵画表現にまで高め、ガラスにかくという遊び心を満たしながら表現への自信につなげていきました。

子どもたちは"三角山の春夏秋そして冬"を生き生きと表現しました。何よりもガラスにかいたので子どもの制作中の表情が手にとるように見え、交流も自然にできて意欲の持続につながる効果を生み出しました。

ガラスにかく緊張感と身近な生活の中でふくらんだ"想い"が多種異質の描画材料を使うことによって多様な表現を生みました。

写真に写っている子どもの表情が生き生きしているのを見るにつけ、1991年の暑い暑い夏が想い出されます。





第42回 函館大会

大会シンボルマーク

日時　一九九二年七月二八・二九日

会場　函館市立深堀中学校
　　函館市立日吉幼稚園

研究主題

感動、そして創造する喜びを

―一人一人が持ち味を生かして、生き生きと表現する子―

1、研究主題について

(1) はじめに

今日、無気力、無感動の子ども、また、自ら考え判断する能力に乏しく、個性のない同型人間が増えつつあると言われています。

具体的には、幅広い知識に富み、種々の能力に優れ好きな事には意欲的に取り組むが、表現活動では、驚きや感動が少なく、集中力持続力に乏しい。また、抵抗のあるものを嫌い、深く追求する態度に欠け、表現力に乏しい、作品に素直に感動することや、物、作品を大切にする心構えに欠ける、等々が指摘されています。

そして……、これらは、今日の高度成長高学歴社会を反映し、表面化して来たと言われる受験戦争、記憶中心主義の弊害と考えられています。

函館では、これらの指摘・反省をもとに、数年前から、一人一人の活発で内面的な思考活動を大切にしてきました。また、描く・つくるといった一連の造形活動を通して、材料や条件と相対し困難を克服する中で、一人一

人の個性に応じ自己表現していくところに、この教科の特質があります。このことをふまえ「意欲的に学習に取り組ませ、一人一人を伸ばす指導のあり方」を実践課題として取り組んできました。

今大会を、これまでの実践を基に、後述の視点を踏まえ、毎日の授業を通し、一つ一つ改善して行く、再出発の場としたいものです。

(2) 転換期を迎えて

今回の学習指導要領改訂の基本的なねらいとして「個性を生かす教育」の充実があげられています。

これは、学校における全教育活動を通して一人一人の個性を育て、生かすことを重視するものです。

美術教育も創設当初から個性尊重の重要性を訴え、個を相手とし、個性的な表現を大切にしてきました。

しかし、連盟主題、札幌大会主題でも述べられておりますように、個性の大切さを旨としながらも、必ずしもそうではなかったと思います。

反省点として、教師の思いで表現させたり造形的な発達特性を無視し高度な表現を求めたり、指導プロセスよりも結果を、作品を重視した指導をしてきてしまった等があげられます。

これらの点を、謙虚に受けとめ、十分反省し個性を真に生かし、育てるための工夫・改善を加えていきたいものです。

(3) 工夫・改善の視点

◎年間指導計画を見直すなかで

・改訂の主旨に沿った、系統性・教材精選の面から

◎題材選定時には

・題材の工夫、教材開発の面から

・指導法・授業形態の面から

◎指導案作成時には

・個を生かす場をどう工夫するかの面から

・個に応じる指導法の工夫という面から

・「つけたい力」、「基礎・基本」の面から

◎一時間の授業の改善では

・子どもの側に立ち、主体的に学習させるという面から

・個に応じる指導法の改善・工夫という面から

・学習のプロセスを大切にするという面から

◎事前・事中・事後では

・個性を把握するという面から

・素材の収集・工夫の面から

・資料・機器の活用の面から

・自己評価・評価の面から

等々、日常取り組まなければならない面が多々あります。

2、研究主題の具現化

(1) 具体的取り組みとしての二視点

教材開発の視点から

・子どもの実態・造形的発達特性等を考慮し、しかも、子どもが楽しんで取り組み学習意欲を高め得る題材の工夫（子どもが主体的に、意欲的に学習するためには楽しさが学習に求められます。教師は子どもの趣味・関心のもてる学習素材の教材化の工夫が必要です。）

・多様な学習形態に対応できる、幅広い、複合された題材の工夫（安易な教材は避け、個々の子どもが収集してきた素材を工夫し、生かせるような、また、子どもの主体的な学習に預け得る選択の幅広い題材を工夫することが必要です。）

(2) 授業改善の視点から

・子どもの良さを深く理解し、援助する工夫（教師は、子ども一人一人の成長を見守り個々の能力や個性を引き出し、育てる援助者でなければなりません。一時間の授業の中の、どこで、どう援助するかをも工夫したいものです。）

・学習プロセスの工夫（主体的に表現活動するということは、結果よりも、話す、動作に表す、操作する等の活動を大事に

●公開授業一覧

校種	内容・分野	公開学年	題材名	授業者
幼稚園	表現	4歳児 5歳児	なつのあそびをしよう	前原聡子（函館市立日吉幼稚園） 西村菊江（函館市立日吉幼稚園）
小学校	造形遊び	3年	みんなのうちゅうせん	滝本伸幸（函館市立千代田小学校）
	絵に表す	2年	そらをとんだら	中野至敏（函館市立桔梗小学校）
	立体に表す	6年	ゆめのとう	中村吉秀（函館市立旭岡小学校）
	つくりたいものをつくる	2年	かみでへんしん	多胡豊（函館市立深堀小学校）
中学校	絵画	2年	2年生の研修スケッチ	石原佑一（函館市立桐花中学校）
	彫刻	1年	風をイメージしてつくろう	水口司（函館市立港中学校）
	デザイン・工芸	2年	立体感のある平面構成	野呂憲一（函館市立赤川中学校）

することではないでしょうか。）

・学習の見通しを持たせる工夫（主体的に学習させるという観点から、どんな題材を、どういう方法で、何時間ぐらいでという見通しを持たせることも大切です。）

・活動時間の確保の工夫（発達の個性が一番現れるのは「作業時間の速さ」だと言われます。それらが何処から生まれるかを見ようとすれば、当然、子どもに目が注がれます。そして、発達の個性への配慮が必要になります。）

以上の視点を踏まえ、毎日の授業を通し、一つ一つ、着実に改善して行きたいものです。

3、研究会から

●授業者から　（速報より抜粋）

滝本伸幸

「造形遊び」三年〈みんなのうちゅうせん〉

三年生の造形遊び。新指導要領の中で初めてこの言葉を聞いた時、「あれ、造形遊びというのは、一、二年のはずだが……。」と思わず口にしてしまった。まさか、この全道大

会で授業をすることになるとは、考えてもいなかった。

さて、実際に授業の準備を重ねていくうちに、この新しい、未知のものである「中学年の造形遊び」はこの私に次々と試練を与えてくる。

・造形性にこだわり過ぎて、遊びの要素が薄れているぞ！

・それでは、遊び中心で造形的にやや稚拙だ！

・準備はこんなに手間暇かけて、いいのか！

・これじゃあ、無理に遊ばせているのでは？

・つくったものの始末はどうする？こわしてしまったら、子どもの意欲をどうするのか？

・三年生の造形遊びは、つくってから、遊ばせるのだ。etc。

（以上は未知の物体、「中学年の造形遊び」が私にささやいた声です。）

兎に角、後にも先にも前例のない中学年の造形遊び。何を参考にしたらよいのかわからず、暗中模索、試行錯誤を繰り返し、今日まで辿り着いた。

私自身としては、すでに施行されている「中学年の造形遊び」の先駆けとなることに感謝しており、さらに授業を分科会の中で今後の図工・美術教育の新しい指針、方向性などが示されていくことを期待しております。

●授業のようす（速報より抜粋）

幼稚園部会「なつのあそびをしよう」

部会司会者　杉　本　加代子

・今日の子どもたちの造形表現の引き金になるいくつかの動機というか、表現を誘発する動機が環境を通して子どもの感性が環境に向けて働きかける活動が、場面、場面で見られたのではないかと思います。

・子どもの感性が環境をとらえたからといって、即座に表現活動に発展するとも限らないし、そこに空間や時間の保障、保育者の援助のタイミングなどから、保育者がとらえる造形表現に対しての熱意が感じられました。

・前日の雨が、今日は快晴に変わったのですがグランドの状態がよくない為、中心活動が室内に集中していた。次第に外へ気持ちが向いてくる子どもたち、ステージの魚つりごっこが、教師や友達の刺激を受けて保育室ベランダ前に環境の再構成ということで続けられる。

（参加者も外に移動）

・ビニールプールに魚やタコなど浮かべる

T　……（表材が色紙であるタコを見て）

「元気がなくなってきたね」

C1……「空気を入れるといいよ」

C2……「紙はぐじゃぐじゃになるね」

・製作コーナーの部分から

貝に穴をあける場面では参加者の方々も興味深く視察しておりました。

全体を通して、とても楽しそうに遊んでおりました。

●分 科 会 一 覧

校種	分科会番号	内容・分野	分科会テーマ	提 言 者	助 言 者	司 会 者	運営・記録
幼稚園	1	表　現	よろこんで表現する子をめざして	立間 久美子（函館藤幼稚園） 福田 晃子 由佐 こずえ（札幌なかのしま幼稚園）	森川 昭夫（札幌清明幼稚園園長） 斎藤 幸子（函館市立函館幼稚園園長）	外山 信子（函館市立万年橋幼稚園） 杉本 加代子（北海道教育大学附属函館幼稚園）	中嶋 あや子（函館市立函館幼稚園） 三箇 カオリ（函館市立松風幼稚園）
小学校	2	造形遊び	表現の喜びがあふれる造形遊び	大島 道夫（函館市立高盛小学校） 隅田 重明（七飯町立大中山小学校）	本間 義視（帯広市立花園小学校教頭） 紀谷 義彦（七飯町立大中山小学校教頭）	佐藤 良紀（函館市立柏野小学校） 藤木 邦啓（千歳市立恵庭小学校）	出町 恵子（函館市立柏野小学校）
	3	絵に表す	一人一人のおもいが広がる題材の工夫	鈴木 秀明（函館市立中央小学校） 村上 勉（恵山町立恵山小学校）	近堂 俊行（恵山町立古武井小学校） 手代木 惇（戸井町立日新小学校教頭）	福田 隆次（函館市立桔梗小学校） 大脇 基樹（美唄市立中央小学校）	長谷川 久子（函館市立赤川小学校）
	4	立体に表す	生き生きと主体的に取り組む表現活動	岩島 寿光（函館市立西小学校） 谷口 光伸（江差町立南が丘小学校）	石井 久（森町立石倉小学校教頭） 伊藤 英明（函館市立的場中学校教頭）	鈴木 正夫（函館市立上湯川小学校） 小野寺 宏一（雄武町立豊丘小学校）	高橋 喜子（函館市立中央小学校）
	5	つくりたいものをつくる	つくる喜びいっぱいの造形活動	高石 悦朗（函館市立北美原小学校） 清水 英俊（森町立尾白内小学校）	中川 真一郎（鷲石町立雲石小学校教頭） 安井 努（八雲町立栄浜小学校）	川合 信彦（函館市立駒場小学校） 内山 博之（北海道教育大学附属函館小学校）	船橋 恭二（北海道教育大学附属函館小学校）
中学校	6	絵　画	生き生きと表現活動させるための教材化の工夫	武田 誠（函館市立赤川中学校） 柿崎 雄二（南茅部町立尾札部中学校）	野又 一衛（上ノ国町立上ノ国中学校教頭） 金谷 彊（函館市立慈岡小学校校長）	近堂 隆志（函館市立大川中学校） 下坂 正之（音更町立共栄中学校）	山本 隆夫（函館市立的場中学校）
	7	彫　刻	一人一人の発想や構想を確かなものに	土谷 敬（北海道教育大学附属函館中学校） 横岸沢 英二（七飯町立大中山中学校）	藤井 昭夫（北海道教育大学附属函館小学校副校長） 木村 礼寿郎（七飯町立大中山中学校教頭）	戸次 正義（函館市立湯倉中学校） 関 秋宏（旭川市立神楽中学校）	後藤 征秀（函館市立湯川中学校）
	8	デザイン工芸	生き生きと表現するための段階的学習の進め方	武田 文彦（函館市立潮見中学校） 仲井 靖典（長万部町立長万部中学校）	木村 貴（松前町立白神小学校校長） 若山 明久（七飯町立藤城小学校校長）	長川 利幸（函館市立本通中学校） 佐藤 公毅（苫小牧市立沼ノ端中学校）	堀井 朋子（北海道教育大学附属養護学校）
高校	9	立体造形（紙と木を使って）	発想を拡げ創造性を高める題材の研究	福田 好孝（函館中部高校）		本庄 隆志（函館東高校）	高橋 邦彦（上磯高校）

●分科会から　（速報・大会集録より抜粋）

第七分科会　中学校・彫刻

分科会テーマ

（一人一人の発想や構想を確かなものに）

討議の柱

◎発想や構想を豊かにする学習活動のあり方

◎彫刻の製作における指導・援助はどうあるべきか

運営・記録　後藤征秀

発泡スチロールで抽象形態を作るといった新鮮な素材、題材であったことから、授業者と質問者との間で、これからの諸問題や可能性について活発な意見がかわされた。

生徒たちの自由な独自の発想や構想を、材料や道具に限定され制限されていくのを、どうやったら生徒を援助していくことができるか等、根元的な内容も、この目新しい題材に触発されて多数でてきた。このことからも当分科会で行われた授業は、これからの美術教育に多くの面で刺激を与えたものであった。

第九分科会　高等学校

分科会テーマ

「発想を拡げ、創造性を高める題材の研究」

提言者　福田好孝

提言について（一部抜粋）

自らの頭脳と手を使って制作する「手作業」の大切さを痛感する。それと同時に生徒にそれを体験させる必要性も強く感じる。「紙」を「切る」「貼る」そして「形を創る」、「木」を「削る」「彫る」そして「形を創る」という基本的な「手作業」を出発点に生徒の限りない「創造性」に大いに期待し、抽象造形に挑戦してみたい。（中略）

まとめと今後の展望

生徒たちは、すばらしい抽象立体作品を多数生み出してくれた。この課題に関してはすべての作品の完成度が高く、手抜きの作品はほとんど見られない。また発展性の高さは予想をはるかに上まわっており、最初に投げかけである「大きな空間」にステンレスか何かにしてそのまま設置できそうな作品が数多く見られる。「紙」そして「木」による抽象立体造形によって生徒の創造性・可能性をある程度まで引き出すことに成功できたと信じたい。問題としては、生徒は、はたしてどのくらい「抽象」について理解を深められたかという点。もうひとつは、作品のスケールが小さなミニチュアにとどまらざるを得ないため立体造形物としての存在感の希薄さが否めない点である。より一層のスケールの大きさと発展性を持たせる方法が課題として残されている。

4、記念講演

演題「望郷」

講師　画家　斎藤真一氏

大会二日目、「望郷」という演題で記念講演をされた斎藤真一氏に来ていただいて本当に良かったと思った。わたしたちの心に語りかけてくるような先生のお話しは、予定の時間をあっという間にさせてしまった。

5、大会を終えて

大会事務局長　安井　孝

第42回全道造形研函館大会が七月二八日・二九日、函館市立深堀中学校と函館市立日吉幼稚園を会場に、私達の予想を上回る四〇〇名の参加者と晴天にめぐまれ、盛況の中に終了し、連盟旗を次期大会開催地、旭川市へ引き継ぐことができました。

今大会の会場や日程・内容につきましては準備の段階で苦しまぎれの部分も多々ありましたが、いろいろな状況の中で現在の研究会の力を最大限に結集できたものと内心自負し仲間の皆さんに本当に感謝しています。

全道大会は開催地の研究活動を活発化させ多くの成果を残します。苦労はありますが無理なく開催できたらと思います。木造校舎のごく普通の中学校で、ありのままに当地の美術教育の姿を見ていただき、ご指導に多謝！

第43回 旭川大会

日時　一九九三年七月二八・二九日

会場　旭川市立東五条小学校

大会シンボルマーク

研究主題

思いをあたため
心はずませ
創る喜びを

1、研究主題について

(1) 子どもの思い、教師のあり方

本来、子どもは表現活動に対して、どのような考え、どのような思いをもっているのだろうか。このことを明らかにすることが大切であると考え次のようにおさえた。

○子どもは、五感を働かせて、からだ全体でつくり出したいと思っている。

○子どもは、思いを持ち、様々に試したいと思っている。

○子どもは、自分らしい素敵な夢を表現したいと思っている。

○子どもは、知恵やわざをみがき、表現したいと思っている。

このような子どもの思いや願いを援助していく教師のあり方として、次のように考えた。

○子どもの自由な発想を認める柔軟な感性を持つ教師でありたい。

○子どもの主体的な活動を温かく見守り、よき相談者としての教師でありたい。

○子どもの様々な表現を、その子の魅力であると共感できる教師でありたい。

このような考えを基に、子ども一人一人の確かな表現や感性の高まりを目指して、研究主題を設定した。

(2) 『思いをあたため』とは

子ども一人一人が、自分の好きな形や色、材料などで表したり、つくったりする活動を楽しむには、様々な事柄やものに興味・関心を持ち、進んで見たり触れたりして、自分なりに表現したいという思いが表れ、より確かな思いへとふくらませることができる環境が必要である。

そのためには、子どもたち一人一人が五感を働かせ、心を動かし、表現への思いを巡らす多様な体験や、地域の自然や身近な素材との出会い、地域の人々との心の交流など、地域環境を生かした直接体験や生活実感を味わうことのできる豊かな体験が大切となり、このような体験によって、つくる心、見つけ出す目、つくる姿勢に刺激を与え表現したいという欲求が高められると考える。

また、子供たちは、いろいろな材料を集めながら、あるいは、その材料に触れたり組み合わせたりする遊びの中から自分の思いをより確かなものにしていくものであり、このような活動を通して子どもたちの感性をより豊かにしていくものと考える。

このようなことから、子どもたち一人一人が、表現への思いを主体的により確かなものへとあたためていく活動を重視していくことにする。

(3) 『心はずませ』とは

自分らしい思いを持つことは、個性をつくりだす源となり、その子らしい思考、判断、表現や活動を生み出すエネルギーとなる。そして、その思いが生かされたとき、意欲が高まり、その思いに基づいた主体的な表現活動を促され「こんなことを試したらどうなるだろう。」などとさらに思いを膨らませ、豊かな思いへと自分らしさを発揮していくものと考える。

また子どもは、自分の思いが生かされたとき、自分らしい課題を見つけ、その解決に向けて取り組み、試行錯誤を重ねることで思いを広げ、深めるという創造活動を展開していくものであると考える。

このように、子どもたちは本来、素直に、率直にいろいろなものにかかわり、感じ、考え、試み、夢を描くものであることをおさえ、表現活動の過程において、子ども一人一人が心をはずませて活動できるように教師が支援していくことが大切であると考えた。

2、主題にせまるために

(1) 研究の視点

これまでの実践の成果を基盤にして、子どもの側に立った教育活動の展開を通して、一人一人の感性の高まりを求めるために、次のような観点に立った研究を推進することにした。

①題材の開発

○子どもの多様な発想を引き出す、地域の自然や文化を活用した教材の工夫

○指導のねらいに即し、一人一人の思いを深める教材の工夫

②指導過程の工夫

○子どもの心をはずませ、創造的な表現意欲を高める教材や、材料との感動的な出会いの場の設定

(思いをじっくりあたためる場の設定)

○子どもが題材と深くかかわり、主題に基づく豊かな発想を促す場の設定

(ドラマチックな場づくり・・資料提示の工夫や教育機器の活用等)

○思いに応じて、心はずませて表現する時間や場の設定

（表現の方法や技法、材料の選択、子どものリズムやペースでの表現への援助）

③評価の工夫

○表現意欲を高め、表現の喜びを味わわせる評価の改善

（評価観点の位置付け、自己評価の活用、学習カードの活用、指導・援助の工夫）

（2）授業の創造的な展開

授業では、子どもたち一人一人が、自分の思いや良さ、可能性などを生かすことができる適切な場や機会が十分に用意された学習過程を設定し、ゆとりをもって表現や鑑賞の創造活動を楽しむことができるようにすることが必要であり、教師は、自分の主題や意図を見つけ、よりよく、より美しい表現などの活動を目指して発想したり、構想したりして、進んで手がけ、自分なりに表現したり、実現したり、鑑賞していくように援助していくことが個に応じた指導の基本となる。

私たちは、新しい学力観に立つ授業の構想と展開を図1のように考えてみた。子どもたちの学習活動の流れと、それを支援する教師の活動及び、よさを生かす手だてや姿勢が快く響き合うことにすること。そして、なによりもそれらのことに教師が柔軟に対応していくことが重要であると考える。

図1　〈授業の創造的な展開〉

子供たちの学習活動の流れとそれを支援する教師の活動及びよさを生かす手だてや姿勢が快くひびき合うようにする。＝柔軟に対応すること

導入

1　学習活動を自分のものとして受けとめるようにする
子供たち一人一人が，自ら学習活動に向かう望ましい状況をつくり出す。
学習の主題、題材名の紹介（子供たちの側に立って）
さわやかに提案
・複数の題材名や補充の提案の準備
・自分の表現などの主題や意図などを見付けるように個に応じた提案

2　具体的な学習活動の手がかりをつかむようにする
表現などの具体的な手がかりをつかむような参考資料を紹介したり，手がかりとなることばかけなどの手だてを講じる。

3　展開の過程において評価するようにする
子供たち一人一人の表現などのよさや楽しさを味わうようにゆったりした気持ちで付き合うようにして，愛情をもって感じとったり，学びとったりし柔軟に対応する。
指導計画に明示し、指導と評価を一体化する

展開

4　材料・用具、技術や技法の指導の工夫
子供たちが自分の思いの表現を楽しむことを通して、見付けたり、選んだりして生かしながら、自分のものとしていくようにする。
・表現活動などの展開の状況に応じて、材料を補充したり、紹介したりする
・環境の一つとして、子供たちの活動の近くに材料をおき、気付いて生かすようにする
・技法などは、子供たちが表現の思いに合わせて表現を工夫する過程において，気付いたり，獲得したりする

5　発想などのひろがりなどに対応する
子供たちの発想などは、教師自身の楽しい表現作品例、材料などの提案や紹介、友達の表現などによって転換したり、ひろがったりするばかりではなく、子供自身が手がけている表現などからも転換したり、ひろがったりするものであることから、その場などを明らかにしておき、個に応じて助ましたり，支援したりすること。
・表現方法を見付けるきっかけとなる適切な資料や材料などを適宜紹介する

展開

6　子供の表現の思いを大切にする
子供たち一人一人の表現の思いを十分に理解していることが重要である。
・その子の思いを、そっと聞くことによって理解するとともに、子供にとっても表現の思いや発想、構想のイメージを明確にするきっかけにもなる

7　発想や構想、創造的な技能などの指導と評価
表現の技能は、表現の思いに応じてはたらくものであり、新たな発想や構想などに応じた新しい技能を工夫する必要にせまられ、自分の経験などをもとにしながら、進んで試み、見付けていくことになり、展開に応じて対応することが大切である。

終末

8　表現や学習活動を温める
子供たち一人一人が，自分の表現や活動そのものを温め、自分の表現や活動の在り方が好きになるようにすること。
・自分の表現に新しい題名を付けたり、イメージに合ったことばを付けたり，詩を付けるなどさせ，それに共感する。

9　学習活動のひろがり
子供たちは、表現などによる学習活動では，その表現したものがある限りそれを見たりするたびに、新たな表現の思いや発想がわいたりするものであることから，それらを受け止め、表現をふくらませるようにする。
・一つの表現をもとに新たな発想や構想をし，表現をふくらませ続けるよさがあるので受け止め，助ます

3、公開授業・分科会

私たちが求め、模索してきた授業は、子どもたちがつくり出す、子どもらしさが生きる、楽しさに満ちた授業でした。

るきいがいもお

- おお！――感動
- もしや？――期待
- いいね！――共感
- がんばる！――集中
- いきつもどりつ――試み
- 気に入る――自信
- 広げる――深まり

子どもの「思い」が授業の中に流れ続けていることが大切だと考えます。一人の百歩より百人の一歩を目指して、求める授業に向けて努力していきたいと思います。支援と評価の一体化など多くの課題が残されていますが、今求められている授業像について、一つの提起ができたのであればうれしく思います。

授業者の声

「子どもが生きる楽しい授業だったよ」との参加者の励ましに、ちょっと自信がもてました。

参加者の一言

導入の段階で、子どもの思いを育てていく大切さを感じました。合わせて、得意、不得意ではなく、一人一人が、その子なりの表現をしていこうと思える題材の選択の難しさ、そして、教師の役割などなど、大変勉強になりました。

●公開授業

校種	内容・分野	学年	題材名	授業者
幼稚園	表現	5歳児	動物を作って遊ぼう	平広子（旭川くりの木幼稚園）
		5歳児	動物を作って遊ぼう	長尾寛子（旭川ふたば幼稚園）
小学校	造形あそび	1年	うつった・うつった	坂本幸（旭川市立東五条小学校）
		4年	何ができるかな？	宮本佳世（旭川市立東五条小学校）
	絵にあらわす	5年	私の家	武田千恵美（旭川市立神居小学校）
		6年	見て聞いて驚いたあの修学旅行	横川香代子（旭川市立永山小学校）
	つくりたいものをつくる	4年	ころころドキドキ楽しいしかけ	佐藤修司（旭川市立緑新小学校）
	立体にあらわす	6年	大空にとびたとう	垣内寛子（旭川市立永山西小学校）
中学校	絵画	2年	私の不思議な世界	森清行（旭川市立忠和中学校）
	デザイン・工作	2年	手作りオリジナル壁掛けを作ろう	井山和博（旭川市立永山南中学校）
	彫刻	2年	ゆかいな仲間（～をする友達）	畠山勝（旭川市立神楽中学校）

●分科会１

校種	No	内容	テーマ	提言者	助言者	司会者	運営・記録者
幼稚園	1	表	よろこびを体いっぱいに表現する造形活動㊥幼児の絵からのつぶやき㊦	平　広子 旭川・くりの木幼 長尾　寛子 旭川・ふたば幼	大谷　勝美 旭川・わかば幼・長	梅田　楷宗 旭川・くりの木幼・長	赤井　美江 旭川・めぐみ幼 迦西　晃子 旭川・せつれい幼
小学校	2	造	その子らしい表現を試み、楽しむ造形あそび	紙谷　恒 旭川・高台小	渡辺　正勝 旭川・台場小・前 北村　昶 比布・中小・前	玉手　稔唯 旭川・永山小 鴻江　茂 芽小牧・大成小	沢口　容子 旭川・愛宕東小
小学校	3	絵	その子らしい思いを持ち、広げ、表現する絵画指導のあり方	氏家　貞 旭川・近文小	築山　尚明 旭川・南都小・前 木村　典義 美瑛仁宇布小中・長	市野恵美子 旭川・向陵小 堂下由紀子 江別・江別第二小	川村由美子 旭川・東町小
小学校	4	つ・立	その子らしい思いや願いで、思いきり表現する指導のあり方	菅原　敏光 旭川・旭川第三小	重山　恵 旭川・神居小・前 波多野恭輔 名寄・名寄東小・長	石道恵智子 旭川・末広北小 内山　博之 網走・教大附小	赤島　吉昭 旭川・旭川第二小
中学校	5	絵	一人一人が表現の主題を持ち、生き生きと個を表現する絵画指導のあり方	川合　薫 旭川・明星中	中西　清治 旭川・東陽中・前 小杉　正典 富良野・布部中・前	青木　新治 旭川・緑が丘中 田丸　公記 余市・東中	島本　淳子 旭川・神居中
中学校	6	デ・工	一人一人が表現の主題を持ち、生き生きと個を表現するデザイン、工芸指導のあり方	小笠原信志 旭川・広陵中	五十嵐一之 旭川・緑が丘小・前 山理　利春 富良野・山部中・長	小松　吉隆 旭川・六合中 阿地信美智 留萌・港南中	成田　慎司 旭川・光陽中
中学校	7	彫	一人一人が表現の主題を持ち、生き生きと個を表現する彫刻指導のあり方	品田　潤 旭川・光陽中	宮川　昭雄 朝日・朝日中・前 奥野　郁男 札幌・石山中・長	原　完 旭川・永山中 土谷　敬 函館・教大附中	沢田　克之 東川町・東川中
高校	8		中高の美術の連携を考える㊥ 新指導要領と高校美術教育㊦		平田　和也 旭川・竜谷高	佐藤　範夫 旭川・旭大高	宮崎　和夫 旭川・東栄高

●分科会２

校種	内容	提言者	助言者	司会者	運営・記録者
幼稚園	交	講師　原　良三 旭川・旭川中・長		山中　実 旭川・ふたば幼・長	赤井　美江 旭川・めぐみ幼 迦西　晃子 旭川・せつれい幼
小学校	造	阿部　宏行 札幌・中央小 渡辺　貞之 深川・深川小	助言者、司会者、運営・記録者については、分科会１に同じ		
小学校	絵	添田　好美 雄武・豊丘小 佐伯　進 室蘭・高平小			
小学校	つ・立	大田　哲嗣 旭川・春光小 中村　吉秀 函館・旭岡小			
中学校	絵	坂野　潤治 旭川・教大附中 森　富輝 網走・美原中 影山　美香 帯広・帯広第六中 中村　靖 富良野・金山中	萩原　常良 音威・音威小・長 武田　薫 旭川・教育大旭川分校 川上　典 上川教育局指導主事	大口　優 旭川・六合中 関　秋宏 旭川・神楽中	吉永　一江 旭川・春光台中
高校		山口　幸彦 旭川・南高 斉藤　健昭 旭川・東高	平田　和也 旭川・竜谷高	木村　勝男 旭川・北高	川口　幸和 旭川・西高

4、大会寸描

○自ら楽しむ造形広場

この広場は、身近な材料を使って、子どもの心をより豊かに拓く授業に生かせるものを、そして、参加していただいた先生方にも楽しんでいただこうと計画されました。

チェンソー体験コーナー、堆朱加工、プロ作家を講師とした木像嵌画への挑戦等、屋内、屋外それぞれの会場で和気あいあいの中で行われました。

○緑と光の中での野外彫刻展及びグリーンコンサート

今大会では、授業はもとより、旭川の取り組みをいろいろな角度から知っていただこうと、会場の中庭に三十点の彫刻を展示しました。毎年八月に開催される小・中学生「彫刻の森」大会に出品予定の作品です。木材や金属、発砲スチロールなど素材の幅も広がってきており、表現も、風や光を取り入れるなど多様な展開となりました。また、この会場で明星中、東五条小、両校の吹奏楽部、器楽クラブによるコンサートが行われ、暑さの中の一時、緑の木陰でさわやかな音色に耳を傾けていただきました。

6、大会を終えて

●大会に参加して―参加者の声（抜粋）―

くりの木幼　平　広子
ふたば　幼　長尾　寛子

・・・公開保育をしてみての感想です。予想していたよりも、子供たちの動きを見ることができなかった。多くの参観者に子どもたちもびっくりしていたようだった。その中でも、少しずつ何をつくろうかと考えながらつくりはじめたようだった。やはり、予想せぬ場面が多く出てくる。日常の保育とは全く違った姿になってしまった。そんな中であったが、新しい経験ができて良かったと思う。

澄川小　一色ひとみ

・・・中庭に並んだ大作。フクロウ指揮の小鳥のコーラス隊がベンチの前に座を占め、藤棚には新素材の虫がゆれ、カラカラと風見鶏が鳴り動き、木陰にはダックスフントの長椅子と、どれをとっても太陽の下でキラキラと輝き、その場にふさわしい顔をしていました。中学生になると、遊びも大人っぽくなるようで、漢字の作画もあり、これにはニヤニヤしたり感心したりして見ました。雨の、が、しずくになったり、猫の田がねこの顔だったりという楽しい作品でした。こんな楽しい図工ができたらいいのにと思って会場を後にしました。

石山中　奥野　郁男

・・・"愉快な仲間"（中2、彫刻）の授業は明るく澄んだ声の畠山　勝先生が、粘土によるレリーフで生徒一人一人の主題にのっとって地山の形を工夫し、厚みの変化を求める粗付けの展開をされました。

I子さんは、丁寧な作業でいすに座る友達を。K男君は、大胆に粘土をのせる作業を。M子さんは、細かいスケッチのため地山から形を切り出すのに汗ばんでいました。各生徒は自分のイメージを大切にして、気持ちを作品に集中し目を輝かせていました。

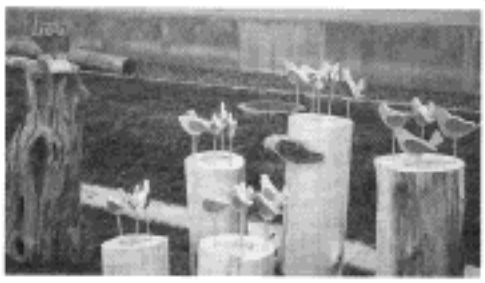
新しい学力観に立脚した個を生かす授業の提示がされていました。「とにかく楽しくできることが第一です。」という畠山先生の言葉が耳に残っています。

旭川南高　山口　幸彦

・・・私たちの仲間には、中学校を経験した者が多く、自分たちがかつて授業で使った教材が、更に工夫され、子供たちを引き付ける授業展開がなされているとの感想が多くありました。又、美術の時間が削減されてきている中で、これらに対応した授業（細かな資料の提示など）がなされているとの意見が多かったようです。

釧路造形事務局　稲船　正男

新しい造形教育の心を今、ここ旭川より発信できたことに大きな喜びを感じます。子供たちの思いを大切に共感し支援する教師の姿を学ぶことができました。この成果を基に、来年は霧の釧路でお会いしましょう。



今大会では、各地との研究交流をより深めたいとの本部・研究部の提案で、地区代表によるミニ交流集会が開かれました。新しい試みとしてのすばらしい企画であり、今後、この交流の輪が大きく広がっていくことを願うものです。

第44回 釧路大会

日時　一九九四年七月二七・二八日

会場　釧路市立柏木小学校
　　ひぶな幼稚園
　　釧路市生涯学習センター

大会シンボルマーク

研究主題

心ときめく、創造の喜びを求めて

1、研究主題について

(1) 造形教育に求められているもの

造形教育の目標は、子ども一人一人の造形活動の基礎的な能力を育てながら、表現の喜びを味あわせ、その活動を通して豊かな情操を養うことにある。これは、自らの個性を確立し、伸ばす上で極めて重要な意義がある。造形教育は子どもの主体的な活動がなければ成り立たない学習である。逆に言えば、造形教育ほど子どもの主体性を伸ばせる教育はないと言える。造形活動のほとんどは、与えられた課題（もしくは自分で見つけた課題に対して、自分の創造性を生かし、試行錯誤を繰り返しながら、ものをつくりあげていく活動である。このような活動を繰り返す中で、子どもは自然に自分というものを見つけ、自分を表現する喜びを感じることができるようになり、同時に他の子どもの表現を認められる心やさしい人間に育つことができると考えられる。従って、これからの社会に求められている、予想外の出来事に対しても柔軟に思考でき、的確に判断ができる、主体的で創造

的な人間を育成するために、造形教育は重要な役割を果たすと考えられるのである。しかし、特に中学校教育の中では、授業時数が削減されつつあり、造形教育が果たすべき役割を遂行することが困難な状況がある。我々は、様々な試行錯誤を繰り返しながら、造形教育の目的を達成できるよう、全力で取り組まなければならない。

(2) 主題設定の理由

先に述べたように、現代社会は日々急激な変化を見せている。このような中で豊かな生活を送るためには、社会の変化に柔軟に対応できる人間の育成が必要であると考える。社会の変化に柔軟に対応するためには、多様な価値観の中で、主体的に思考し、判断し・行動できる人間でなければならない。我々は、このような能力を造形教育の中でどのように育成すべきかを考えた。その結果、今大会では、これまでの研究成果をふまえながら次のような研究を目指すこととした。自らの思いや願いを具現化するためには、造形的な創造力や構想力、新たなひらめきを持ちながら造形活動に取り組む心の育成が重要である。子どもの内なる欲求が造形活動への意欲を促すものであり、その結果得られた一人一人の満足感が次の創造力や直観力を刺激し、新たな発想を生み出すために必要な心情を育成すると考える。また、教師の役割としては、子ども中心の学習活動を支える支援が必要であると考える。

(3) ねらい

子ども一人一人が、造形活動の中で、その子なりのよさや可能性を発揮するためには・子どもが持っている思いや願いを大切にし、子どもが進んで活動できる充実した学習過程が不可欠である。その中で教師は、子どもの自ら学ぶ意欲や思考か判断力・表現力などを育て伸ばすとともに、自らの思いや願いを具現化できるように造形的な資質や能力を育成する必要がある。

(4) 解説

私達は、「心ときめく」を学習過程すべてに深く関わる感情のことであり、一人一人の子どもが主体的に、対象となるものや環境に出会うことによって、心情をより深め・発展させる可能性を持つものであるととらえた。子ども自身がドキドキするような「ときめく」場面とは、造形活動の多くの段階で考えられる。

① 題材との出会いの段階

題材との出会いにより、表現への期待は膨らむ。更に、生活経験や既習学習を通して生まれる、また内発的動機が表現への意欲を更に高める。

② 発想・構想の段階

資料との出会いや、他の人の考え方との出会い、また、新たな発見によるときめき。この段階においても、生活経験や既習学習から発想や構想のヒントが生まれ、心をときめかせることが多い。

③ 表現欲求の段階

今まで経験したことのない素材・材料・用具との出会いや新しい表現技法との出会いにより、これまで思いつかなかった多くの可能性が子どもの心の中に広がり、心ときめくことが考えられる。

④ 鑑賞の段階

美術作品を目の当たりにしたり、自分の造形活動をふり返ったり、友達との作品交流を通して、新しいことに気付いたり、考え方を発見したりするときめきが考えられる。

このようなときめく場面が多ければ多いほど、子どもの感性は研ぎ澄まされ、いろいろなことに気付くようになる。また、発想が豊かになったり、新たなひらめきが生まれやすくなったりするのである。これが自分らしい表現へとつながり、次の活動への意欲を高めていく。これを繰り返すことによって、新たな造形活動に対する興味・関心は更に高まり、試行錯誤を繰り返す中で自分らしい個性的な技能をも獲得でき、自分らしい表現へと高まっていく。従って、「心ときめく」とは、子どもの造形活動に対する意欲を支えるものであって、前向きに造形活動に取り組もうとす

る心の状態であると考えられる。

「創造の喜びを求めて」については、次のようにおさえた。創造の喜びは、ただ自分の作品をつくるという行為の中からは生まれない。自分のやる気と強い意志に支えられながら、多少の困難を乗り越えて活動に取り組んでこそ生まれると考える。つまり、創造の喜びとは、創造的な造形活動を通して自然に生まれてくる充実感や満足感を得る喜びや・新たな自己や新たな課題を発見する喜びである。このような積み重ねを繰り返すことによって、創造の喜びを培っていけると考えている。

(5) 授業を構築するために

私達は、子どもが創造的な価値を追求したり、創造的な造形能力を向上するためには、創造の喜びを子ども達が自ら会得できるような授業を構築することが必要であると考えている。そのためには、子どもの内発的動機を子どもと同じ立場に立って、共感しながら、揺り動かし、引き出す工夫が必要であると考えている。また、子どもの内発的動機を次の学習へのエネルギーとなるように、支援的立場に立ち、子どもの主体性を全面に出しながら後押しをすることが重要であると考える。子どもの心のときめきをより大きく広げるためには、教師は子ども一人一人の特性をより的確に把握し、子どもの能力を最大限発揮できるように常に心がけておく必要がある。そのためには、教師自身が題材の目標をしっかりとらえ、目標を達成するために必要な造形の基礎的・基本的内容がどのようなものであるかを充分理解しておかなければならない。

以上のような考え方で授業を構築する面からまとめると以下のようになる。

授業を構築する上で、まず考えなければならないのは、心のときめきを「子どもとともにときめく」という視点におくことである。

① 子どもの創造活動の原点を見つめ直すこと。

② 子どもの創造活動に対して、共感的理解を持つこと。

③ 子どもの主体的な学習を確立するための教師の支援のあり方を追求すること。

これらの視点から、造形活動における指導と評価を一体化した授業構築をどのようにすればよいかについて研究を進めるため、本研究主題を設定した。

2、研究主題の具現化

(1) 研究仮説

> 子どもの創造活動の原点を見つめ直し・子どもの創造活動に対して、共感的理解を持って支援にあたる授業を構築すれば、子どもは心をときめかせながら、創造の喜びを味わうことができるであろう。

子どもの創造活動の原点を見つめ直すためには、子どもが本来持っているであろう潜在能力を洗い出さなければならない。ここに研究の視点をおけば、それだけで膨大な量になるため、本大会では、子どもが本来持っている潜在能力を北海道造形教育連盟で考えている「どの子にも・内在する腹の底から沸きあがる旺盛なやる気・最後までやり通さずにはおかないといった意志」とおさえた。その上で、子どものやる気や強い意志に対して、どのような働きかけをして、どう引き出すかの工夫について研究を進めることにした。

(2) 研究の視点

研究仮説に迫るためには、子どもの活動が主体的でなければならないと考える。子どもの活動を主体的にするには、子どもの意欲を引き出す工夫が必要である。子どもの意欲を引き出せるかどうかは教材との出会いから始まる。子どもの興味・関心を刺激するような教材を与えることによって、子どもの意欲を引き出せると考える。教材との出会いの後は、どのようにして子どもを主人公にした授業を構築できるかが問題になる。やらされている子どもでなく、やりたがっている子どもにすることが重要なのである。また、子どもの意欲を持続させるためには、子どもの活動に対して常に教師が評価しながら、子どもの活動を認めてやることが必要であると考える。つ

まり、指導と評価を一体化させることによって、子どもは自分の活動が教師に認められているという充実感を持てるようになると思うのである。以上のような考えから、研究の視点を以下の3点においた。

① 子ども自ら主体的な表現活動をするための授業構築のあり方。

② 新しい学力観に基づいた評価のあり方。
（指導と評価の一体化）

③ 意欲につながる教材開発および教材化。

(3) 研究の視点に迫るために

① 子ども自ら主体的な表現活動をするための授業構築のあり方

a、指導目標の設定

b、学習過程の工夫

c、主題の工夫

d、子どものよさを生かす工夫

・一人一人の子どもの関心や美的直観力への気付き。

・主体的な学習活動を進めるための問いかけ。

e、学習活動における支援の工夫

・子どもの構想を具現化するための支援のあり方。

② 新しい学力観に基づいた評価のあり方
（指導と評価の一体化）

a、子どもを理解する方法の工夫

b、評価の観点と評価規準の設定

c、評価方法の工夫

・教師が子どものよさを共感できる評価。

・子ども自身が造形意欲を高めるための自己評価。

・グループなどによる他者評価。

d、評価の生かし方

③ 意欲につながる教材開発および教材化

a、子どもの興味・関心を高める教材や題材の工夫

c、地域の特性を生かした教材開発

・学校規模、地域の人材、環境、素材など。

おわりに

今回の研究を通して、これからの造形教育は、今まで以上に幼稚園から高等学校まで心豊かな人間を育てる」という共通の目的に立って、研究を進めていく必要があるという思いを強くした。なぜなら、幼稚園は幼稚園で高等学校は高等学校でそれぞれすばらしい実践を重ねていることを改めて実感させられたからだ。しかし、残念ながらそれらが一同に会して、議論をする機会があまりにも少ないのである。今はまだ、点として働いているように見える力であるが、これが線としてつながったときには、造形教育の力は本当にすばらしいものになると思われる。そのためにも、本研究会の果たす役割は大きいと思われる。幼稚園から高等学校までの点が、一本の線となり力を発揮するためには、子どもの発達段階に応じて「教えなければならない基礎・基本は何か」「育てなければならない資質や能力は何か」について、指導する側が共通認識を持ち交流を深めながら教育を進める必要があると思う。また、こんな疑問も生じた。時代は刻々と変化するが、求められる人間像まで、時代の流れと共に変化すべきものなのだろうか。もちろん、変化しなければならない部分も当然あるが、人間に求められる本質的なものは不変であると信じる。造形教育が担っているものは、人間に求められている本質的なものであるように思われる。我々大人は、子どもが夢を持てるような社会をつくらなければならない。そして、造形教育を通して子どもの夢を大切にしながら、子ども自身が自分の表現を好きになれるよう育てていければ、自分を大切にし友達も大切にできる心豊かな人間に育ってくれると信じる。

なお、研究に際し、多くの関係各位の方々のご指導ご助言を頂きましたことに感謝を申し上げ結びと致します。

授業・分科会一覧

●分科会１（授業）

校種	内容・分野	学年	授業者	助言者	司会者	運営・記録者
幼稚園	表現	5歳児	池貝　達也（釧路豊川幼稚園）	福井　凱将（北海道教育大学釧路校教授）	堀内小夜子（釧路豊川幼稚園長）	三浦久依（釧路豊川幼稚園） 佐藤寿美（第二豊川幼稚園）
	表現	5歳児	今野　鈴子、池田　奈美（ひぶな幼稚園）	山王丸喜一（白糠町立庶路幼稚園長）	佐々木浩美、羽生美智子（ひぶな幼稚園）	神田　明子、渡辺乃麻美（ひぶな幼稚園）
小学校	造形あそび	2年	中島　健朗（釧路市立城山小学校）	中村　彰（白糠町教育委員会指導室長）	坂本　重雄（釧路市立白樺台小学校教頭）	神岡　章明（釧路市立駒場小学校）
	立体にあらわす	3年	平野　史子（釧路市立日進小学校）	新井　義史（北海道教育大学釧路校助教授）	中島　郁子（釧路市立湖畔小学校）	慶伊　伸子（釧路市立芦野小学校）
	絵にあらわす	5年	小野三枝子（釧路市立柏木小学校）	中島　欣也（厚岸町立床潭小学校教頭）	宝輪　勝己（白糠町立白糠小学校）	里見　勝之（白糠町立庶路小学校）
	つくりたいものをつくる	6年	生田　和江（釧路市立清明小学校）	二上　正司（北海道教育大学釧路校助教授）	佐藤　尚子（釧路市立桂恋小学校）	松井美代子（釧路市立愛国小学校）
中学校	絵画	1年	古川　史実（釧路市立東中学校）	柳　悟（釧路市立城山小学校長）	田中　浩（釧路市立東中学校）	中谷内　遵（白糠町立白糠中学校）
	工芸	1年	太子　弘和（釧路市立大楽毛中学校）	加藤　直樹（北海道教育大学釧路校助教授）	津田　宏明（釧路市立弥生中学校）	吉田ゆうみ（釧路市立美原中学校）
	彫刻	2年	高橋　潤（鶴居村立鶴居中学校）	大森　正明（釧路市立景雲中学校教頭）	阿部　孝彦（釧路市立武佐中学校）	和田　達佳（浜中町立散布中学校）
	絵画	3年 御地	北山　貴子（標茶町立阿歴内中学校）	浜木　弘志（厚岸町立太田中学校教頭）	杉山　浩彰（鶴居村立上幌呂中学校）	小池　洋子（釧路町立昆布森中学校）

●分科会２（提言）

校種	No.	内容・分野	提言者	助言者	司会者	運営・記録者
幼稚園	1	表現	作品を語る 参加者の先生方・是非作品を持参してください。 提言（札幌）	福井　凱将（北海道教育大学釧路校教授） 森川　昭夫（北海道教育大学札幌校講師）	長尾　忠也（釧路愛国幼稚園長） 佐藤　尚子（釧路明照幼稚園長）	鈴木　雪子（本州製紙こぱと幼稚園長） 星　のぞみ（湖畔幼稚園長）
小学校	2	造形あそび	森川　浩（釧路町立富原小学校） 渡辺　貞之（深川市立深川小学校）	中村　彰（白糠町教育委員会指導室長） 渡辺　正勝（旭川市立台場小学校教頭）	宝輪　勝己（白糠町立白糠小学校） 田中　和男（札幌市立月寒東小学校）	福岡　章明（釧路市立駒場小学校） 松井美代子（釧路市立愛国小学校）
	3	絵にあらわす	伊藤　恵理（釧路町立富原小学校） 山口　雅子（帯広市立開西小学校）	新井　義史（北海道教育大学釧路校助教授） 大井誠一郎（中標津町立若竹小学校教頭）	中島　郁子（釧路市立湖畔小学校） 藤木　邦啓（千歳市立北陽小学校）	慶伊　伸子（釧路市立芦野小学校） 斎藤　洋恵（釧路市立芦野小学校）
	4	つくりたいものをつくる 立体にあらわす	内山　博之（教育大学附属釧路小学校） 土肥　宏充（札幌市立厚別北小学校）	二上　正司（北海道教育大学釧路校助教授） 狩野　鉄男（斜里町立宇登呂小学校長）	佐藤　尚子（釧路市立桂恋小学校） 中川眞一郎（雄石町立雄石小学校教頭）	里見　勝之（白糠町立庶路小学校） 磯部　和子（釧路町立別保小学校）
中学校	5	平面造形について	早川　弘（標茶町立御卒別中学校） 今多　博勝（苫小牧市立凌雲中学校）	柳　悟（釧路市立城山小学校長） 宮沢　克忠（帯広市立第六中学校）	杉山　浩彰（鶴居村立上幌呂中学校） 小笠原信志（旭川市立立陸中学校）	中谷内　遵（白糠町立白糠中学校） 小池　洋子（釧路町立昆布森中学校）
	6	立体造形について	佐藤　秀貴（釧路町立富原中学校） 伊藤　正清（江別市立野幌中学校）	加藤　直樹（北海道教育大学釧路校助教授） 横田　裕美（音更町立共栄中学校）	津田　宏明（釧路市立弥生中学校） 阿部　時彦（札幌市立南が丘中学校）	和田　達佳（浜中町立散布中学校） 吉田ゆうみ（釧路市立美原中学校）
高校	7	絵画	久保　克洋（釧路北陽高校）	佐々木　宰（教育大学釧路校講師）	尻江　尚（釧路湖陵高校）	松久　光生（釧路工業高校）
障害児	8	特殊学校（精薄）・（工作）	吉田　后余（釧路養護学校）	明神もと子（教育大学釧路校教授）	桂　比呂子（釧路養護学校）	大橋　択（釧路養護学校）

大　会　風　景

受付は、大忙し

多くの参加者の中での授業

天気に恵まれて良かった

この材料から何をつくろうか

開会式に集う参加者

分科会にも多数参加

第45回 いしかり・千歳大会

45 CHITOSE
全道造形教育研究大会
いしかり'95千歳大会

大会シンボルマーク

日時　一九九五年七月二八・二九日

会場　千歳市立向陽台小学校
　　千歳市立向陽台中学校

研究主題

豊かな心と
確かな力をはぐくむ
造形学習を

1、研究主題について

「豊かな心」

・生きていく中で美しさを求める心

造形学習の中でとらえる「豊かな心」とは人間が生きていく中で美しさを感じ取り、その美しさにこだわり、求めていく心である。またここでいう美しさとは人間が色や形などを通して認識できるものはもちろん、造形活動によって育まれる心そのものでもある。感性、創造性、好奇心、探求心、向上心、自然観、人生観など人間の「美意識」にかかわるすべての心性を言う。それらは個性を磨き、人格として身についていくものである。

「確かな力」

・思いを表し、生きていく力

「確かな力」とは、一つは造形活動によって育まれる観察力、発想・構想力、見通しをたてる力、決断力、比較能力、集中力、伝達能力、理解力、想像力等の能力を言う。ここで学んだ力は生涯を通して生きてはたらく確かな力となっていく。

もう一つは、造形活動の中で発見していく

技法や文化遺産としての造形要素や技法である。これらは造形教育独自の教育要素として身に付けさせたい力である。ここで学んだ力は自分の思いを表すための具体的な力となっていく。具体的には、

◆ 美術の造形要素・知識
◆ 道具・材料の使用・活用能力
◆ 基礎的な文化遺産としての技法
◆ 自ら発見し、身につけていく感覚や技法等

これらを総称し、「確かな力」を「思いを表し、生きていく力」と考えた。

「造形学習」について

これらの育みたい「心と力」を生涯学習の基礎を培うという観点に立ち、子どもたちに真に身に付けさせていくためには、子ども達の主体的な学びを引き出すことが重要であるそのような願いをこめて「**学習**」とした。

2、研究主題の具現化

(1) 研究仮説

子どもの思いを大切にしながら、基礎・基本を明確に押さえて、題材の開発や見直しをし、子どもの表現意欲を引き出すことで子どもたちに「豊かな心」と「確かな力」が育まれていく。

(2) 研究の視点

研究仮説を基に次の三つを研究の視点とした。

① 基礎・基本を押さえる。

◆ 子どもに育んでいきたい「豊かな心と確かな力」につながる基礎・基本を次のようにおさえ、**発達段階**を踏まえながら造形学習のなかに位置付けていく。

基礎・基本
- A 造形要素の認識・表現技法
- B 表現活動の基本的な力や感覚
- C 人格として身につく感じ方や考え方

② 題材の開発と見直しをする。

◆ 「豊かな心と確かな力」を育む具体的な場が**体験学習**としての題材であることを踏まえ、題材の開発と見直しをする。

(1) 基礎・基本が豊かに含まれ位置付けられる題材を！

(2) 既成の題材にとらわれない「**題材の再発見**」を！

③ 表現意欲を引き出す手立てを研究する。

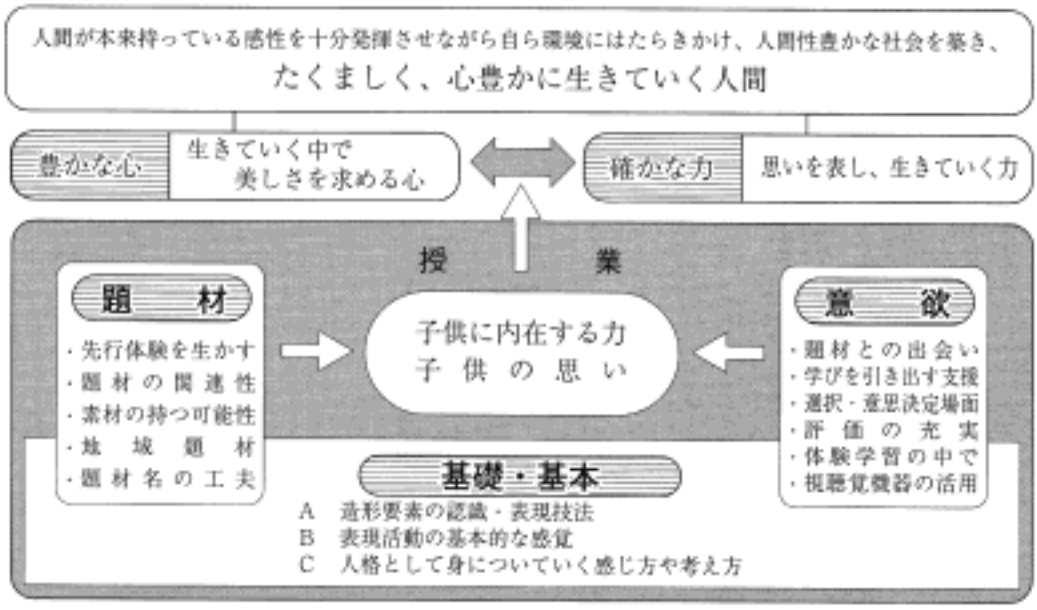
◆ 子どもたちが意欲をもって主体的に取り組む手立てを研究する。

(1) 子どもの主体的活動を引き出す支援の姿勢を

(2) 選択・意志決定場面の設定を

(3) 子どもがやる気を起こし見通しを持つ評価のありかた

(4) やる気と目標が見える題材との出会い



(5) 体験学習の中の基礎・基本の位置付け

(6) 視聴覚機器の効果的活用

3、研究内容(概要)

1 基礎・基本は次のように押さえる

A、造形要素の認識・表現技法

図工・美術科が独自にもっている人類や民族の文化遺産として基礎事項である。

・色や形の認識と表現

・基礎的な表現技法

・材料・用具の基礎知識

・作品の見方

B、表現活動の基本的な力や感覚

造形活動には人間としての基本的な力が必要とされ、また育まれる。今の子どもに最も必要と考えられるもの。

・選び、決める力

・比べる力

・目途、見通しを持つ力

・発見し、気付く力

・見立てる力(イメージを膨らませる力

C、人格として身についていく、感じ方・考え方

造形活動を通して培われていく心のありかた。それは、さらに新たな表現のベースになり、またさらに心は練られ高められていく。

・楽しみ、遊ぶ心

・自己理解、他者理解

・根気や集中力

・達成感

・豊かな感受性と美意識

2、題材の開発と見直しは次のような視点から行なう

A、基礎・基本が豊かに含まれ、位置付けられる題材を

B、既成の題材にとらわれない「題材の再発見」

・子どもの先行体験を考慮し、さらに豊かに発展を

イメージの源となる直接体験が乏しくなってきている。だからこそ、そこにこだわりたい。レディネスが意欲を生み、造形活動が体験を彩り豊かにする。その体験が新たな造形への、そして事象へ関わる新たな体験のレディネスとなる。

・他題材の関連を求めて

一題材で高められた力は次で生かされ、さらに発展する。題材の有機的なつながりは高い学習効果を生む。造形活動は他題材・他教科・諸活動などと深い関連がある。

・素材、題材の新たな可能性を

素材、題材の持つ造形の様々な可能性を考える。新素材だけではなく見慣れた素材あるいは素材の角度を変えた取り組みは、子どもの既成概念を砕き、造形活動の醍醐味を体験させることができる。

・生まれ育った地域の題材に目を向けて

生まれ育った地域から生まれた題材・素材は基本的に多くの親密性や再発見を含む。身の周りの造形要素に目を向けさせることは、造形行為への意欲を育みやすい。主題に沿って地域に関わる題材・素材に目を向ける。

・題材名のくふうを

「子どもが表現する」側にたって題材名を決める。題材名が表現意欲や課題意識を生み出すこともある。教師の題材観が表れてくる場でもある。題材名が子どもの造形活動へのさりげない提案にもなる

3 意欲を引き出す手立てを次の視点から考える。

・子どもの主体的な活動を引き出す支援の姿勢を

教師の学習の中におけるスタンスのありかたを検討する。子どもの主体的な学びを作り上げるために『教えるもの、引き出すもの』をどのように組み立てるか。放任ではない、子どもの一人一人の持つ良さが生かされ、子どもの感覚がフルに活動する学習での教え・学びをどうつくるか

・選択・意志決定場面の設定を

子どもが自らの意志で自己の表現に応じた素材や表現技法を、選び、決める場を設定する。題材の中で取り上げた様々な造形行為（比べ、気付き、見通し等）の認識場面の設定を工夫する。これらの設定の積み重ねが子どもたちに自分の個性を認識させ、確かな力を育み、自己実現へとつながっていく。

・子供が意欲を持ち、見通しを持つ評価のありかた

表現と一体となった評価のあり方（指導と評価の一体化）を検討する。子供が意欲を持ち、見通しを持つ評価のあり方はどうあるべきか。具体的な評価の方法は次の三つに分けて考える。

①自己評価　②相互評価　③教師による評価

・やる気と目標が見える「題材との出会い」を

やる気を起こし、造形の方向が見える題材提示を工夫する。子どもと題材との出会いは先行体験を踏まえつつ、新鮮で、既成概念を変えるものでありたい。また環境も出会いとしてとらえる。幼児段階における「環境」は造形学習において特に重要である。「環境が人間をつくる」とも言われる。環境を整備し、充実させることは豊かな力と確かな力を育んでいく上でも重要な要素である。

・「体験学習」の中での基礎・基本の位置づけ

造形学習は直接見て、感じて、触れて作る行為であり、体験学習そのものであるその特質を重視し、様々な造形上の諸知識も感覚を充分に機能させた中から認識させたい。実体験が乏しいとされる現代の子どもたちに五感を充分に機能させた体験を持たせることは造形学習のもう一つの使命である。

・視聴覚機器の効果的活用

造形学習では視覚に訴えることが特に重要である。視聴覚機器を効果的に活用することによって、課題意識を明確にしたり、学習の見通しが持ちやすくなったり意欲を引き出したりすることができる。媒体としてコンピュータ・OHP・OHC・スライド・ビデオ等が考えられる。

●公開授業

校種	学年	領域	題材名・内容	授業者・学校名
幼稚園	年中	表現	ぼくたち・わたしたちの竜宮城	玉木　美香 本田美智子　千歳わかば幼稚園
	年長	表現	つくろう、アニマル・ランド	相坂いずみ 馬越脇由香　千歳わかば幼稚園
小学校	1	造形あそび	トンネルめいろ	吉田かおり　千歳市立向陽台小学校
	1	つくりたいものをつくる	ペンペンとリスリスの大冒険	米積　由佳　千歳市立祝梅小学校
	3	絵にあらわす	ある日、夢でみたんだよ	吉林　史子　千歳市立信濃小学校
	4	つくりたいものをつくる	トローリ，ボタボタ不思議の国への贈り物（石膏で遊ぼう）	山田　陽子　千歳市立桜木小学校
	5	つくりたいものをつくる	アルミ缶を使って，ぼくたち・わたしたちの提案	村田　勝巳　千歳市立向陽台小学校
	6	絵にあらわす	森の中に入ってみると……	平山　一弥　千歳市立北陽小学校
	学年合同4年	造形あそび	晴天時　フォレストシティ2055 雨天時　デザートシティ2055	伊賀　悦子　小山　寿樹 駒場　雅子　奥田　信恵 小森政英　千歳市立向陽台小学校
中学校	3	絵画・彫刻	自己をみつめて（自分という人間の存在証明）	山崎　正明　千歳市立向陽台中学校
	3	デザイン	異次元の世界からのデビュー（CDジャケット制作）	山田　浩人　千歳市立青葉中学校
	3	工芸	いろいろな材料でおもちゃをつくろう	浜口　秀樹　千歳市立千歳中学校

●分　科　会

分科会		提言者	助言者	司会者
幼稚園	年中	吉田耕一郎（札　幌） 古川　明美（千　歳）	鹿嶋　健（札　幌） 奈良　孝秋（千　歳）	柏木　順（札　幌） 斉藤　三佳（札　幌）
	年長	森　美由紀（札　幌） 山下　清江（函　館）	森川　昭夫（札　幌） 青山　清輝（空　知）	鉄田　貴子（千　歳） 金内　祐子（千　歳）
小学校	低・A	和田　浩司（十　勝） 菅原　治子（石　狩）	渡辺　貞之（空　知） 本庄　勝弘（石　狩）	日下　薫（留　萌） 菊地　俊弘（石　狩）
	低・B	松浦　恵子（帯　広） 濱野三喜男（石　狩）	坂口美津雄（後　志） 林　憲一（石　狩）	千葉　錦一（日　高） 野原　嘉人（石　狩）
	中・A	内山　博之（釧　路） 細川　道子（石　狩）	手代木　惇（渡　島） 池端　外博（石　狩）	今野　博信（室　蘭） 伝住　修一（石　狩）
	中・B	柏尾　和市（根　室） 竹津　昇（石　狩）	森田　只志（胆　振） 福田　靖之（石　狩）	岡田　貴幸（後　志） 土井　勝典（石　狩）
	高・A	野島　操（留　萌） 蓑島　裕二（石　狩）	萱場　敏彦（室　蘭） 関　建治（石　狩）	吉中　博道（上　川） 堂下由紀子（石　狩）
	高・B	添田　好美（オホーツク） 池田　元治（石　狩）	絵面　和子（函　館） 柴井　義雄（石　狩）	岡本　眞一（十　勝） 松島　斉（石　狩）
中学校	絵画 彫刻	佐竹　秀行（苫小牧） 野口　裕司（石　狩）	多田　紘一（札　幌） 宮川　誠一（石　狩）	川合　薫（旭　川） 野澤　紀義（石　狩）
	デザイン	伊藤　尚（札　幌） 宮武　輝久（石　狩）	長谷川英二（苫小牧） 上田　充（石　狩）	中島　洋一（空　知） 岩間　宏光（石　狩）
	工芸	矢元　政行（室　蘭） 松尾もと子（石　狩）	鈴木　俊昭（上　川） 吉田　英夫（石　狩）	村上　陽一（帯　広） 桑田　正博（石　狩）
高校	全	垂石　幸男（石　狩）	香西富士夫（札　幌）	福士　隆敏（札　幌）

千歳大会を終えて

運営委員長　和田　弘

研究大会を終えていつも思うことだが、研究大会を引き受けるかどうか先生方と話し合う時、ごく少数の「やりましょう」という人と、いろいろ困難点を並べる多くの人がいる。

正直に言うと研究大会は私自身や意欲のある先生のために勉強になるから「やってみたいな」と思う反面、いろいろ面倒なことはやりたくない気持ちが頭の端をよぎる。

話し合いでどうやら研究大会開催が決まり仕事の分担もはっきりし、長い間の準備を重ね、研究大会を終えると、これに関わったほとんどの人が異口同音にこの研究大会を「やって良かった」という。

人の性格にもよるが、初めの頃はいろいろ困難点ばかり思い浮かんでくる。しかし、研究がスタートすると、それぞれ研究仲間から多くのことを学び、新しい仲間を知ることとなる。授業者は一緒に研究授業をした子どもたちとお互い頑張りあった同志として、この後しばらく子どもたちと気心が通じあう。この時になって長い間苦労してきた実りを実感でき、自分の隠れた力を発見したり、自分の今後のやるべき課題もはっきり見えてくる。

全道造形教育研究大会が終わり、打ち上げの場で自分の仕事をやり終えた後の先生たち

の充実した顔を見た時、この研究大会を「やって良かった」とつくづく思う。子どもたちが豊かな表現活動学習をできるように教師の指導力を高めるため、石狩の教師たちが長い間取り組み、さらに全道各地から来られた造形教育実践者のご指導を得られるのは貴重な機会であった。

この研究大会は実行委員長の宮川先生が主になって組織を企画し動かしてくれた。そして、事務局、研究部、事業部、広報部、庶務部の吉田事務局長はじめ各部長が中心になって部員と共に具体的に内容を企画し、実践した。また「研究大会は当日の授業と子ども達が主人公だ」と私達は言い合ってきた。授業者に研究テーマ、研究内容を理解してもらい意欲的に授業に取り組んでもらうには、研究部の仕事は重要であった。そして学校に夕食の弁当を持ち込み、泊まり込んで関係者みんなで夜おそくまで協議した。次の朝、美味しい味噌汁をご馳走になったのも懐かしい思い出である。

この造形教育研究大会に取り組んでいる途中に、石狩造形教育連盟が主催して第1回石狩管内教職員美術展を江別市の野幌公民館で開催した。これもこの研究会に向けて互いに力を合わせていた頃なので、その流れの一貫として開催できた、しばらくぶりで今年は北広島市で開催される。

大会をふりかえって

実行委員長　宮川　誠一

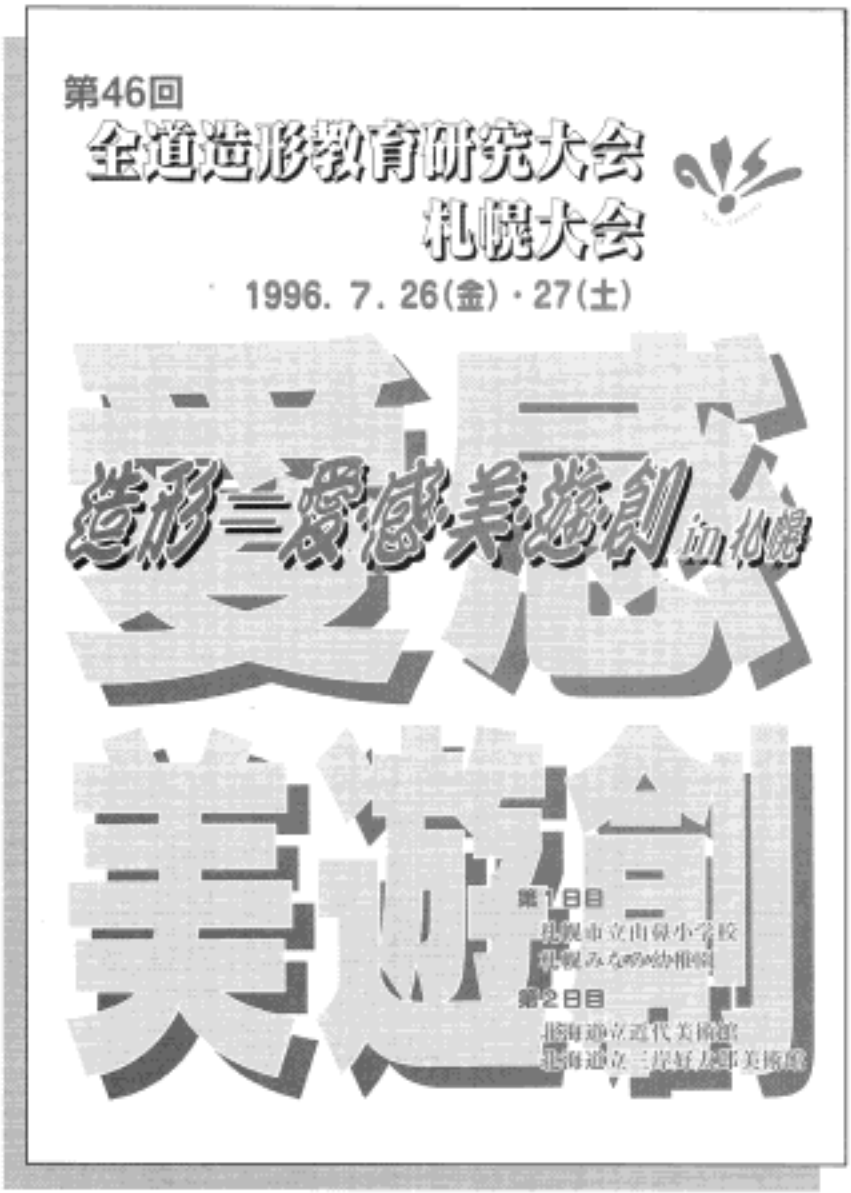
石狩造形教育連盟として全道大会を開催するのは「25回・江別大会」についで二度目である。一度目の反省と経験を生かし、新たな意欲と挑戦の構えを持続させ、実のある大会をと思いつつ、石狩管内で造形にかかわる仲間が大会をめざし自らの力をもって本気で作り上げていくことが可能かどうか、かなり未知数であり不安でもあった。しかし、石狩の連盟が管内の造形教育に意味ある存在として寄与すること、図工・美術教育に携わる者が自由な意志で研究の輪を求め、真に子供の感性や人間形成に働きかけ、生きる力を培う実践の取り組みに挑戦することはぜひとも必要なことと考え、訴えていきました。

こうした地道な取り組みを通して、仲間の輪を広げて、人間関係を密にしながら研究交流を重ねて基盤づくりを図った。研究大会の構想を煮詰め新しい発想や視点を大切にして討論を重ねていきました。

活動に必要な組織づくりは、とても重要なのですが、簡単なことではありません。有能な中堅若手の実践家を見い出し、彼らを中心に、魅力ある活動を展開していきました。この段階に三年近くかかりました。合宿等で我々が求めたい方向や活動内容、具体的に実現してみたい実践研究について、いろいろとイメージを描きだしたり、提案を募って洗い出し、できるだけ大きなものに膨らませ、ユニークさや新しさを強調したものにまとめ上げをやりました。

いよいよ次の段階で管内の実践研究を全道の研究大会の場に発表・提案していってはどうかとする動きに進め、時間をかけて討論を重ねていきました。討論の過程で組織の現状と管内の課題の重さや難しさが赤裸々に指摘されましたが、やはり全道大会を自分たちの手でやっていこう、引き受けていこうとの主張に固まりました。全道の中で自分たちの実践が検証され、評価を与えられること、そして大会を作り上げていくプロセスでの意欲の結集とエネルギーの燃焼は必ず自分自身の力量に跳ね返り、管内教育の活性化と新たな人材育成に貢献するはずであるといった思いが内部から盛り上がりました。幾多の紆余曲折をたどりながらも、次々と力強い協力メンバーが育ちほぼ我々の願ってきたイメージで千歳大会を成し遂げることが出来たものと考えています。

実施決定から準備活動段階を経て開催まで4年近くを費やしました。この大会で全道のネットワーク化に一歩でも近付き、ささやかながらも前進への足がかりを提示し得たとするならば、望外の喜びとするところです。



第46回 札幌大会

大会シンボルマーク

日時　一九九六年七月二六・二七日

会場　札幌市立山鼻小学校
長尾学園　札幌みなみ幼稚園
北海道立近代美術館
北海道立三岸好太郎美術館

研究主題

造形＝
愛・感・美・遊・創
in 札幌

新教育課程を先取りする画期的な大会

階段式授業公開

四五分の授業時間の枠を取り払い活動する子ども達に合わせて自在に時間を設定する。会場校の児童による「全校造形」の試みなど「八つの扉」から試みられた新しい造形活動の授業づくり。

バイキング式分科会

学校種の壁を超えて造形の『扉』を参加者が主体的に選択し学びあう場を提供する。

美術館との共同企画

北海道立近代美術館と北海道立三岸好太郎美術館との共同企画とワークショップの開催。

全道ネットワーク会議

ネットワーク会議初の提言者による造詣活動の交流。

真の交流をねらったグルーピング交流会

レセプションでの一層の地域交流を期待してグルーピング交流を開催。

1　研究主題について

月二回の週五日制導入から二年目をむかえ、ゆとりの中で子ども達の生きて働く力を育んでいこうとする教育界の流れの中で一層の主体的な学びを大切にして行こうと設定した主題である。

愛…人やものに対する温かな感情を苗床として展開する活動でありたい。

感…感動・感性・五感・実感・体感を大切にした活動でありたい。

美…日本の自然が育てた豊かな感性を大切にした造形活動でありたい。

遊…つくることの楽しさを大切に子ども達の遊び心を刺激する場でありたい。

創…自在につくることを楽しむ豊かな創造の場が造形活動であり、構想を練り主体的に判断しながら心を拓いていく子どものための場でありたい。

この主題の一語一語は、教師としての切なるねがいであり、造形教育を通して子ども達が自分に自信を持ち、友達や大人に対して温かな働きかけができるようにと期待して掲げたものである。

大会のコンセプトを話し合うスタート段階から、学校種の壁を越え設立されたばかりの札幌市造形教育連盟の英知が束ねられた主題である。

2　研究主題の具現化

(1)　札幌色の「8つの扉」を設定

主題を具現化する手立てとして、本質に迫る入口を八つ設定した。それが「8つの扉」である。造形と…遊び・もの材料・環境・イメージ・メディア・個性・技・鑑賞と設定した。この入口は、授業づくりの過程で子ども達の願いや思いを感じとり、教師が題材の価値を見極めて入る所を決める。授業の過程で、他の扉の要素が必要になるが、あくまでも入口での子ども達の意欲の喚起を願ってであり活動の過程では様々な造形要素を子ども達がフルに生かして活動することを期待している。

この「扉」から主題に迫る授業は、次のようなものでなくてはならない。

①子どもが主体的に取り組み、自らの願いや夢を実現していく授業。

②子どもらしい発想が随所にあふれた授業。

③教師と子どもが共に育つ人間的なふれあいに満ちた授業。

④北海道の豊かな風土から生まれた個性ある教材が生かされた授業

これらの思いを形にした授業は、当然子ども主体の授業とならなくては意味をなさない。その具体的な現われが、活動内容に合わせた授業時間の設定である。最短四五分から最長九0分まで活動に合わせ自由に設定してもらった。さらに参観者が多くの授業を見ることができるように階段式にスタートの時刻をずらして設定した。

また、午後の分科会は座長が「扉」の意味を踏まえた上で学校種の壁を取り払い自由に討論に参加できる場とした。

(2)　美術館と共同する姿を模索

大会2日目は、学校から飛び出し2つの美術館の協力を得ながら新たな造形活動の姿を模索するものとした。

・絵本シアター

・アートレッスン「たんけん美術館」

・造形ワークショップ

など児童・生徒の新たな活動の場を提案すると共に参加された全道の先生にもスライド・レクチャー「美術館における教育活動」と題した学芸員の提言が行われた。また、会場の講堂を利用しての記念講演「紙の造形」（講師　伊藤恵先生）は、教育の不易ともいえる造形活動の原点を我々に指し示した。

道立の美術館との共同という新たな大会の形は、地域の公共施設を生かした学校教育の先駆けとしても注目される。

自分らしさを発揮し、その中で自分のよさに気づいていく価値ある造形活動が会場のあらゆる所で展開された大会であった。

大会を担った各校種の方が語る

札幌大会の価値

幼稚園

札幌市立いなずみ幼稚園　森　美由紀

札幌大会の準備から参加してみて、普段意見を交換する同じ幼稚園でも私立と公立では保育の形態が異なります。その中で、どのような活動をどのように取り入れていっているのはなかなか見えない部分です。しかし、事前に公開する幼稚園の保育を見て、その後、具体的に意見を交換し合うので、当日の保育はより子供たちが楽しめるものになっていくように思います。

みなみ幼稚園の公開保育では、海の雰囲気にあふれた環境の中で、それぞれの年齢に見合った保育が繰り広げられ、子供たちが夢中になって製作したり遊んだりする姿が見られました。

私立、公立幼稚園の教師だけではなく、小学校などの先生方の感想を聞きながら保育を考えていくことは、実際に保育に当たる先生方にとっても、より具体的に計画することができるよいチャンスではないかと思います。

普段から、いろいろな幼稚園の先生方との交流があり、お互いに高め合えるような組織づくりができると、さらに斬新なアイディアを保育に取り入れることができるのではないかと思います。

小学校

田口　和男

豊かなこころを育む造形教育を通して、仲間が『愛』で結ばれ、明日の扉を開こうと、研究主題「造形＝愛・感・美・遊・創ｉｎ札幌」のもとで開催された全道造形札幌大会。

造形の八つの扉から小学校は六つの授業公開を行なった。山鼻小学校のジャンボ造形活動「はずむこころ」は全道造形大会において初めて行なわれる全校児童によるものであった。

一・二・三年生―異学年グループでダンボールを材料に「冒険大好き虫の国」を生き生きとつくっていた。四年生―ペットボトルの魚が心地よく泳ぐ「アクアランド・やまはな」。五年生―ダンボールを中心に「宇宙都市山鼻」。六年生―環境と自然にこだわりながら、ダンボールと身辺材で「大地の贈り物」を造形表現していた。

とにかく場所がジャンボ、子供の数がジャンボ、材料がジャンボ。何よりも、「こうしよう」「こんなことができそう」という子供の願いや思いがジャンボ、そして出来上がった作品もジャンボ…。

体育館いっぱいに、グループの仲間と頭をつきあわせ、子供たちが造形活動を思う存分に楽しんでいた。

中学校

札幌市立栄南中学校　角力山　旭

大会要領や運営などの基本構想づくりは、大会の二年前から具体的にすすめられました。また、内容面では、「区の研究体制」を重視し、それまでの継続研究を発表しました。

この時の研究内容は、年次計画ですすめられていて、教科の目標構造を明らかにする視点から「一人一人の心が拓く造形学習を成立させるには、目標達成の観点別学習状況の評価はどうあるべきか」を研究課題としていました。

平成八年の大会では、これらを基盤に「目標を達成するための学習過程や題材構造の在り方をさぐる」視点から各地区の研究授業や提言などが多彩に発表されました。

特に、日程面では、小学校との連携の中、単位授業時間の弾力的な運用、授業開始をずらした設定などの工夫をし、「ゆとりの中」からその題材内容の展開に合わせた研究授業を設定しました。内容も立体部門と平面部門、基礎編と応用編、造形と遊び、インターネットや美術館の活用、発達をとらえた教材など多彩な実践発表がされました。

大会の影の力となった運営の面では、二つの地区が主となってその業務を担当し、まさに全区の組織が一丸となって協働し、愛・感・美・遊・創を出し合った研究体になったと感じるところでした。

高等学校

平成8年度　第46回全道大会・札幌大会

東海大学第四高等学校　石川　雅昭

造形連盟第46回全国大会が行われた平成8年度は、高校部会の私達にも大変な年で、約50年に一度の全国高文祭が北海道で行われた年でした。高文祭は全国から一二、〇〇〇人ほど集まる大会で、このために平成5年度から準備をし、平成7年度に本番と同じ内容でプレ大会を行い、平成8年度の全国大会に備えました。

私の係は真駒内のアイスアリーナで行われた総合開会式会場の垂れ幕制作で、2m×68mほどの大壁画でした。この他にも2～3仕事を抱えていましたので、忙しい日々を送っていました。壁画の制作が一段落した頃、白陵高校の小林先生から電話があり、造形連盟の大会に出品してほしいと依頼がありました。早速、高文連全道美術展大会に選抜されたF30号の油彩画5～6点を持参し、3階の廊下に展示させて頂きました。帰りに係の先生に案内されて展示作業中の体育館を拝見すると、目を見張るばかりの展示でびっくりしました。天井から吊されている物や様々な造形物など所せましと並べられ、高文連美術展では見ることができないものばかりでとても感心させられたのを今でもはっきりと憶えています。研究授業等は高文祭の係の関係で参加できませんでしたが、小中学校の先生達のすごいパワーを見た思いをしました。

大会1日目の日程

8：30　9：00　10：30　11：20　12：20　13：00

受付	階段式公開授業	開会式	扉・オリエンテーション	ランチタイム

	扉	学年・授業者	題材名	授業時間帯・場所
1	造形とあそび	幼年少 上村　治子	冒険に出かけよう！ 海の中ってどんな世界？	9：30　10：15 会場　みなみ幼稚園
		幼年中 原田さゆり	つれたよ！つれたよ！ ～さかなつりをしよう～	
		幼年長 小口　典子	わぁー！とびだしてきたのはなんだぁ	
		小2 廣瀬　恵子	いろいろへんしん	9：00　10：10 プール
		小2 向井　正樹	○○舞の頭（かしら）をつくろう	9：30　10：30 音楽室
2	造形ともの・材料	小2 川島　正夫	みのまわりのたからものから	9：00　9：45 2の1
3	造形と環境	小5 堀口　基一	とんでんにし改造計画	9：30　10：20 3の2
		中2 千葉美智子	ステンドグラス	9：00　10：00 6の2
		小1～小6 山鼻小全校で	ジャンボ造形「はずむこころで」 体育館は夢の世界	9：00　10：00 体育館
4	造形とイメージ	小6 押田　一朗	手作り楽器で交響楽団をつくろう！	9：15　10：00 3の2
5	造形とメディア	小6 松本　和彦	わくわくメディアランド	9：45　10：30 視聴覚室
6	造形と個性	中1 高橋久美子	粘土で本物より本物らしい野菜をつくろう ～いたずら造形～	9：00　10：30 図工室
7	造形と技	中2 石川　早苗	造形の秩序を考え構成する ～ポスターカラーで美しく着色しよう～	9：15　10：15 6の3
8	造形と鑑賞	小4 氏家　珠実	「オリジナルストーリー・ぼくとわたしのお話の絵」 心を開いて語り合おう	9：10　10：20 3の3

13：00	14:00 14:10	15:00 15:10	16：00	18：30
授業の話し合い	第1ステージ	第2ステージ		グルーピング 交流会

分科会

卵	会場	札幌の主張	提言者	座長	運営委員
1	体育館	・あそびを通して、または、あそびそのもののために造形活動は一層広がる ・子どもの意欲が連続するヒントが"あそび"の中にある	札幌みなみ幼稚園 三浦かおり 平和小 今谷　孝	日新小 佐藤　靖	宮の森小 篠原　寛
2	5の1	・そのもののよさを最大限に生かし、ものと対話しながら楽しむのが造形活動 ・語らいの時間を保障することで「もの」から「ものと一緒」の共存が生まれる	美しが丘小 元茂　章子 旭　小 富波　修	屯田西小 冨田　泰	創成小 稲實　順
3	5の2	・環境を深く吟味すれば「環境から」、「環境への」働きかけが必ず生まれる ・五感で感じる原っぱ文化が子どもを育てる	ときわみなみ幼稚園 中村　直子 大通小 東　尚典 札苗緑小 小野　正二	栄南中 村谷　利一	厚別北小 土肥　宏充
4	5の3	・人の心に何かを訴えたい伝えたいという意欲が生まれることが大切 ・対象に対して、自ら働きかけたり要求したものの方が価値がある	厚別東小 毛利　彬 西宮の沢小 谷山　圭子 東栄中 白崎　博	青葉小 西　寛	幌西小 桜田　豊
5	視聴覚室	・受け取るものからつくるものへ、教育的効果をあげるものから造形活動の道具としての活用をめざす ・絵筆のように使う道具として活用する	新陽小 湯浅　大吾 南が丘中 黒柳恵利子	上野幌中 武市　尚政	平岡中央中 舘内　徹
6	4の1	・「○○ちゃんらしい作品だね」という言葉のでる授業をつくる ・子どもが安心して発想や構想を発表し、創造的に表現できる場に個性がでる	西岡小 山室ゆかり 藤野南小 岡田　知之	向陵中 奥野　邦男	前田北中 合田　典史
7	図工室	・技は教わるものではなく学びとるもの ・技は自分のイメージを表す手段である	藻岩南小 富樫　信博	西野第二小 芝木　秀昭	附属小 野切　卓
8	4の2	・価値あるものを見定める目や心は、登山して楽しむ山の味わいに似ている	附属中 岡澤　邦彦	東園小 藤井　正治	幌西小 箭内　浩之

大会1日目の大会速報

大会２日目の日程

市小学校の鑑賞活動を見学する方は近代美術館で、中学校の鑑賞活動を
見学する方は三岸好太郎美術館で受け付けをしてください。

	近代美術館			三岸好太郎　美術館
9：30	札幌大会参加者に開館・玄関で受け付け アートレッスン参加児童・生徒受け付け			
10：00	（展示室）	（講　堂）	（映像室）	（展示室）
		絵本シアター 絵画の鑑賞について、アートレッスンに参加する児童への学芸員のスライドによる指導を見学	**全道造形教育ネットワーク会議** 各支部から地域の特性を生かした実践の発表と実践交流	アートレッスン たんけん美術館 **「「花」をテーマにした節子夫人との二人展」「常設展」** ワークシートを使用した中学校生徒の鑑賞活動を見学
10：30	**アートレッスン** **「モダンアート・タイムス　パリと日本」** 児童の鑑賞活動を見学する方は児童と共に展示室へ移動（50名）	**スライド・レクチュアー** **「美術館における教育活動」** 美術館の学芸員による解説		
11：15		移動・休憩・準備		（近代美術館へ移動）
11：30		近代美術館講堂にて記念講演会 講師　伊藤　恵　先生 演題　「紙の造形」		
12：30	**造形ワークショップ**（前庭） 美術館講師の指導による小学校児童の造形活動 児童の制作活動や作品を見学	**閉会集会** ・大会委員長挨拶 ・大会旗譲渡 ・次年度開催　根室支部挨拶		
12：45				
13：00				
15：30				

伊藤　恵先生

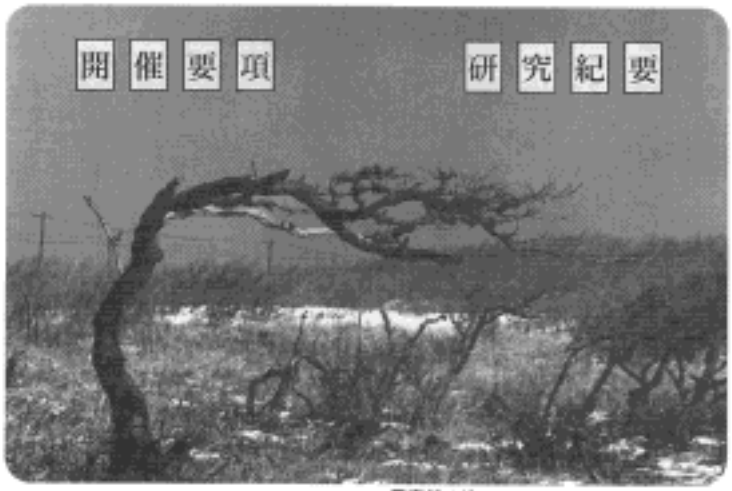
大会2日目の大会速報

第47回全道造形（図工美術）教育研究大会

根室大会

―研究主題―

感性から発し 躍動する力を育む 造形学習を！



厳東湖の地で 末へ末へとなびくミズナラの木

1997

7.28（月）第1日目　根室市立花咲小学校

29（火）第2日目　根室市総合文化会館

第47回 根室大会

47th NEMURO

大会シンボルマーク

日時　一九九七年七月二八日・二九日

会場　根室市立花咲小学校
根室市総合文化会館

研究主題

「感性から発し、躍動する力を育む造形学習を！」

1、研究主題について

いわゆる感性とは、感受性とも書き表すことができ、刺激に反応する感覚器官の能力を指している。したがって、子供が外界のあらゆるものから、何らかの感動的刺激を受けることにより反応する感覚器官のはたらきに、期待が寄せられることで、造形学習がある程度成立していたと思われる。

しかし、これでは主体的なメカニズムとは程遠く、何か物足りない感じがする。かつて無気力・無反応・無感動など、××無主義時代到来と言われたが、まさに、ただ何となく生きている人間を象徴化した的を射た言い方なのであろう。

北海道の大自然は素晴らしいと言われて久しい。たまたま本州方面からやって来た旅行者などから、広い大地に感動する場面があちこちで頼もしく聞こえてくる。

とりわけ、この根室地方も大自然の宝庫である。そんな自然環境の中で育っている子供たちを、根室の大自然に対して感動させることは容易なことではない。感性は、磨かれて

こそ本領を発揮するものとも言われる所以である。

感性を磨くとは、一体、日頃から具体的にどのような教育活動を指しているのであろうか。

子供によっては放っておいても自ずから磨かれている者がいる。それは、美的才能に富んだ天才級の場合であろう。

そういう例外的な例を除いてみると、感性を磨くことは、すなわち、素直な心になりきることであろう。ここに、造形活動・学習を通しての人間教育という大きな目標がある。この素直な気持ちが、躍動する力へのキーワードであり、造形学習への基本の中の基本であると押さえた。

点にすぎないところの素直な気持ちを持続させることで、それが線になる。それをキープした形で躍動する力への指導・支援がどのようにかかわってくるかによって、面や立体へと発展できる。そうすることによって、大自然そのものである素材の宝庫としての根室の風土が、初めて生かされてくるのである。

根室大会では、研究主題を受けてのキャッチフレーズとして「今こそ郷土根室を、豊かな感性で掘り起こそう！」とした。

造形活動とは、事物・現象に接し、触れて感じ取り、気持ちや感情に移入して、枝を持って「新たな形」をつくることである。

《素直な気持ち》を造形活動を通して一段と《研ぎ澄まされた心》に持っていくことにより、《躍動する力》が沸き上がってくるメカニズムを体得させることが、この教科の指導ポイントとして押さえたい。

① その行為（造形教育活動）の連続によって心が高まる。
② その心が感性を高める。
③ その心が技を高める。
④ その技がさらに心を高めていく。

そういう《造形教育活動》本来の営みをより効果的に教育場面の中に定着させること。

・子どもに内在する力を"よさ"として引き出し、伸ばすこと。
・新しい変化のある時代に生きる能力を持った人間を育てること。

これらのことから研究主題を、

「感性から発し、
躍動する力を育む造形学習を！」

とし、人間形成の役割を担う教科としての存在価値を内外に確かめようとした。

2、研究主題の具現化

ここに、子どもたちにとって、感性の豊かさの育ちが、充分なる条件として浮上してこよう。

日頃から図画工作・美術科に限らず、他教科においてもちろんのこと、全教育活動において《感性を磨きあげる》こと自体、異論はなかろう。

(1) 接して、触れて、感じ取ること

《事例として》

流木を素材にして「ある人物表現」を共同制作で試みた。へき地小規模校なので全校縦割りグループで取り組み、「モチーフ」を特定せずに造形活動を進めた。その結果、結構おもしろいものができあがったのだった。

そこで、作品鑑賞の時間に、何人かの子どもに、人物像のイメージを発表させた。

「ガリバー」とか「幸福の王子」とかあった中で、軽度の知的障害を持つ女児が、「村山首相（当時）に似ているよ。」と発言したのだ。普段、テレビのニュースを聞いていても、画面に出てくる顔をしっかり見ていないと、なかなかこういう感性ある発言はできないのではないだろうか。

《発想の転換として》

根室に限らず、本州の梅雨時には、北海道も《濃霧注意報》の連発で、決してからりとした天気は続かない。だから、写生会は初夏時分よりも秋口に限るという考え方も成り立つが、この濃霧を逆手にとって根室の風土を写生しようとすればどうだろうか。淡いタッ

チの中にも遠近感をどう工夫させるか。水墨画の朦朧とした中国の一流派の芸風を漂わせるような作品になるのであろうか。ただし、その場合、《白色》は極力使用しないことでアプローチさせてみるのも一考であろう。

要するに、濃霧の表現活動を通して、郷土への再認識を図ることこそが、掘り起こそうとする試み自体そのものなのである。

(2) 気持ちや感情に移入すること。

子どもの体内に"怪物くん《躍動感》"を呼び起こそう！そのために、日頃からどのような指導の蓄積（積み重ね）が不可欠なのだろうか。

教師が授業中、個別指導として机間巡視をした際に、子どもによっては制作中の作品を教師の目から避けようとして覆い隠そうとする光景を見ることがある。

そういう場合は、まず、子どもの目に《自信がない》こと、教師との人間関係において《敵意・恐縮・羞恥心・照れ隠し・完成後に周りをあっと言わせようという企ての意図の表れ》、その他、様々な思いが子どもの側で以外なほどしっかりと働いていること。

では、《自信を持たせる→のびのびと表現できる》ためには、常日頃からどう指導すればよいのだろうか。

> 子どもをその気にさせて、感情移入への初歩的訓練を増やしていこう。

① すぐ作品づくり ＋ 造形学習

・「練習 → エスキース（作品部分の基礎演習） → 作品」のような指導過程の流れを、小学校高学年から中学校・高等学校段階では、しっかり踏まえること。

・「おもしろそうだ」「やってみたい」のように、意欲・関心・態度を喚起させること。

・手順を踏んで、技法をも高めること。

② 造形学習以外にも、有機的に造形活動を考慮すること。

［教科］

・国語→押し絵づくり、紙芝居づくり、新聞コラム

・生活→造形遊び、飾り物・看板・ゲームづくり、素材集め、野外活動

・社会→異文化・歴史的造形文化遺産への興味、地球・人類規模に立脚した考え方への関心

・理科→自然観察、観察スケッチ、図表表現物体の質感学習、自然現象の偉大さ地質・地層の歴史的変遷、宇宙の神秘

・算数・数学→平面・立体の構造感覚、幾何学的発想、図表・グラフ表現の理解平面・立体表現への関心、無限大等への興味

・音楽→リズム感・音程感の体得、音楽的表現による感動体験、音楽的鑑賞による感動体験、作曲（即興表現）によるイメージの構築

・家庭→生活全般から造形的感覚を視点に据えた学習体験（衣・食・住）

・体育→運動的リズム感の体得、身体表現としての感動体験、身体的躍動感の体得

［道徳］真・善・美としての道徳的価値観を心の視点から見据えようとする関心・態度、道徳観から発する感動体験

［特別活動］ボランティア（対人・対物関係等）活動を通しての感動体験、諸イベントへの造形作業的体験、集団行動における規律的体験、野外宿泊等による自然体験的学習

以上のように、様々な方面からの有機的な関連を受けた形での経験を、造形学習に生かしていかなければならない。そのことが、ある程度子どもたちの脳裏に焼きつくように理解されているならば、たいへん素晴らしい幅広い感性が、造形学習以前に成立していることになろう。

3、公開授業一覧表

校　種	内容・分野・分科会	学　年	題　材　名	授　業　者
小学校	つくりたいものをつくる〈第1分科会〉	3年	霧のむこうに	船　山　美　樹（根室市立花咲小学校）
	共同版画に表す〈第2分科会〉	5・6年《複式》	自分の思いを 彫りに込めて・・・	柏　尾　和　市（中標津町立若竹小学校）
	絵や立体に表す〈第3分科会〉	5年	CMをつくろう －ビデオを使って－	中　嶋　能　亜（根室市立花咲小学校）
	立　体　に　表　す〈第4分科会〉	5・6年《複式》	温根沼の砂や貝殻等も使って土器を作ろう	葉　賀　克　文（根室市立峯茂尻小学校）
	立　体　に　表　す〈第5分科会〉	1年	粘土あそび	山　口　長　伸（根室市立落石小学校）
中学校	自　然　と　の　対　話〈第6分科会〉	1年	石に描く 根室の自然をデザインしよう	長谷川　恵美子（根室市立柏陵中学校）
	素材から発想して〈第7分科会〉	3年	鮭の皮を使って	舘　山　唯　郎（中標津町立広陵中学校）
高　校	デザイン・表現 イラストレーション〈第8分科会〉	2年	根室のガイドマップ	加々谷　由理子（北海道根室高等学校）

4、分科会一覧表

分科会	1	2	3	4
授業	小学校第３学年	小学校第５･６学年複式	小学校第５学年	小学校第５･６学年複式 「オンネトー焼き」野焼き （雨天の時は焼き物の成形）
担当	「トレーシングペーパーを使って」	「共同版画」	「ビデオを使って」	
授業者	船山美樹 花咲小	柏尾和市 若竹小	中嶋能亜 花咲小	煤賀克文 幌茂尻小
提言者	矢口少子 西竹小 阿部孝彦 釧路浜中町・茶内小	阿部雅美 美原小 佐々木　忍 留萌市・藤山小	石橋一郎 網走・斜里町以久科小	和田浩司 十勝・幕別町中里小
司会者	生田和江 釧路市・清明小 成田慎司 上川・名寄東中	松本とも子 豊原小日高	小原　緑 豊原小	鈴木秀明 函館・函館市昭和小
助言者	高木英機 計根別小 竹内堅治 留萌小平町・鬼鹿小	伊藤孝三 若竹小 細見　浩 連盟顧問	桐澤　享 連盟顧問 藤井正治 札幌東園小	大井誠一郎 中標津小 中島欣也 釧路厚岸町・床潭小
記録者	築詰佳緒里 野付小	小出秀明 啓雲中	山田妃呂美 別海中央小	鈴木悦子 花咲港小

分科会	5	6	7	8
授業	小学校第１学年	中学校第１学年	中学校第３学年（選択）	高等学校第２学年
担当	「粘土遊び」	「石に描く」	「鮭の皮を使って」	「根室のガイドマップ」
授業者	山口長伸 落石小	長谷川　恵美子 柏陵中	舘山唯郎 広陵中	加々谷　由理子 根室高
提言者	山口雅子 帯広市開成小	和嶋弘美 厚床中 三浦正輝 和田中	角田尚美 広陵中 西村　司 石狩・江別第二中	安藤和也 根室西高 本田勝哉 札幌丘珠高
司会者	中川眞一郎 檜山乙部栄浜小 内山博之 釧路教大附属小	庄子展弘 中標津中 佐藤宏茂 胆振・室蘭鶴ケ崎中	大溝雅之 春松中 里見貴史 網走市・網走第三中	久保英樹 柏陵中
助言者	小野寺宏二 薫別小 竹内洋嗣 網走市・網走西小	本川勝敏 和田中 佐藤公毅 胆振・苫小牧光洋中	川原和一 野付中 山理利春 旭川市・旭川中	清水克美 連盟顧問
記録者	熱海桂子 上春別小	小林玲子 歯舞中	下西明美 上西春別中	齋藤由紀子 別海中央中

5、研究会から

霧の向こうに
～根室大会に参加して～

札幌市立幌南小学校　安木　尚博

自分にとって根室のイメージは最東端の街としか無く、霧は釧路というものでしかありませんでした。前日に根室に入り、その夕暮れに山からどこからともなく沸き出た霧が、静かに流れ広がっていく光景を見て新鮮な驚きを感じました。

大会では、全ての授業を観て回る予定でいました。授業案綴りを開いてみると、1ページ目に3年生の授業に『霧の向こうに』という題材名、一瞬どきっとしました。霧をどのように表現していくのか、造形活動として、どのように展開していくのか、また前日のこともあり強く興味をそそられました。そして、限られた時間の中の大部分を占めることになってしまいました。

霧についての子供たちの交流では、生き生きとした表情で見えたこと、感じたこと、体験したことなど様々なことが発表し合われ、霧が、本当に子供たちの身近なものとしてあることが伝わってきました。そんな霧の様子や感じをトレーシングペーパーを使ってという教師からの提案と実際に照明の光を通した実演から子供たちは、本時においての活動のねらいを理解し自分の表現に向かって、意欲的に取り組んでいました。折り紙やセロハンなどの材料も自分の必要感から選んだり、使ったりしながら、どの子供も夢中になって、手や感覚を働かせていました。そこには、自分の霧に対しての思いやイメージになんとか近づけようとしている真剣な子供の姿がありました。さらに活動が進むに連れて、子供たちの意識は光についても広がりを見せ、使い方まで考え始めました。霧という素材を通して光というものまで、3年生らしさを発揮し、その美しさや不思議な感覚といったものを実感したのでしょう。暗い教室に優しい光に包まれた自分の作品が浮かび上がった時、発せられた子供たちの声には、満足感があふれていました。

中学3年生の「鮭の皮を使って」高校2年生の「根室のガイドマップ」など地域の特色を生かした根室ならではの校種を越えた図画工作・美術の授業も大変興味深いものでした。

駆け足で全ての授業会場を回りましたが、どこも子供、生徒を大切にした教材化が図られ、授業の中心に子供たちがいました。研究の姿勢と熱意、柔軟な教材化など、多くのお土産をいただいた根室大会でした。ありがとうございました。

● 分科会点描（第4分科会から）

・校長が授業をやるということはすごい事だと思った。そういう学校経営をしているのは素晴らしい。

地域の土器をもとにして、粘土から作っていくことを教育課程に位置づけ、1年生から6年生まで学校として野焼きに取り組むと、6年生までにかなりの経験が出来る。いい環境の中で地域に根差した教育ができる。作業中に粘土が乾いてきてひびが入ったが、経験すると手を濡らすことによって解決できることもわかってくる。

・子供達が先人の土器を追体験するという案外子供の発想では古代人を小馬鹿にする、ということも、実際に土器を作ることで失敗したり、壊したりしながら奥の深さに気づくのではないか。1～6年の流れの中でいろいろやってみる、砂を混ぜる、地域の粘土をもってきて作ってみるという所までに発展することが一つの感性を呼び起こすものではないか。

見て・ふれて・感じることの偉大さ

穂別町立仁和中学校　浅沼　宏子

才能とは、環境、興味、思考だと考えると、学校教育や、教師ができる事は、すべての生徒に、興味がもてるような環境（教材・資料・学習活動・真心etc）作りを、いかに工夫してゆくかということなのではないだろうか。そして、自らの思いや感覚を表現することに喜びをおぼえるような、創造活動が必要なのではないだろうか……。

生徒たちとの学び合いの毎日も、まだ2年しか経っていない私は、すべて手探りで、不安になりながらもただ表現することの喜びを味わわせたい一心でやってきました。ですから、この第47回全道造形教育研究大会、根室大会には、出席する前から楽しみでいました。

何しろ、造形教育に携わる諸先輩たちの授業がみられるわけですから……。「感性から発し　躍動する力を育む造形教育を！」この研究主題からは、情報化社会で直接的な経験をすることが少なくなった子供たちに、みずみずしく、豊かで素直な感受性を、直接的で、身近な造形教育で磨こう！と呼びかけられているようで、関心が深まりました。

中標津町の舘山先生の「鮭の皮を使って」からは、ふるさとの身近な題材を、生徒自らの手で構想してゆくという点だけでなく、先生の教材研究への熱意が感じられとても勉強になりました。根室市の長谷川先生の「石に描く」からは、本当に身近なものを、見つめ直し、発想してゆく題材のおもしろさと、授業中の生徒たちの素直で楽しげな様子が非常に印象的でした。また、提言綴からは、児童たちの創作意欲を喚起する様な熱心な小学校での取り組みから、たくさんの教科に携わっているのに図工の分野でこんなに研究され、創造することに喜びを持てる子供を育み、中学校に送り出してくれているんだと考えると、その熱意を無駄にしないような努力をしてゆきたいと思いました。

来年も参加して、自分の勉強にしてゆきたいです。

「郷土を見つめる心」

釧路市立鳥取西中学校　北山　貴子

長谷川先生の研究授業は、私も実践してみたいと考えていた「石に描く」だった。身近かな素材といっても改めて自然の素材を手にして、おもしろいとか美しいと感じる暇や心の余裕を失っている現代の生活。必要な物はほとんどそろっており、また容易に手に入る。そんな生活の中で、何か大切なことを忘れかけてきているように思われる。"たかが石"も、普段とは違う角度から見つめたときに創造の扉は開かれる。ひとつひとつ違う石の色・形・質を見つめていくと語りかけてくる何かがあることに気づく。今まで感じることのなかった思いが湧き、ひとりひとりの全く違った感性が浮かび上がる。そしてそれを表すことによって"ただの石"は"宝物の石"に変わる。身近かな素材を見つめ、そして感じることは実はとても重要な意味を持っているように思う。

授業は5～6人で構成された5つのグループが、四角い木枠の中に、それぞれがイメージして描いた石や木の枝や葉などをグループのテーマに合うように彩色した板に配置したり、描き加えたりしている段階のところであった。グループ学習はとかく発言力のある子ども中心になりがちだが、それぞれが屈託のない意見を述べながら制作しており、普段の学校生活のチームワークの良さや楽しさが自然と伝わってきた。ひとりひとりの良さが重なり合ってより良い物が生まれる雰囲気をつくることが大切なポイントになることを改めて感じた。

舘山先生の「鮭の皮を使って」の授業も大変興味深く、教室に入ったとたんに感じる鮭の匂いが印象的であった。素材の加工を考えると大変な苦労があったに違いない。しかし

授業を受けた生徒たちは、思い思いに素材を生かそうと熱心に制作しており、郷土の素材への関心をしっかり高めたように思う。

根室大会では、現代生活の中で忘れがちな「郷土を愛する心」を育てる大切さを学んだ。

● 分科会点描（第6分科会から）

◎テーマが生徒にとって興味のあるものだと感じた。
・今回は、各班ごとに事前に資料を集めてイメージを作っていった。
◎他の題材も含めて普段の授業で時間に追われるということはないか。
・この題材では、作業の流れの中でどんどん発想が広がって作品が増えていくので、時間内にはなかなか終了しない。
◎最谷川先生の雰囲気が柔らかく生徒を乗せるのが巧妙に感じた。見ているものも発想がかき立てられた。授業の中にいくつもの要素が感じられた。
1　ポップアート……いずれ、ひとりひとりの箱につながってもいいのではないか。
2　（個々のイメージを集団のサブテーマに乗せて）集団を意欲喚起させる。
3　イメージを話し合う……（班の協調の過程は？）多数決や妥協ではなく個々のアイデアが蓄積し、より良いものを作り上げるものだということを考慮する。
・班ごとの完全な統一は強制していない。迷いや、回り道はあったが、特定の意見に引かれる事もない。個々のやりたいことを収拾した状態。お互いが褒め、認めていた。
◎クラス内の人間関係に大きくつながっている。自己評価に相互評価を加えては。

6、大会を終えて

「最果て根室の、泥臭い感性で綴る大会エピローグ」

第47回全道造形教育研究大会
根室大会事務局長　山口　長伸

第47回全道教育研究大会・根室大会が、平成9年7月28日・29日の両日、根室市立花咲小学校と根室市総合文化会館を会場に、盛大に開催されました。

私達根室造形教育連盟の会員にとって、4半世紀間も待ち続けていた大会、根室の多くの先輩達が「根室で全道造形教育研究大会を！」と夢に見てきた大会が、47回にしてやっと実現できた喜びでいっぱいです。今は実行委員全員が、成功感、充実感、満足感、成就感、解放感に浸りきっているところです。

石の上　並ぶ昆布の　編模様
香し季節　もはや終わりぬ

思い起こせば、今から3年前の平成6年夏、第44回釧路大会のレセプションの宴席で、口を滑らせたのがそもそもの発端でした。「そろそろ根室でも！」という後押しの声に押され、釧路の地酒「福司（ふくつかさ）」の酔いの勢いを借りて、「根室が引き受けます！」と、断言してしまったのです。

福司　呑んで気持ちが　でかくなり
北の勝との　勝負引き受け

2次会では、酒豪であり、根室の美術教育の実践家を自惚れる数名が、釧路の地酒「福司」と根室の地酒「北の勝」を語呂合わせして、戯歌を詠んだものです。

釧路との　勝負に挑む　ふつ（く）つかさ
北の勝にて　根室の勝ちなり

さて、張り切って引き受けてはみたものの、実はたいへんなことを引き受けてしまっていたのでした。

まず、根室造形教育連盟会員の拡大から手をつけました。根室管内71校に呼びかけ、数名の精鋭を集めました。無理を言って、授業者を引き受けてもらいました。授業者の中には、初任者2名、校長2名もいて、絵画・版画・彫刻・デザイン・工芸の領域もそろえました。ブレ研究会や実技講習会、冬の合宿研究会も開催し、盛り上がりを図りました。実技講習会では、全道造形教育連盟顧問の金井秀男先生を講師にお迎えし、大成功に開催できました。

基礎伝ふ　重鎮金井の　技の冴え
学ぶ我等は　心洗われ

昨年の夏には、研究部も授業者に対して積

極的な支援を始め、根室大会のキャッチフレーズを作りました。「今こそ郷土根室を、豊かな感性で掘り起こそう！～親潮の海霧と暁が織り成す大ロマン、そんな最果ての風土を生かして感性を磨き合いましょう～」根室の雄大な自然にマッチしたこのキャッチコピーに、たくさんの出席者が吸い寄せられるような期待をもって作りました。

また、研究部の討議の中で、地域に根差した泥くさい実践を、根室らしく、自然体で公開していくことを再確認したのです。教師が豊かな感性を持ち、個性の強さを前面に出して、普段着の、飾らない授業をすることが、根室大会の成功につながっていると確信したのです。

ひたむきに　描き励みし　根室の子
笑顔爽やか　感性育てむ

次に、提言者・司会者・助言者・記録者の運営委員の委嘱を行いました。根室だけでは員数不足のため、他管内の造形教育連盟にも、役員の選出を依頼しました。兄弟であり先輩格の釧路支部は、手のかかる弟・根室のために、心温まる援助をしてくれました。次年度開催の留萌支部も、「自分達のためになることだから……」と、大挙して支援の手を差し延べてくれました。造形連盟の仲間のありがたい励ましでした。

ねむろうと　する児にかかる　みぞれ雪
釧路・留萌の　傘の温もり

資金の面では、根室管内1市4町と、根室教育局、全道造形教育連盟に多大な支援をいただきました。参加費の負担を、できるだけ軽減するために、事務局もあらゆる手立てを講じました。開催要項は、全道約二、三〇〇校の小中学校へ、各教育局を経由し、全道二一二市町村教育委員会を通して、手渡しする方法もとっていただきました。官民一体のご協力のお陰で、苦しい財政を支えていただき、参加費軽減につなげることができました。

温かき　よろずの力　当てにして
配りし要項　北へ南へ

こんな多くの協力をもって、第47回全道教育研究大会・根室大会が開催されました。全道各地から、優れた実践を抱えて、北海道の最東端・根室に来てくれるというのです。当初の予想では、「一〇〇人も来ればいいべさ。」という低い予想と、「いやいや、三〇〇は越えるっしょ。」という高い見積りで、多少の混乱もありました。第1次の参加集約は、やっと一〇〇名を越え、「まあ、かっこついた。」と楽観的に考えていました。しかし最終集約では、二三〇名を越え、嬉しい悲鳴に変わったのです。そして大会当日は、なんと飛び入り参加もあって、二六〇名を越えてしまったのです。

造形の　熱き思ひを　語らむと
集いし仲間　大輪花咲く

更に驚くことは、当日の人手不足を心配した根室管内校長会や教頭会の、運営ボランティアが続々と押し寄せて三〇名以上もいたため、大混乱になりました。弁当が不足してしまったのです。

ニムオロは　霧も深いが　情けも深い
弁当当たらず　恨みも深い

（筆者も大混乱の余り、高尚な？和歌が、低俗な都々逸になってしまいました。）

大会の火ぶたは切って落とされましたが、開会式からハプニングの連続でした。釧路・千歳・札幌大会で、開会式の運営の仕方をしっかり学んできたはずなのに、順序を間違えるは、来賓の送迎を忘れるは、協賛してくれた教材業者の意向を無視するは……。ああ…。事務局！何やってんだ！叱責叱咤お小言お目玉の連続。

泡を吹き　真っ赤になって　横歩き
あわて床屋の　蟹のごとくに

それでも、公開授業が開始される頃にはやっと落ち着きを取り戻し、研究大会らしいぴりっとした雰囲気が出てきました。「根室らしさ」を出すことが、授業の共通点でしたので、授業者もそれぞれが工夫しました。

「根室の霧の世界のイメージ化」……　小3
「根室の酪農を題材にした共同版画」……小5・6
「根室の漁業を映像化するCMづくり」…　小5
「根室の砂や貝殻を使った土器の制作」…小5・6
「彫塑用粘土を大量使用する
　根室の動物づくり」…小1
「根室の石に描く根室の自然のデザイン」…中1
「根室の鮭の皮を使った工芸の制作」……中3
「イラストレーション・
　根室のガイド・マップ」…高2

授業の主題には、必ず「根室」の地域性を前面に出して、研究大会当日の授業は、地域に根差した泥くさい実践を、根室らしく、自然体で公開できました。

午後の分科会では、授業を参観して下さった遠来の皆様から、「あったかみを感じた。」「図工・美術の授業の原点を見た。」「僻地教育にもこんな良い実践があったのか。」といった、お褒めの言葉をいただきました。もちろん、批判、非難、揶揄、こきおろしもあったのですが、なぜか忘れました。子ども達は褒められて伸びるのです。私達根室の教員も、褒められて伸びました。

褒められて　自信広げる　造形の
この昂まりを　子等へ伝えむ

その後、根室の名所へスケッチ旅行には三〇名、夜の親睦交流会には一二〇名の参加がありました。スカーレット色の花咲蟹にしゃぶりつき、北の勝を呑んで、クリムソンレーキに変化していく幸せそうな顔・顔・顔。今までの苦労が吹き飛ぶ、気持ち良い酔いの宵でした。

翌日の体験学習「流木を使って」の講座も、作品をお土産にできることで好評でした。更に、粟野武夫先生の講演「根室の植物」は、スライドを使った中身の濃い内容で、もっと時間に余裕を持たせるべきでした。

親潮の海霧と暁が織り成す大ロマン、そんな最果ての風土を生かして感性を磨き合うために、全道各地から五里霧中でやって来た仲間達。「哀愁の街に霧が降る」ので、「霧笛が俺を呼んでいる」と思って、「夜霧のブルース」を口ずさみながら「霧にむせぶ夜」に「夜霧に消えたチャコ」を捜しに根室に来てみたら、見つかったので「夜霧よ今夜も有難う」なんて、全道各地に雲散霧消していった仲間達。本当にありがとうございました。

根室は、今、秋。今日は、真っ青な秋晴れです。

●新聞記事より

全道各地から260人

初日、公開授業と研究協議

全道造形教育研究大会

「感性から発し躍動する力を育む造形学習を！」をテーマにした第四十七回全道造形（図工美術）教育研究大会根室大会が二十八日、全道各地から約二百六十人の参加者を集めて花咲小学校で始まった。

一日目は開会式、柏陵中吹奏楽部の歓迎演奏で幕を開けたあと小、中、高校合わせて八分科会で公開授業と研究協議などが行われた。

同研究大会は北海道造形教育連盟と根室造形教育連盟の主催。地元教育委員会などが共催し、管内の関係者でつくる実行委員会（鈴谷尊之実行委員長）が主管している。根室管内では初の開催。

二十八日午前九時半から行われた開会式では、吉田徳雄道造形教育連盟委員長、鈴谷実行委員長、会場校の小林信夫校長が挨拶。菱部英昭根室教育局長が祝辞、大矢快治根室市長が歓迎を込めて祝辞を述べた。

続いて柏陵中吹奏楽部が、同部顧問が管楽の四季を表現して作曲したオリジナル交響曲「遥か国後を望む」を演奏して、全道からの参加者を歓迎した。

このあと同校に、花咲小の三年生をはじめ中標津・若竹小、落石小、柏陵中、根室高校などの児童生徒と担当教諭を迎え、粘土遊び（小学一年）、やどM作り（同五年）、石に描くデザイン（中学二年）、恐竜のガイドマップ作り（高校二年）など八つに分かれて図工・美術の授業を公開した。

見学者は引き続き同テーマで分科会に入り、実践事例を交わしながら研究協議を行った。

一日目はこのほか、市内でのスケッチ旅行が行われた。

二日目は、午前九時から市総合文化会館を会場に、参加した教職員たち自ら流木を生かした造形遊びを体験研修するほか、元上風連小学校校長で根室の植物研究で知られる厚野武夫さんを講師に迎え、記念講演を聞く。「湿原は根室の植物」。

根室新聞　一九九七年（平成九年）七月二十九日

柏陵中吹奏楽部の歓迎演奏で幕を開けた全道造形教育研究大会

北海道新聞
1997年（平成９年）7月30日

豊かな感性どう伸ばす

根室で全道造形教育大会

【根室】図工や美術担当の教員が集まって人間性豊かな教育の在り方を探る「全道造形教育研究大会・根室大会」が二十八、二十九の両日、根室市内で開かれた。

道造形教育連盟（会長・吉田徳雄札幌市立琴平小校長）の主催で、今年で四十七回目。根室での開催は初めてで、全道の幼稚園から高校までの教員二百六十人が参加した。

今大会のテーマは「感性から発し、躍動する力をはぐくむ、造形学習を！」。非行や凶悪事件の多発などで子供を取り巻く環境が問題とされる中、その人格形成に大きな影響を与える造形教育の役割を見直そうという狙いだ。

初日は花咲小を会場に公開授業や分科会討議が行われた。二日目は根室市総合文化会館で参加者が海岸に打ち寄せられた流木を使ったオブジェを作る「造形遊び」に挑戦し、地域の自然や風土を生かした造形教育を体験した。

参加者自ら流木のオブジェ作りに挑戦するなど創意工夫を凝らした研究大会

全道造形教育研究大会開く

躍動の力育む造形学習

21世紀へ向け研修深化

初の根室市開催

全国各地から２６０人が参加

根室市立花咲小のクラスが授業を公開した

「根室の植物」で翠野氏講演

第47回全道造形教育研究大会

根室管内　小・中・高8クラスが授業公開

根室市立幌茂尻小　自分なりの土器を野焼

子どもたちは思い思いに土器を作った

中標津町・立広陸中　鮭の皮で創作活動

地元開拓の鮭の皮を使い創作活動する生徒

第48回 留萌大会

大会シンボルマーク

日時　一九九八年九月十・十一日

会場　留萌市立緑丘小学校
留萌中学校
北海道立留萌高等学校

研究主題

造形への誘い―悠―遊―優― 留萌へ
楽しさにひたり伸びやかに表す
造形活動と共感し寄り添う指導

1、研究主題について

(1) 大会主題設定にあたって

子供に適合した望ましい教育の在り方が、十八世紀初頭より今日に至るルソー・ペスタロッチ・チゼック・ニイル等、数々の教育家や思想家の優れた業績により、「子供特有の心身の成長を自然な状態の中で育み引き出し、押しつけるより愛を持って感じ取り受け入れること、自発性や直観を生かすこと、実物や実際を重んじること、身体・五感を働かせて経験的に学ばせること、知性と感性を溶け合わせること、知・徳・体の調和により発達する健全な人間の姿を求めること」であることが提起されました。

しかしながら、近代の目覚ましく発展・拡大する科学技術や産業社会に即応し、すぐに役立つ教育が圧倒的支持をもって進められ、真の教育の在り方が日の目をみることは、久しくありませんでした。

造形教育においても、美術教師チゼック等優れた先達の実践はありはしたものの、一般的には目に見えた教育的効果や社会的な利益

に直接繋がらず、その教科性を危ぶみ支持基盤も広がらなかったことから、いきおい技術指導面での実践にはしり、作品そのものの出来栄えを競う作品主義や技術主義で、その実績を認めて貰おうとする一時代があったことも否定できません。

今日、少子化・高齢化・国際化・産業の空洞化・技術革新等々、社会の急激な変化に伴い、これまでの知識偏重の教育から、個性重視の原則に立ち、意欲を持ってその時々の事象に対処できる思考力・判断力・表現力等、生きて働く力を求める教育へと進むことになりました。

加えて、このような教育改革の考えや思想は、造形美術教育本来の目指すところと一致しており、近代教育史上、千載一遇の機会を得たことになります。

しかしながら、顕著な進歩が見えづらい教育の営み、人々を納得させ得る方法上の裏付けと実証の不足という弱さを抱えているのも事実です。

そこで、本会では前次研究での3ヵ年にわたる継続研究として「自らの心をより豊かに拓く造形学習のあり方」についての実践検証を進めてきました。

その3ヵ年の継続研究により

★造形活動に楽しみを見いだすことの出来る題材の工夫と掲示の仕方

★活動に喜びを見いだす支援のあり方

★表現活動を楽しむ子供の評価のあり方

等が、徐々に明らかにされ、一定の成果を上げることができたと考えています。

平成八年度より、前研究実践の成果を踏まえ、標記の「造形活動への誘い―悠―遊―優―留萌へ」を大会主題とし「楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と、共感し寄り添う指導」を具体的研究主題として3ヵ年の継続研究に取り組んでおります。

このことによって、子供一人一人が自分を取り巻く世界の素晴らしさを主体的に認識していく資質や能力を育み、造形美術教育に求められている今日的課題「個性や創造性を重視し、創造的な造形活動の基礎的な能力を育てるとともに、表現の喜びを味わう」ことに迫ることが出来ると考えます。

(2) 大会主題と研究主題の関わり

【創造の原点】

悠
★ゆったりと自己に浸る
★悠々とイメージの世界に浸る

【造形の原点】

遊
★色や形・材料と楽しく遊ぶ
★イメージの世界で楽しく遊ぶ

【支援の原点】

優
★優しい声かけと見とる目
★優しく共感し合う心

楽しさにひたり
伸びやかに表す造形活動

共感し寄り
添う指導

2、研究主題の具現化

子供一人一人は、自分の表現の思いや願いを持ち、それを自分の表現の方法で心ゆくまで試み、自分らしい表現を楽しみたいと願っています。

本来、その願いが実現できることを期待して、図画工作・美術の時間を楽しみにしていなくはならないはずです。事実図画工作・美術の授業において、子供たちの明るい笑顔がみられるようにもなってきていますが、それは決して十分なものとは言えず、改善が望まれています。

では、子供たちが「表現の喜びを味わう」時とは、どういう状況、環境に困るのでしょうか。それは、決して教師の考えた技法や表現方法を押しつけられ、準備した手順に従って進められる学習を意味しません。そのような状況下の中で作られた作品の完成度や出来栄えに満足しうる子供もいないわけではありませんが、それは稀であり、「表現の喜びを味わう」こととはねらいを異にします。

「表現の喜びを味わう」とは、子供一人一人が、自分のよさや可能性である想像力を働かせた発想や構想、自分らしい表現が楽しめたときの充実した感情を示します。そして、このような環境にあった時に、子供は最高の意欲を示すものであります。子供に限らず、

このような状況にある時は、人すべて夢中になり、さながら遊びにおける絶頂期の状態になります。

悠

♡子供を駆り立てたり性急さを要求しては、子供一人一人の個性的表現は望むことが出来ません。ここに、しなやかな個性的表現を可能にする創造の原点としての悠を見いだすことが出来るのです。

・ゆったりと自己に浸る
・悠々とイメージの世界に浸る

つまり、教師が紹介する題材や提案に基づいて、子供は豊かに自分の経験や直感を働かせ「ゆったりと自己にひたり」「悠々とイメージの世界に浸る」ことが出来るような

◆表現活動の楽しさを味わうための題材の選択や開発・提案や指示の仕方の工夫

◆表現活動の楽しさを味わうための指導計画や指導過程の工夫

を目指さなければなりません。

遊

♡「遊び」は子供にとって知恵を磨き、心の中から沸き上がる創造性を磨くものです。また、遊びは心にゆとりをもたらし、心の楽しさや新たなエネルギーを生みます。そして、この「遊び」を受け入れることにより、造形活動を膨らませ、子供の可能性を無限のものとすることが出来る原点としての遊を見いだすことができるのです。

・色や形、材料と楽しく遊ぶ
・イメージの世界で楽しく遊ぶ

つまり、子供が自分の見付けた表現の思いや感じについて、その子らしい想像力を働かせ、発想や構想をして具体的なイメージを心に描き、そのイメージを心に描き、そのイメージを具体化するために自分にあった表現の方法や材料などを選んで個性的な造形表現・試行を楽しむことが出来るような

◆表現活動の楽しさを味わうための色や形・材料・イメージの世界と主体的にかかわり合う学習活動の工夫

を目指さなければなりません。

優

♡優しさは、すべての行為・行動・交流の源であってほしいものです。子供一人一人に寄り添い、「優しさ」と「共感」をもって、経験の少ない子供たちに紹介したり、提案したり、相談したりすることは、学習活動を支えるために必要なことです。このような子供たちにとって有効なものを積極的に生かす支援の原点としての優を見いだすことが出来ます。

また、支援とは子供一人一人が自分らしい表現、つまり自分らしい表現の思いを持ち、自分らしい表現方法で工夫していくように、その願いや方向を尊重しながら子供たちが、自ら表現を進めていくことを決して先回りしないで支えていくような指導のことを言います。

・優しい声かけと見とる目
・優しく共感し合う心

◆表現活動の楽しさを味わうための支援を中心とした指導と評価の工夫

を目指さなければなりません。

■研究の願い（仮説）

子供の側に立った題材の設定や活動体験が豊富な学習計画を工夫し共感的支援や見とりを豊かにすることにより、造形的な創造活動の能力を高め、楽しさにひたり伸びやかに表現する子供に育てたい

3、公開授業一覧

校・園種	内容・分野・分科会	学年	題　材　名	授　業　者
幼稚園	造　形　遊　び（第１分科会）	年長	はっけん！ぼくらのぼうけんじま	宇佐美　弥生・大澤　助三郎（かもめ幼稚園）
小学校	造　形　遊　び（第２分科会）	２年	はっぽうスチロールのへんしん	居　島　順　子（留萌市立緑丘小学校）
	絵や立体に表す（第３分科会）	３年	つくろう　私たちの海	豊　崎　東　洋（留萌市立留萌小学校）
	つくりたいものをつくる（第４分科会）	６年	よみがえれ！ガラクタたち	岡　田　加世子（留萌市立東光小学校）
中学校	絵　　画（第５分科会）	１年	イメージを誘う不思議な形 ～想像の世界を表そう～	工　藤　　臣（留萌市立留萌中学校）
	複　合　立　体（第６分科会）	２年	立体造形のひろがり ～イメージをしたものを形にしよう～	金　澤　典　子（留萌市立港南中学校）
高　校	デ　ザ　イ　ン（第７分科会）	１年	イメージを表現する	岩　渕　章　夫（北海道立留萌高等学校）

4、分科会一覧表

分科会	内　　容	授業者	提言者	司会者	助言者	記録者	運営委員
1	造形遊び「はっけん！ぼくらのぼうけんじま」	CT宇佐美弥生 ST大澤助三郎 ★かもめ幼稚園年長組	森　美由紀 札幌　いなづみ幼稚園 原　　良三 旭川　わかば幼稚園長	中本真美子 北広島市大地太陽幼稚園 渡辺　貞之 深川市立深川小学校	伊藤　善彬 札幌パール幼稚園長	鈴木　亜美 かもめ幼稚園	立花　陽子 苫前町立古丹別小学校
2	造形遊び「はっぽうスチロールのへんしん」	居島　順子 ★緑丘小・第2学年	柿崎　雄二 函館市立中の沢小学校 松田　恭子 増毛町立増毛小学校	野島　　操 小平町立本郷小学校 宮森　俊治 苫小牧市立美園小学校	成田　慎司 名寄市立名寄東中学校 松田　信幸 帯広私立豊成小学校	佐々木　忍 留萌市立藤山小学校	秋元のぞみ 留萌市立緑丘小学校
3	絵や立体に表す「つくろう　私たちの海」	豊崎　東洋 ★留萌小・第3学年	合田　里美 歌志内市立西小学校 山室ゆかり 札幌市立西岡南小学校	伊藤　優子 羽幌町立羽幌小学校 谷口　光伸 乙部町立乙部小学校	藤井　昭夫 函館市立弥生小学校長 阿武　勝美 余市町立登小学校長	高橋　　香 増毛町立増毛小学校	滝本　郁子 羽幌町立羽幌小学校
4	つくりたいものをつくる「よみがえれ！ガラクタたち」	岡田加世子 ★東光小・第6学年	近藤　靖子 帯広市立開西小学校 塩田　晃 天塩町立天塩小学校	袁島　裕二 恵庭市立和光小学校 北村　哲朗 室蘭市立八丁平小学校	山口　長伸 中標津町立計根別小学校長 鈴木　文雄 虻田町立虻田小学校長	小西　共美 羽幌町立羽幌小学校	横溝裕美子 天塩町立円山小学校
5	絵　　画「イメージを誘う不思議な形」～想像の世界を表そう～	工藤　　臣 ★留萌中・第1学年	常盤　欣也 壮瞥町立壮瞥中学校 高橋　　潤 鵡川村立鵡川中学校	梅原　賢伸 羽幌町立羽幌中学校 岩館こずえ 函館市立旭岡中学校	阿部　賢一 興部町興部中学校長 大月　猛 苫小牧市立啓明中学校	村元　隆一 羽幌町立羽幌小学校	室谷　雄一 初山別村立初山別小学校
6	複合立体「立体造形の広がり」～イメージしたものを形にしよう～	金澤　典子 ★港南中・第2学年	安田　仁昭 札幌市立西岡北中学校 小笠原　愛 恵庭市立恵庭中学校	根岸　邦昌 芽室町立芽室西中学校 原田　菊枝 留萌市立港南中学校	多田　紘一 札幌市立もみじ台南中学校長 大口　優 旭川市立鷹栖中学校	松岡　宏悦 留萌市立浦藤小学校	松永　直子 羽幌町立羽幌小学校
7	デザイン「イメージを表現する」	★岩渕章夫 ★留萌高・第1学年	板東　宏哉 札幌手稲高等学校	寺腰　精司 旭川凌雲高等学校	開沼　英則 札幌東陵高等学校	日下　智子 小平高等養護学校	安藤　和也 羽幌高等学校

「全道大会の授業を終えて」

留萌市立港南中学校　**金　澤　典　子**

9月11日（金）に留萌中学校を会場に行われた中学校部会の研究授業。前日のあの何ともいえぬ緊張感。そして準備の慌ただしさ。（まわりの方々にご迷惑をおかけしました）早く終わってほしいと思う気持ちとうらはらに、時間の経つのがやけに長く感じた…。

今振り返ると、もう少しこうすればよかったと思うことがたくさんありますが、多くの会員や職場の先生方に「頑張ってね」と声をかけていただいたことが大きな励みとなり、何とか授業を終えることができました。深く感謝しております。

また、授業者が授業のことだけを考えて準備を進めることができたのは、運営に携わった各部の先生方のご協力のおかげだと思っております。

本当にありがとうございました。

公開保育を終えて

かもめ幼稚園「うめ組（5歳児）」担任　**宇佐美　弥　生**

研究会の授業者としての体験は、この度が初めてでした。

このことが、普段なにげなく行っていた私の保育活動の細部を、改めて一つ一つ見つめ直し、考え直すきっかけとなりました。また、たくさんの先生方の観察の目にさらされる緊張も、ひしひしと実感しましたが、サブとして付いてくださった大澤先生のお陰もあって気持ちに余裕は残りました。

当日の子どもたちは、バスでの移動の時から設定保育の世界に入り込み、どの子の話を聞いても、それぞれにストーリーがあり、自分のつくった動物への愛情が感じられましたし、思い思いに感情移入して生き生きと活動する姿は、指導していて楽しいものでした。意外な子が、とても大きなものをつくったり素材にこだわって探していたり－という一面に気づかされたことも良かったと思います。

事前から当日、そして事後にわたって、多くの先生方からいただいた貴重なお話は、これからの私の保育に生かしていきたいと思います。

全道造形研の授業を終えて

留萌市立東光小学校　**岡　田　加世子**

「よみがえれガラクタたち」は廃品を素材とした題材です。そのため廃品の収集には学校の先生方、保護者の方々、「美・サイクル館」など沢山の方々の協力をいただきました。

子ども達は授業ばかりでなくシートを拭いたり、作品をトラックで運んだりと制作以外の仕事もかなりありましたが良く働き、頑張ってくれました。

また後始末では、子ども達ばかりでなく公務補の方々が、子ども達が分解できなかったところを分解、種別して始末していただきました。

出来あがった作品の扱いについても、『何か良い方法はないものか』と、思っておりましたが、学校で一週間ほど校内展示をしていただき、その後「美・サイクル館」で11月一杯工作室に展示されることになりました。

また、教科書会社から作品の写真撮影に見えるなど、子ども達にとって思いがけない経験ができたようです。これも皆様の支援のお陰です。有り難うございました。

造形教育大会を終えて

北海道留萌高等学校　**岩　淵　章　夫**

留萌高校で10年間、毎年少しずつ工夫をしながら行ってきた平面構成の授業を造形教育大会で公開し全道の多くの方々に見てもらいました。

研究協議では貴重なお話をいただき、大いに勉強になりました。特に公開授業で生徒の作品内容が、普段と変わらないペースで進んでいたことに改めて「ものをつくる意欲」とはすばらしいものと思いました。

また、「イメージを表現する」の授業内容についてデザインの基礎勉強にとどまらず。もっと高いものにしていくよう今後も努めていこうと思います。北海道の美術教育の発展に関わりを持てることは幸せなことと考えています。

6、講演会

この大会の講演の講師の先生は、愛知産業大学教授の新川昭一氏により、「今、ニコニコ・ピチピチ・伸びやか・指導の喜びを」と題して八十分間お話をしていただきました。

昭和2年生まれということでしたが、大変お元気というより、まだまだその体力や気力に逆に刺激をうけるほどの方でした。

新川先生は、中学校教諭を経て、文部省の教科調査官、視学官を歴任された後、金沢大学教授、そして現在に至っています。職歴は教育現場、行政、さらに高等教育機関での指導と大変幅広い方で、講演も現場の状況をよく理解して、具体的かつユーモアを交えてとても分かりやすいものでした。

講演の概要は以下の通りです。

●ニコニコ　①明るい出会い　表情の楽しさ
和やかさ　貴重な悠遊優
②きれい・かわいい・かわいそう…美・善行・知識欲・豊かな心
●ピチピチ　①目と手の活動　伝え・考えさせ・誘い・助け・励まし・確かめの工夫
②関心と興味、そして、意欲「やったあ」の嬉しさ（成就感）
●伸びやか　①一人一人の自分史の主役（主人公）意識とみんなで暮らす協力と感謝
②よりよい健康・安全・向上を目指して
より味わい愛好する芸術

7、大会を終えて

「感謝！」全道の造形連盟の会員の皆様。そして、関係者の方々にこの言葉をまず言わせていただきます。この原稿を書いているのは、大会終了から一年以上過ぎていますが、大会当日やその前後のことを思い出すたびに「ありがとうございました。」という言葉が心の中に浮かんできます。

事務局としては、他の方々に迷惑をかけないように意欲的に取り組んでいましたが、留美研の会員はもちろんですが、全道の造形教育を志す先生方の熱き思いが留萌に結集したことによって実りある大会にできたと考えています。

感謝！

お陰さまで、参加した諸先生より次のような声をいただいております。

◆授業や提言が大会主題・研究主題と関わって一本の筋が通っている。積み重ねの重さを感じた。　◆授業ガイドの事前配布に脱帽…
◆ステージ構成や看板表示物など環境構成に留萌の温もりや真摯な姿が伝わってきた。

しかし、このような評価をいただく裏には次のような不安や出来事がありました。

この大会が、全道小学校長研究大会や他の大会と重なるため、参加が少なくなるということ。夏休み開催でなく、平日開催ということ。これらから参加者数がかなり減少する不安がありました。しかし、約三五〇名という参加者があり、予定数を大幅に越えました。そのため、大会要項も3度増刷することになりました。また、大会当日まで参加申し込みがあり十分な対応が出来なかったと反省しております。しかし、今回の運営で、

◎夏休みより平日開催の方が、先生方の多くが参加しやすい。
◎造形に関心ある先生方は、場所がどこであれ参加していただける。

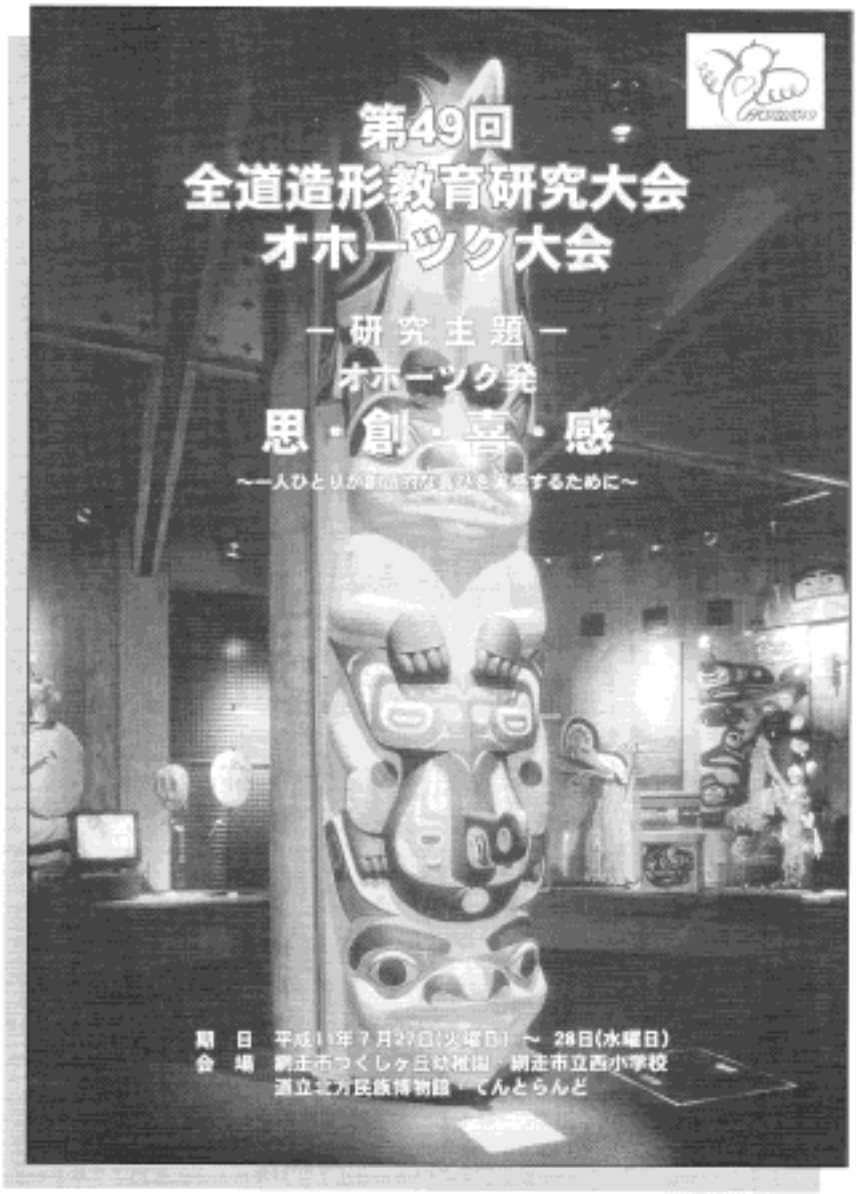
というようなことがわかりました。

最後に大会に寄せられたねぎらいの礼状を紹介して終わりといたします。

先日の留萌大会は、とても記憶に残る大会となりました。先生方の熱意、温かな会場校の雰囲気、そして留萌の方々の優しさ、どれもすばらしいものでした。こうした人たちの中で育つ子供たちは、とても幸せだと思いました。どの子も先生を信頼し、作品づくりに夢中になっている姿にその成果を見たような気がします。

このようなお褒めをいただき、事故もなく大会が無事に終わったことを、関係機関や全道の会員の皆様に、ただ感謝するのみです。

第49回　オホーツク大会



大会シンボルマーク

日　時　一九九九年七月二七日・二八日

会　場　網走市つくしヶ丘幼稚園
網走市立西小学校
道立北方民族博物館
てんとらんど

研究主題

オホーツク発
思・創・喜・感
～一人ひとりが創造的な喜びを実感するために～

1、『研究主題について』

子供たちは本来的に、様々な可能性を内に秘め、より良く生きたい、喜びを味わいたいと願っているものです。

子供一人ひとりのこのような内発的意欲に基づいた主体的な学習活動を、温かく見守り支援していくことがなりより大切なことと私たちは考えました。

造形教育が、子供たち一人一人の心を形に表し、また、形に感じる教育であることから自らの構想を練り、描いたり、ものを作り上げる中で、人格形成をする教育であると言えます。

これらの活動一つ一つを通すことにより、人と人ものと物とのつながりから調和的関係を培うことができるのではないでしょうか。

子供たち自らの手で、試行錯誤を繰り返しながら、自然や材料に働きかけ作品や作品を制作する過程で、多様なコミュニケーションを深めていくことが大切です。

オホーツク造形教育連盟では、自然や豊かな人間的風土を生かし、造形教育の原点に立

ち返り、表記の研究主題を設定し大会に向けて研究に取り組んできたところです。

2、『研究主題の具現化』

子供一人一人が、本来の生き生きとした創作活動を展開し、自らの良さや可能性などを発揮しながら、育っていくようにするために思＝個性・創＝創造・喜＝喜び・感＝共感の観点から迫っていこうと考えました。

思＝個性

子供一人一人が、感じたこと、思ったこと自分の思いを好きな形や色、線、材料などで表したり、つくったりする造形活動は、子供の発達の特性から考えて、特に親しみやすく進んで楽しみ、喜びを味わうことのできる活動です。そのためには、全過程にわたって、自分の思いが十分に生かされ続ける必要があります。

創＝創造

造形的な創造活動の基礎的な能力としては始めに人間の本性としての表現本能や創造本能に基づき、自分の思いを表したいという意欲を挙げることができます。これらに支えられながら。造形的な間隔や感受性を発揮していろいろな体験や物などから感じ取ったり、想像力を働かせて自分の表現の意図や思いなどを発想し、ふくらませながら、より良い表現の方法などを考える構想力を育成し、表現させることが大切です。

喜＝喜び

子供一人一人の思いに基づいた造形的な創作活動では、色や形、線などに対する自分の好みなどを思いのままに生かすことが可能です。

また、自由にいろいろな試みができるなどの特性は、子供にとって親しみやすく、進んで表現活動を楽しみ、その喜びを味わうことができます。

さらに、子供が作品などの面白さ、楽しさを味わうようにすることにより、感覚や感性を豊かにしていくことができます。

感＝共感

造形活動は、作る過程において、また、できあがった作品を通して、大きな意味でのコミュニケーション活動であると言えます。

したがってより良い創造的な造形活動を生み出すためには、子供と子供、子供と教師が信頼し合う暖かい雰囲気が必要です。

そのためには、子供と努めて触れ合い良く観察し、一人一人の良さを見出だすことが基本となります。それは愛情ある共感的理解でなくてはなりません。

実際に全道大会を終えてみて、研究が少しは深化したのではないかと総括しているところです。具体的には、

思＝個性

どの授業も、子供一人一人を大切にしたこと。

創＝創造

目の前の材料を見たり、自分の体験を通して、題材から思い浮かぶイメージを基に、思いをふくらませ、工夫し制作、表現することを大切にしたこと。

喜＝喜び

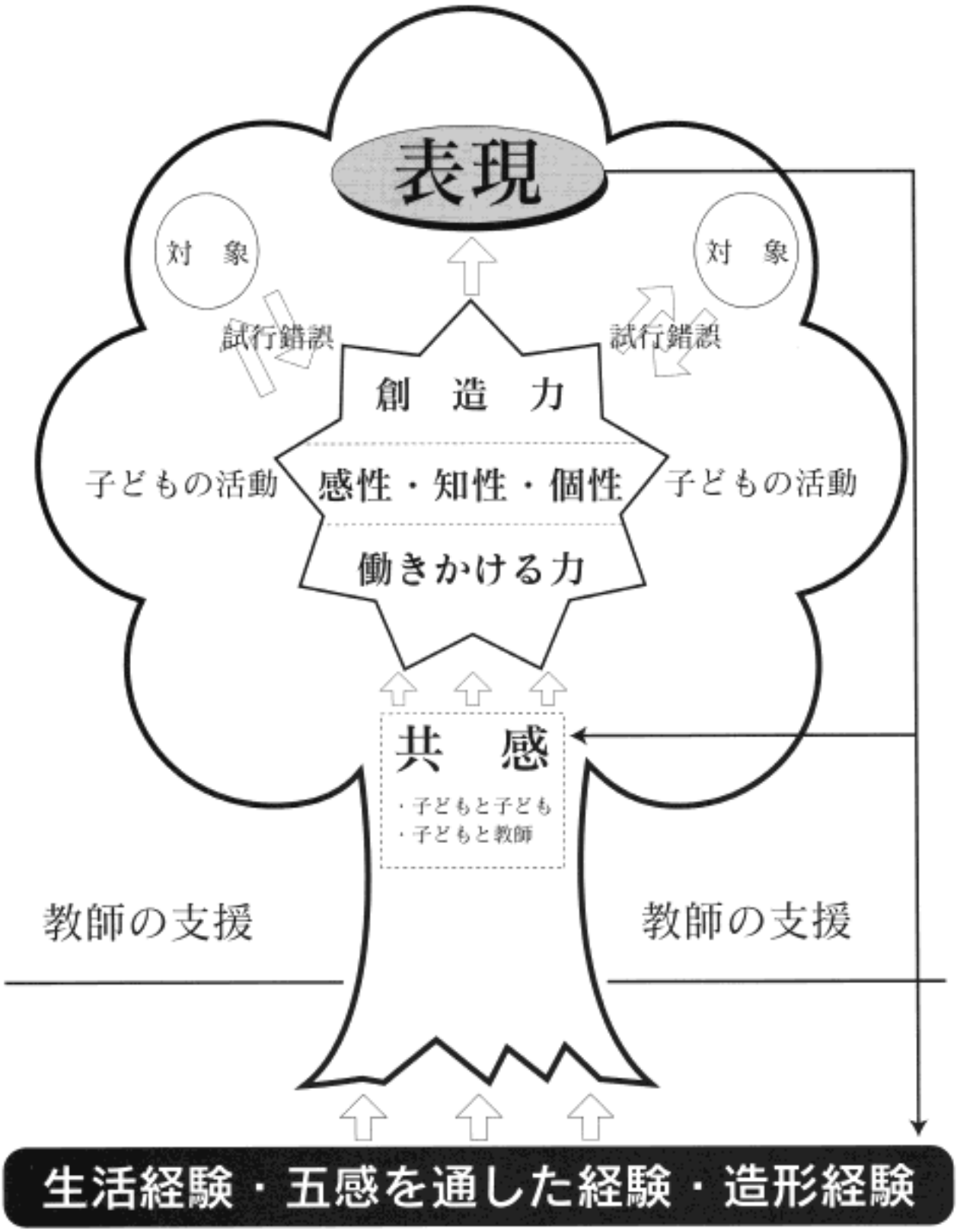
制作、表現に没頭した充実感を味わうことや、協力して作品を完成したことを喜び合ったり、完成した作品を使って遊んだりする中で喜びを味わわせる取り組みをしたこと。

感＝共感

みんなで協力して1つの大きな作品を制作する中での交流や完成した喜びを共有すること、また、お互いに作品を発表する中で自分にはない良さを見つけたり批評をし合う中で互いに高め合うなど、豊かな人間関係を育む取り組みであったこと。

などが挙げられます。

造形的表現活動の喜びを実感



3、第49回全道造形教育研究大会オホーツク大会授業及び分科会構成

授　業	1	2	3	4	5	6	7
領　域 学　年	造形遊び （年中組）	造形遊び （小学２年）	創りたいものを作る （小学３年）	造形遊び （小学４年）	絵　画 （小学３～６年）	デザイン （中学２年）	個人選択 （中学３年）
題材名	新聞遊び	海で見つけた宝物	緑動物ランド	コロコロ アート	朝の道・ 帰りの道	本づくり ～イメージを広げて～	個人選択
授業者	小野　直美 山本江里香 （つくしヶ丘幼稚園）	宮武喜美子 （網走中央小）	添田　好美 （北見緑小）	阿部　宏行 （札幌中央小） 米本　正 江尾美穂子 （網走西小）	里見　貴史 （女満別大成小）	久住呂志奈子 （網走第五中）	光岡　光彦 （常呂中）
分科会	1	2	3	2	4	5	6
提言者	茂泉亜希子 （札幌・中の島幼稚園） 久保下直子 （帯広・大空保育所）	玉手　稔唯 （旭川・永山南小） 岡島　敏 （十勝・下音更小）	田坂　肇 （石狩・上江別小） 西館　純 （函館・神山小）	第２分科会に同じ	堀口　基一 （札幌・屯田西小） 柿崎　雄二 （函館・中の沢小）	高山　修一 （網走・雄武中） 石川　早苗 （札幌・手稲中）	成田　慎司 （上川・名寄東中） 庄子　展弘 （根室・中標津中）
司会者	佐郷谷　滋 （教育大函館付属小学校）	篠原　寛 （札幌・福井野小）	谷口　光伸 （松山・乙部小）	第２分科会に同じ	小野三枝子 （釧路・柏木小）	川原　潤 （旭川・光陽中）	水口　司 （渡島・大中山中）
助言者	吉田　義晴 （オホーツク造形顧問） 伊藤　善彬 （北海道造形顧問）	関　建治 （石狩・和光小） 竹内　堅治 （留萌・鬼鹿小）	中島　欣也 （釧路・鳥取小） 山口　雅子 （帯広・明和小）	第２分科会に同じ	窪田　恵子 （札幌・三角山小） 佐藤　眞幸 （胆振・穂別中）	山口　長伸 （根室・計根別小） 横山　啓一 （上川・名寄中）	黒河　洋輔 （オホーツク造形顧問） 下坂　正之 （十勝・屈足中）
記録者	森沢真佐子 （北見・中央小）	相馬　隆 （網走・潮見小）	神田　国昭 （美幌・上美幌小）	第２分科会に同じ	小野寺和栄 （北見・緑小）	伊藤　公美 （興部・興部中）	野川　真紀 （北見・高栄中）
運営委員	古岡　晃 （網走・音根内小）	和田　秀穂 （網走・中央小）	亀山　博貴 （網走・二見ヶ岡小）	第２分科会に同じ	黒沢　武 （網走・浦士別小）	茗作　政幸 （網走・第五中）	野田　潤一 （網走・第一中）

●実技研修一覧

	内　　容	担　当　者　名
1	ウイルタのやじろべえ	野川　真妃・阿部　賢一・高田真穂
2	ウイルタの切り絵模様	須貝　　徹・黒河　洋輔
3	サミの紐	平岡　良一・畔原　信子
4	ナーナイのペンスタンド	森沢真佐子・山宮　喬也
5	アイヌのガラス玉	笹倉いる美・添田　好美
6	イヌイットのうなり板	須貝喜久晴・石橋　一郎

4、研究会から

（1）幼稚園　年長組『新聞遊び』

「新聞遊び」という題材で、授業が行われました。

授業では、まず「飛行機」「うさぎ」「おすもうさん」に変身して楽しんだ後、新聞を使った「折る」「縮める」「破く」といった遊びに入りました。破かれた新聞が雪、海、枯葉、になって十分楽しんだ後、両面テープをはった怪獣が出現、子供たちが力を合わせて新聞を貼ると、破られた新聞の海に浮かぶ怪獣が出現。

遊びを通して、子供たちの感性を育む素晴らしい実践でした。

（2）小学2年生「海で見つけた宝物」

教室内にビニールシートを敷き詰めて、漂着物を使って、組み合わせたり形を変えたりして作品を作りました。

夢中になるとあっという間に時間は過ぎました。子供はだれでも芸術家！

（3）小学3年生「緑動物ランド」

ビデオカメラで撮影された「木の枝を使った造形遊びの様子」を上映しました。

（4）小学4年生「コロコロアート」

画用紙で作った箱の中で、ビー玉、スーパーボール、ミニチュアカーなどを絵の具を付けて転がし偶然にできる美しい色と、模様のできる過程を子供たちは楽しんでいました。

（5）小学3年生「朝の道・返りの道」

絵画、小学3～6年生まで、10人の児童を黒板の近くに集め、15種類の松の木について説明し、黒板の自分の名札を手法うごとに張り付け、自分の絵巻をどの手法で行うかを決定してから作業に入っていた。

（6）中学2年生「本づくりイメージを広げて」

絵本づくりを通して、イメージを広げてコンピューターや色紙を使った、印刷物の制作過程を学ぶ。本にあった色紙で絵本づくりと製本に取り組んでいた。

（7）中学3年生「個人選択美術」

3～4名ごとで絵画は、彫塑、竹細工、イラストの4つの分野から自分で選択し、それぞれ意欲的に制作に取り組んでいた。

苫狸御寝
全道造形研究大会
オホーツク大会
速報紙
第７号
平成11年７月27日（火）発行

第49回 北海道造形教育研究大会 オホーツク大会 参加感想

札幌市立厚別北小　　土田　宏充

前日の雨が嘘のように上がり、日差しも中味も素晴らしい大会となりました。気持ちよく参加できました。オホーツクの海からの宝物の実践、題材そのものがよかったとおもいます。時数はもう少し欲しかったですが、この題材に取り組めた子どもたちは幸せだなぁと思います。ありがとうございました。

網走桂学園つくしヶ丘幼稚園　　星　　晶子

今回の造形～大会に参加して、自分は公開保育の園で、保育を進めていくところを見守っていましたが、見守っている中で、普段見ることのできない他クラスの保育から学ぶことがありました。又、分科会では、提言者の方の造形遊びの内容、導入のしかた、進め方についてのお話では「あっ！こういうやり方もあるんだ」いろんな素材、造形について自分としては、発見したり、参考になる部分が多々あって、とてもよかったと思います。

北見市　　山宮　勲也

第３分科会に入れてもらいました。

授業の北見市立緑小添田先生、提言の函館市立神山小の西館先生、江別市立上江別小の田坂先生、素晴らしい実践ありがとうございました。

若い熱気溢れる先生方の教室の姿が目に浮かびます。益々のご健闘を祈ります。

根室管内　羅臼町立春松中学校　大溝　雅之

日常的に造形教育に関する交流があまりできない地域に長くいますので、この全道大会は刺激になります。と同時に、図工、美術教育に対して、それを指導する我々自身が教育課程の編成そのものにしっかり意見を持たなければならないことを感じました。

遠島　知内町立湯里小　　三品　充子

今回、初めてこの大会に参加しました。２年生の『海のたからもの』を参観しました。宮武先生がにこにこ顔で子どもたちに接し、いっしょに大笑いしているのが一番の支援なのかなと思いました。

札幌市立大通小　　東　　尚典

５年前まで管内（女満別）におりましたので、懐かしいお顔を拝見でき大変嬉しかったです。

子どもたちが素朴で、あたたかい雰囲気のある授業が多く感心しました。少ない会員数の中、色々とご苦労があったことと思います。

札幌市立苗穂小　　富田　　泰

目の前にいる子どもたちの現状（生活、思考）を十分に把握し、その上に立った図工の教育計画（題材、指導計画、支援）を企画されていることに敬服しました。第３分科会での授業者、提言者の情報力（教育に関する現代の課題企画力）に頭が下がります。幅広い豊かな教育観を持った３人の先生、ありがとうございました。もっ多くの時間で、３人の先生の日常実践をお聞きしたく思いました。

網走市　桂幼稚園　　倉水サカエ

公開保育（新聞あそび）について…、子供たちが「新聞」という素材を通して友達同志・保育者とのびのび遊んでいるのがよくわかった。新聞あそびという造形活動から運動あそび（ちぎったり、パンチをしたり、新聞上ですべってみたり…）へとつながっている場面も見られ、保育が一連のつながりを持っているんだナということを感じた。新聞あそびの時に、保育者から子ども達の動きのきっかけとなる言葉かけ（具体的な…）があっても良かったのではないかと思う。

今後の造形あそびがどのように展開されていくのか楽しみです。

札幌市立米里中学校　伊藤　　尚

最近の授業には教師の強い指導場面が影を潜めています。

子供が学習の目標を持って取り組み、自己評価を行うという新しい学習サイクルの輪の中で、目標の焦点化を進める場面や基礎・基本の能力を養う場面では、逸産せずに一歩踏み込んだ教師の支援が必要であると感じました。

函館市港中学校　横黄沢英二

オホーツクを目指し函館から10時間かけて参加しました。第５分科会では、本づくりの授業や二本の提言についての熱心な話し合いなされました。多くの先生方との交流の中から学ぶことがありました。

ありがとうございました。

次年度は、歴史とロマン溢れる函館での開催となります。函館でお会いしましょう。

上砂川中央小学校　上杉真智子

【オホーツク大会の感想】

〈その１〉とっても涼しい！というより寒いくらい。

〈その２〉お昼のカニ弁当はおいしい!!

〈その３〉教材展示で買いたいビデオを含めて収穫あり良かった。

〈その４〉分科会では、全体会までたくさん見かけた若い先生が少ない。話し合いは表現する子どもの思いと技法について終始、今子どもたちが描きたいという思いを育てるような題材や指導が大きな課題だと実感させられている分科会です。

〈その５〉授業者の方々のご苦労に感謝致します。

第50回　函館大会

大会シンボルマーク

日　時　二〇〇〇年七月二六・二七日

会　場　函館市立駒場小学校
函館市芸術ホール
道立函館美術館

研究主題　豊かな自分づくりを生かす想創活動

21世紀に発信する大会

◆チャイムなし時間差公開授業
様々な活動に合わせて時間を設定する時間差をもって公開授業を行うことで、参観者が主体的に選択し研究を創り出す場を提供する。

◆題材をイメージさせる分科会
学校の壁を越えて、多様な想創活動の発信を分科会ごとに進める。

◆芸術ホール・美術館との共同推進
函館市芸術ホール・道立美術館との共同により大会を企画し発信する。

◆三地域合同の展覧会
函館・渡島・檜山の三地域から集めた児童生徒の作品を芸術ホールで展示・交流し造形教育の活性化を期待する。

1　研究主題について

私たちは、美術の学習を通して「人にとって大切なもの」を把握させようとする視点でこの研究主題を設定し取り組んできた。特に〝地域〟を基盤とした先見性や夢、潤い、喜びに満ちた想いを生かし、一人一人の『憧れ、気持ちがひかれ、楽しい』と感じることを大切ととらえている。それを子どもたちが創意工夫をもって具現化し相手や未来に伝える活動の展開こそがこの主旨となる。このことによって、昇華される感情・心、そして美しいものに素直に憧れる美的情操が育まれ、表現・創造の基礎的能力の定着を図ることができると考えた。

2　研究主題の具現化

この実践は、子どもたちの感性や創造性をもとにした〝知〟の育成にかかわっており、子どもたちが色・形や材料に感性を働かせ、幅広い表現活動を受け止めるところから始まる。このことは、子どもたちがもっている感性や想い、イメージと体が一体となって、色・形や材料に働きかける造形教育を構想するということである。

ここでの〝豊かな自分〟とは、〝優しさ・思いやり・がんばり・美しさ〟などの健康的な心のことをさしており、さらに現代の人間が失いかけている〝夢・憧れ・畏敬〟なども含んでいる。

このような心をもっている子どもたちが〝豊かな自分〟を〝つくる〟ということは、『自分自身の中で大切にしている想いをふくらませ、自分自身と向き合い、表現を試み続けようとする（追求する）姿である』とおさえている。

このような活動が成り立つためには、

①表したいことを見つける力（想い、発想）
②それをどのように表すかを思考・計画する力（構成、構想）
③具体的な実現を図るための表す力（表現方法、材料、知識、用具の活用の技能）
④自分の他のよさがわかる力（批評、理解、尊重）

の四つの活動のプロセスを通して総合的、調和的、一体的に働かなければならない。このような子どもたちの想いが十分に発揮される活動が〝想創活動〟である。

3　第50回全道造形教育研究大会「函館大会」授業者・提言・司会・助言者・記録運営一覧

	A	B	C	D	E	F	G
科会名	大地からの発信	空間からの発信	社会への発信	社会からの発信	大地からの発信	光（地域）からの発信	生き物からの発信
授　業	授業1「年少」 木村かおり 小林恵理子 （附属函館幼） 授業2「2年」 柿崎 雄二 （中の沢小）	授業3「23」 藤田 淳子 （函館聾） 授業4「5年」 西館　純 （神山小）	授業5「2年」 三谷 龍司 （戸倉中）	授業6「3年」 瀧本　伸幸 （旭岡小）	授業7「全」 林万　希代 竹内　靖浩 岩渕　明男 （西大沼小）	授業8「2年」 仲井　靖典 （潮見中）	授業9「1年」 坂本　真琴 （桔梗中）
提　言	戸巻　聖 （松風幼稚園） 中谷　文武 （江差小） 川島　正夫 （札幌南の沢小）	佐鄕谷　滋 （附属函館小） 山田　光 （福島小）	玉山麻衣子 （今金中） 花岡　康成 （赤川中） 佐々木善憲 （附属函館中）	高橋　喜子 （北昭和小） 佐々木寿也 （本通小）	里見　貴史 （女満別大成小） 中野　至敏 （南本通小）	笠松　英治 （本通中） 高橋久美子 （札幌宮の森中）	横井　真 （七飯中） 阿部　祐司 （函館中部高）
司　会	髙石　悦朗 （青柳小）	三品　充子 （港小）	水口　司 （大中山中）	人見　陽子 （赤川小）	東堂　亮之 （中島小）	米田　康子 （赤川中）	南部谷京子 （福島中） 舩田　尚美 （七飯高）
助　言	岩井　悦子 （函館幼稚園） 橋本　紀勝 （湯ノ里小）	山崎　亮 （高等聾） 長政　裕 （大野小）	近藤　貢 （長万部中） 江川　佳徳 （札幌中）	大島　道夫 （原口小） 佐藤　昌彦 （教育大函館）	藤沢　建二 （春日小） 若竹　隆邦 （雲石小）	野呂　憲一 （今金中） 三輪　望 （札幌新陵中）	石原　佑一 （八雲中） 中尾孝典 （札幌東月寒中）
記録運営	水島　賢久 （駒場小）	守田　暢子 （万年橋小）	越田　喜忠 （五稜中）	野村　光 （青柳小）	武田　文彦 （銭亀沢中）	木村　伸二 （旭岡中）	長峰　詠子 （本通中） 早坂　範吉 （上磯高）

記念講演

講師　北海道立函館美術館長　**青　野　昌　勝　氏**

演題　これからの美術教育を創るために
－「美術」と「教育」の間にあって感じること－

4　研究会から

今回の大会は、二十一世紀の新しい造形教育を目前にして様々な提言を試みました。多様な視点からこの大会を観ていただき、これからの造形教育を照射したいものだと考えました。自分が住んでいる地域を基盤とした先見性や夢、潤い、喜びに満ちた懐かしい想い出が反映した授業となりました。

分科会から分かるとおり、学年や領域の枠を取り外し、総合的なイメージでまとめ、さらに地域に視点をおき、授業の内容・題材などかかわりをもつものを多く設定しました。

◆大地からの発信

五感を通して、豊かな表現をする想創活動

『ねんどあそびっておもしろいね』【幼年少】

トンネルをくぐって体育館へ。「あれ？へんだぞ、いつもとちがう」トンネルからなかなかでられない。ねんどの山でペタペタあそぶ。

『ふれてあそんでつくってみよう』【小二年】

「ワァーッ」という歓声。子どもたちの目前に大量のねんどの山が現れた。指導者の、「さぁ、さわってみよう」の一言で、一気に子どもたちの表情が輝きだした。手で触れ、足でふみしめ、体中でねんどの感触を楽しんでいる。次々に繰り広げられる新しい遊び。子どもたちのしなやかな感性が、豊かな想像力を育てていく。「先生、こんどは何かつくりたいよ」

▼子ども一人一人が感性をはたらかせて、感じ取ったことや想像力を発揮させ、創り出したイメージを表現するためには、幼児期からの豊かな生活体験が基盤となってきます。そして、子どもにとって、造形活動そのものが心身の健やかな成長の糧になると考えます。

「ねんど」という素材に出会い、においや手触りなどを楽しむ。五感を通して素材にかかわり、楽しみながら全身で造形活動することで想創活動のきばんを育むことができると考えています。

◆空間からの発信

身近な環境とすすんでかかわりそのよさに気づきイメージをひろげる想創活動

『もこもこをつくろう』【小学部二・三年】

聾学校に赴任して三年。図工・美術は好きな子どもたちが多く、みんな意欲的に学習に取り組んでいます。発想や表現力の未知数に毎回感動しては、美術教師としての喜びを実感しています。

はじめての学校、広い教室、大勢の人たち、こどもたちに緊張や戸惑いがあるかもしれませんが普段のそのままの表情がでてくれればと思います。

『あったらいいな函館の街に』【小五年】

「早く作りたいな」授業前の子どものつぶやき。発泡スチール、カラーボール、針金、ペットボトル、ストロー、竹ひご、わりばし、角材、綿、ビー玉、おはじき、段ボールから材料があふれている。単独で作る子、グループで作る子。電気カッター手ぶくろはめて使っているね。カッターナイフの使い方うまいね。ガムテープでどんどんつなげるのも大変だね。

▼豊かな体験とは、子どもたちの造形感覚（五感）が十分に発揮され高められることだと考えています。そして、ここでの"気づき"は五感が発揮される瞬間であり、イメージの深化が図られるときでもあります。

◆地域（社会）からの発信

自分のまわりや生活環境から広がるイメージを工夫して表す想創活動

『すてきな未来のまち函館』【小三年】

僕たちのグループは未来の高速道路だよ。この段ボールの赤、青、黄、オレンジ、きれいでしょう。おおきなはけで塗ったんだよ。

絵の具がボタボタ落ちて大変だったよ。ほらこれ見て。レストランとホテルだよ。パーキングエリアもつくったんだよ。

『まとめる・入れる・つつむ』【中二年】

包むという課題にせまるため各素材を使って工夫する。円筒の間を二つ包むパッケージング。目的の段階での工夫があるとおもしろい。手で運ぶのか積むのか飾るのかで材料の選択も変わってくる。

▼積極的に地域に出かけることによって気づくことは多々あるように思います。その中で面白いことや興味引かれることとをもとに、表現することは題材のテーマをより深め追求することになると考えます。

◆大地からの発信

地域の特色、学校のよさを生かした想創活動

『西大沼春夏秋冬ランド』【複式校全学年】

どんな『夏ランド』にしようかな。大沼ならではの素材を手につるしたり、くっつけたりもう夢中です。実に楽しそうに、それでいて真剣につくっています。かたつむりや鳥のいる森の木々。沼に水を入れると「うわー」「成功！成功！」と参観の先生方から思わず声が。自分のお気に入りのキラリシールを貼った子どもたちは輝いていた。

▼太古のころより大地は様々な命を育んできました。私たちは大地からの恩恵を受けるとともに、私たちの心（感性）に訴え揺さぶっています。今、二十一世紀にたくましく生きる子どもたちに豊かな地域の自然を生かす学習活動が強く望まれています。

◆光（地域）からの発信

光、空間を意識した構想・制作を通して驚き感動する自分を発見する想創活動

『未来の函館風景』【中二年】

授業の始まりとともに「未来の函館風景が」もうすでに生徒の中に想像されている。一人一人の目が、住んでいる町の良さを発見しようという意欲に輝いている。授業の進展とともに、個人の発見した感動がグループの中で構成され形になっていく。そんな新鮮な授業の展開がみられた。

▼光のもつ不思議な魅力を一人一人に発見させ、造形することは大きな意味をもつものと考えられます。特に函館をアピールするこれらの実践は、子どもたちの夢を広げ居心地の良い空間をつくりあげる表現活動となります。この体験によって地域を誇りに思い意欲を高めると思います。

◆生き物からの発信

自由な風景（ビジョン）の中で自分像の表現を楽しみ、地域をベースとした創る想いを求める想創活動

『今を生きる私』【中一年】

とても元気のいいあいさつから授業は始まった。自分自身を表現するということだけあって、先生の説明にもみんな真剣。「じゃあ作業に入りましょう」という先生の言葉に、待ってましたと作品に取り組みはじめる。粘土をこねたり、紙をちぎったり「これからどうなるの？」という質問に「自分でもわからないや。作っているうちに変わってきたから」と笑う子、最後はどんな「自分」がいるのか。みんな集中して授業の合図も気づかないほどでした。

▼私たちが自由に懐かしい風景を心に思い浮かべるとき、なんともいえぬ優しい気持ちになり表現する意欲が沸々とわき出るものです。そこで地域をベースに自分を大切にし自分を基本に据えて発信する活動を試みました。

5　大会を終えて

事務局長　鈴木秀明

第50回全道造形教育研究大会（函館大会）が昨日までの雨が上がり、夏の爽やかな青空に恵まれたロマンあふれる歴史の街、函館市において全道各地から多くの会員が集まり盛況のうちに終了できました。

今大会は、二十一世紀を目前にして、国際化、情報化、環境問題、科学技術の発展、価値観の多様化など社会が急速に変化している今日、「豊かな自分づくりをかす想創活動」を研究主題として開催されました。個性の伸長を図り、自ら考え、主体的に判断し対応して行動できる資質や能力を身につけた子どもを育む必要があると思ったからです。

さて、よい授業を観ているとそこには、人と共に協調し思いやれる心、つまり相手の立場になって共感できるあたたかい心をみることができます。自分を理解するのには、他の考え方の比較の中で深まっていきます。五感をはたらかせ、試行錯誤を繰り返しながら心を動かし、考え、手足や体でつくりだす喜びがありました。

自分を取り巻く世界を発見し、知性や感性を深めていくことができたと思います。内面にもっているものを表出・表現、高めていく中で、内にある自らの情緒を自覚していくという喜びを味わわせることができたと思うのです。これは、一人一人を価値ある存在として大切にしていくという教育の展開を目指して、研究を進めた証だと思っています。

各分科会では、有意義な話し合いがなされ課題の輪郭も明らかになってきました。来年の札幌での全国大会に引き継がれることになります。皆様からの優れたご意見をいただいたことにより、新たな展望を見いだすことができました。

最後に大会開催にあたって、北海道教育委員会、函館市教育委員会、渡島美術教育研究会、檜山造形教育連盟、渡島複式教育研究連盟、北海道特殊学校長会道南支部、函館市幼稚園協会、北海道高等学校文化連盟、関係機関等には絶大なるご支援ご協力を賜りましたことに対し心よりお礼申し上げます。

50年の時を越えて、〈いま〉に生きる
―21世紀を前にして

前北海道造形教育連盟研究部長
阿部宏行

1、「時間の庭」に遊ぶ

「時間の庭」とは、現象学の人が使う言葉で、「間」や「遊び心」に相当する言葉といわれています。「時間の庭」なんとすてきな言葉の響きでしょう。あなたはどんな「時間の庭」を持っているでしょうか。あなたの庭の大きさはどのくらいでしょう?どんな草木で覆われているのでしょうか。反対に「時間の庭」を持ち合わせない人とは、どんな人でしょう。

テレビやコンピュータなど多くの情報を瞬時に集める機会は広がりました。しかし、心豊かに生きるのに必要な情報はどれだけあるでしょうか。情報が満ち溢れることだけに満足しているとしたら、何か大切なものを失っているのではないでしょうか。

心の豊かさは心ある人と交わることでしか育たないといいます。百万本の道徳的なテレビ放送を見ても、人間的な交わりない子どもが心豊かになることはありません。ひとつの情報から受けた感情（感動）を受けとめ、返してくれる周りの人がいて始めて心が通い合うのです。情報を受けとめるとともに、受けとめたことに対して、温かい心で返すという、この繰り返しによって、心の育つ土壌ができるのです。

つまり、子どもの考えや表現を「見守る」「聴く」「受け入れる」「認める」ことで心が育つのです。

大気汚染や薬害などの環境問題を提起したアメリカの科学者レチェル・カーソンは「センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性」を大切にすることを訴えています。そこで彼女は子どもと一緒に自然の中を歩くことの大切さを説いています。

そして「『知る』ことは『感じる』ことの半分も重要ではないと固く信じています。子どもたちがであう事実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生みだす種子だとしたら、さまざまな情緒やゆたかな感受性は、この種子をはぐくむ肥沃な土壌です。幼い子ども時代は、この土壌を耕すときです。」（引用P23レイチェル・カーソン「センス・オブ・ワンダー」上遠　恵子訳　新潮社　1996年）と述べています。

ここに美術教育という狭い範疇で感性をとらえるのでなく、文化や芸術さらに人間形成の大きな枠の中で子どもをとらえ、それぞれの教育の役割を問い直しているともいえます。

「考える」ことを強いられ「感じる」ことを忘れた子どもが増え続けるとしたら、人間の尊厳や豊かさなどは意味のなさないものになってしまいます。

2、本道美術教育と全国大会

2001年に全国大会を北海道大会として札幌で開催することになりました。

北海道における全国大会を紐解くと、第9回「造形教育において、つくりだす力を養うにはどうすればよいか」（昭和31年札幌市）、第30回「みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践」（昭和52年札幌市）、第39回「子どもの心をゆり動かす造形教育」（昭和61年旭川市）が、この北海道の地で開催されています。全国大会開催の思いは連盟の前身の「札幌美育連盟」（昭和24年発足）に端を発しています。この「札幌美育連盟」は終戦後の子どもたちに"生命創造の表現活動を与えたい"という思いから、小中高大学の先生たち35名からなる先達から始まったのです。そのメンバーの中の伊藤恵氏、和田芳郎氏は第2回全国大会（昭和24年京都市）で研究発表をし、帰道後、北海道での全国大会開催の夢を語ったといいます。（連盟十年誌「造形教育の十年」―連盟の十年―より　P10 新妻清　記）

このことは全国からの風を受けようとするだけではなく、北海道から風を全国に送ろうとする自信の表れと感じることができます。その自信の表れは、どこからくるのでしょうか。

それは戦後の美術教育だけで生まれた自信ではありません。戦争という時代を抱えながらもその情熱を失うことなく続いてきた本道の美術教育の歴史が息づいていたからに他なりません。

3、本道の美術教育と〈いま〉

子どもへの温かなまなざし、美術への熱き思いは、明治、大正、昭和と、さらに大きく発展させながら、「連盟」誕生の日を迎えたのです。札幌美育連盟の初代会長藤野高常氏らが編集にあたった「北海道教育史」（道立教育研究所　昭和35年発行）の中には、明治時代から全道各地で進められた美術教育について語られています。

大正8年頃には画家山本鼎の提唱による自由画教育の運動に賛同し、写生画などを取り入れた研究授業も行われたという記述があります。

「函館では幸小学校の田辺三重松が、函館師範学校卒業の三方正之助の着任とともに、それぞれ図画科を担当し、最初の写生指導の研究授業を行い、校内二人展を開いておおいに活躍したが、時の校長はあまりに進歩的過ぎると見たのかその受け方は芳しくなかった。（中略）その頃松風小学校長佐々木完太郎はダルトンプランを提唱し、きわめて進歩的であったため図画科指導の任にある浦尾華児は幸校を参観して得た資料を活かして写生を奨励し、色鉛筆に代ってようやく使われはじめたクレオンを用いて自由画を盛んにし、画用紙に空白を残さぬようぬり込む描法をとり、むしろ稚拙を喜んだ。これが松風の特色となった。しばしば校内展を催して人気を集め、その風が次第に他校にまで及んだ。」

さらに、昭和初期においては、「札幌市の小学校方面においては、市内の図画教育の気勢を挙げるために、小学校教育研究会図画科研究部が主催して、研究大会を北九条小学校に催し、中心メンバーの繁野三郎が尋四に『工作図の考え方』について興味ある工作図の発生的取扱いの研究授業をしたりした。ついで同研究部は、札幌市の小学校のための研究をまとめて、昭和二年五月『図画教育の理論と実際』を札幌市の名によって刊行し、市内の図画教育の指針とした。その年から、繁野三郎、藤野高常は札幌市図画指導員を委嘱され、市内はもちろん、道内の指導に応じた。昭和五年繁野は石田磊三の北海出版社に迎えられ、同社に図画研究部を創設し、主として道内の図画指導に当り、図画教室の設備や、道内各校の図画備品の購入にも手を延べ、始めて図画写生用具を備えて図画教育の動きが眼に見えて活発になった学校も少なくなかった。」と、本格的な図画工作の研究体制が確立していった過程をみることができます。

戦争の足音が近づきつつあったころにも、美術を志すものとしての心のメッセージを世に問う先達もいました。

「昭和十三年の頃から、旭川師範学校や、旭川中学校などの美術部員による展覧会に、単なる写生画でなく、多分に思想的方面を強調したものが見られるようになった。またその頃から同師範の美術部員であった者の授業や、研究発表の中には、特異な思想を強調したものがあった。当時の研究授業の思想画に『捨靴を縫ってない人へ』というのがあった。『縫えばまだまだはける靴を捨てている人がいますが、この寒い冬に上靴がなくてはだしの気毒な人がいます。そんな人に、捨靴を縫って上げましょう。今日はそのことを画いて下さい。』というのであった。」

先達の熱意が〈いま〉に生き、〈ここ〉に通じているのです。

4、連盟の礎と準教科書の編成

この他に全国的に北海道の美術教育がアピールされた出来事に「北海道図工の学習」（準教科書の編成）の編纂があります。これは本道の図工教育において極めて意味あるものでした。昭和26年に結成された北海道図画工作連盟によってつくられたもので、この教科書によって本道の図画工作に多大な影響を与えました。文部省の教科書検定制度が確立する昭和30年まで全国でも類を見ない偉業となりました。この編成を通して本道各地の研究サ

ークルとの連携が堅固になったのはいうまでもありません。（連盟十年誌「造形教育の十年」P7 桜井忠 記）

5、連盟の理念と創造美術主義との関係

連盟が結成されて以来、全道大会の講師を見ると、第2回の全道大会（札幌・曙小）には「室 靖・湯川尚文」、第4回（函館・大森小）の「北川民次」など創造美術教育運動の中心にいた人たちが直接運動の意義を説いていたのです。この運動は子どもの心の開放と共に、創造性の育成をねらいとしたものでした。この子ども中心の美術教育は〈いま〉に通じています。平成6年に誕生した「札幌市造形教育連盟」も授業研究を中心として、教室レベルでの美術教育向上をめざしたものです。

6、連盟の理念と藤野高常

さらに藤野高常氏は図画工作科の役割の重要性とその理念について次のように述べています。「この自律性、創造性こそは、図工教育の極めて重要な部面であり、その本然の姿でもあります。学校教育での図工教科取扱は、低学年、高学年を問わず、教材の如何に係わらず、皆自律的な自己表現、個性、創造性の伸展という精神で行われています。即ち図工教育の指導精神は直ちに、人生の生活意義を省察し個々の人々が夫々自律的に幸福感を把握しようとする新教育理念に通ずるものがあります。」としながら、最後に「太古人の生活は一元的であったといわれる。禁断のリンゴを喰べてから古代中世人は二元の生活に苦しんできました。自然と精神、自由と必然、理性と感情、本能と道徳これらの二元生活に苦しみ通してきました。近代人は再び一元の世界観を何とか工夫しなければなりますまい。青い鳥は一元の世界に棲むといいます。」と結び、人間にとって心豊かに生きることの指針を私たちに投げかけています。（連盟十年誌「造形教育十年」—自分をみつける教育—より P14）

「文明は力であり、文化は豊かさである。」といいます。それは、人々が集い村を形成し、食物を生産し安定した生活を始めようとする力が文明であり、その生産を神事として祈祷し、豊穣を感謝する舞踏や音楽が文化です。文化は精神性を向上させ心の豊かさをもたらすのです。

さらに、芸術は表現欲求など人間本来が内在している「欲求」の世界に属します。「欲望」は文化が人々に行き渡った後に人間の手でつくりだした世界です。より便利に、より効率的にといった経済、市場原理優先の社会はさらに「欲望」を増大させました。この「欲望」の上に成立した美術もあります。しかし、我々が目指す「美術」教育は、あくまで個に存在しうる表現（「欲求」）に基本を置くべきです。藤野氏が語る太古人の一元的な精神生活から学ぶべき、文化や芸術との調和のとれた現代人としての生活をめざさなければならないのです。なぜなら、表現欲求は人間に与えられた本性なのであり、多くの言葉を記号として持ち合わせない子どもの場合はより自然な形で表れるからです。言葉を記号化し、鎧のように概念をまとった大人の論理で子どもの表現を見てはいけないのです。青い鳥は、子どもから見いだすことができるのです。

7、未来から〈いま〉を考える

この50年の時を越えて、息づいている先達の思いを私たちは体で受けとめながら、次の時代を担う子どもたちと共に、この国の文化や芸術を築いていきたいと思います。

佐々木理温氏は「創造の大地（連盟40年誌）」の巻頭言に委員長として、連盟創設40年代を「課題模索期・変革志向時代の到来」として、さらなる飛躍を望んでいます。

今まさに時代は21世紀に変わろうとしています。時代の波は、変革を求めています。コンピュータによるインターネットなどの情報化時代、高度な技術革新、経済偏重などは、人間性を無視したまま走り続ける危険性を孕んでいます。これらは「感じる」ことが日常的で、満ちあふれていた時代から、「感じる」ことさえ意識しなければならなくなった時代に入ったともいえるでしょう。これは、先のレイチェル・カーソンが訴えるような学校教

育を越えた様々な教育の役割が必要であり、私たち大人の責任が問われているのです。

今こそ、未来から〈いま〉を考え、何をどのように私たちが考え、行動を起こすべきなのかを北の地から発信していきたいと思うのです。それが、２００１年の全国大会（北海道大会）の意義です。

８、〈いま〉〈ここ〉〈わたし〉を基軸にして造形教育を構築する

２００１年の９月６、７、８日に予定している「第54回全国造形教育研究大会」（北海道大会）では、18支部の特色ある造形教育を結集して「北色に輝く北海道」を発信したいと思います。つまり「北海道大会」ということに大きな意義があるのです。これは、第43回の全道大会（平成５年旭川市）のときに、菅原清貴氏の努力で誕生した「全道造形教育ネットワーク」の活動が、時を重ねるうちに実を結び、各支部が研究レベルで交流するようになったことで全国大会を共有する意識が高まったのです。

全国大会での公開授業は、第49回以来５年ぶりとなります。やはり、子どもの姿で全国の方々に見ていただこうという私たちの熱い思いからです。また、札幌の南に位置する「芸術の森」をもう一つの会場として、初秋の空のもと、造形教育について大いに語り合いたいと考えています。

「即今、只今、此処」。

これは唐の時代の詩の一節です。「明日になればなんとかなると、今を次へと次へとおくるのではなく、今をよりよく生きることで、未来がむこうからやってくる」というような東洋的な考えのもとにできた詩です。未来はむこうからやってくるのです。ですから子どもの〈いま〉を摘み取ることは、未来もいっしょに摘み取ってしまうことになります。「未来」は子どもといっしょに紡ぎ出せばよいのです。子どもと「未来」を紡ぎだすということは、子どもが対象にかかわり、ものと対話することを充分に保障することです。ものと対話し、友と語らい、そして、自分と対峙する活動に造形の多くの価値があります。人とものと自分とが対話する空間をつくりだすことです。〈ここ〉を起点として、人とものとが、人と人とが共有できる〈いま〉が大切なのです。

私たちは単に場所や時間を共有するのではなく、〈わたし〉と〈わたし〉の〈いま〉を共有し、〈ここ〉で新たな〈わたし〉を見つけだすことです。対話とは単におしゃべりすることを意味しているのではなく、五感を通して実感した実体を重ね合わせることです。

それは、見ることでもとらえられるし、聴く、味わう、歩くことでもとらえることができます。〈ここ〉で共有した〈いま〉は確かに残るのです。教育の営みも、子どもと〈ここ〉で実感を伴った実体のある〈いま〉を共有することなのです。

『風よ、夢よ、大地よ。北からはじまる造形の未来』を21世紀に伝えたい。

第54回　全造連全国大会シンボルマーク

造形ひろば

遊

トンボの羽

連盟顧問
伊藤善彬

私は三十七年間の教育ばたけを中、小、幼と上から降りてくるという形で子どもにかかわってきました。

この間、何時も感じていたことは、子どもって本当に凄いということです。

感性が豊かなのは勿論、表現の場を与えるとこちらが考える以上にすばらしい発表が見られます。

彼らに何時も新鮮な刺激を与えると同時に我々大人は子どもの自己表現に新鮮な気持で受けとめなければならないと思うのです。

幼稚園にいた時、そのことを強く感じました。

感性のかたまりのような園児に寄り添って散歩すると、驚く程鋭い観察力や感受性の豊かさを見たり聞いたりすることができるのです。それも傑作ばかりなのです。

クモの巣にトンボの羽がひっかかっているのを見て、

園児「トンボの羽っておいしくないんだよ。」

先生「えっ、トンボの羽食べたことあるの？」

園児「ううん　だってアリさんもクモさんもトンボの羽だけ食べ残しているでしょう。」

工場のシャッターが機械の振動で揺れているのを見て、

A子「みてみて、工場がいびきかいてる。」

B子「ひるだからいびきじゃなくて、つかれた、つかれたっていってるんじゃない。」

幼児教育は生きる力のすべてのベースになるこういう感受性こそ高めてやることだと思うのです。

美術教育の実践の中で学んだこと

連盟顧問
関　建治

子どもと教師の間にある、教えるものと教えられるものとの関係は、時には逆転することがある。私は、これまで出会ってきた多くの子どもたちから、どれほど大切なことを教えられてきたことだろう。

「先生、牛の目ってブルーなんだよ。」と教えてくれた酪農家の子、子どもには、まだ重なりが描けない発達段階があることを、レントゲン描法で教えてくれた子どもたち、「子どもってすごい。」と何度も驚嘆させられた。

その後、私にとって大きなカルチャーショックが訪れたのは、教職五年目の時で、やれ色がいい、形がいい、質感が出ているなどと大人の絵を見るような見方で、子どもの絵を見ていたことから、百八十度ちがった見方を教えられることになった。一度だけ、全道造形教育の大会が、北海道神宮泊り込みのゼミ形式で行われることがあった。その折り、青森から日下部道子先生や東一宏先生他美術教育の優れた実践家が来られた。私は、何もわからないまま、子どもの絵を見てもらったが先生方の指導作品を見せられた時、確かな技法に裏づけられ、子どもの声が聞こえるような作品から強い衝撃を受けた。この時経験した深い感動が、その後の私の実践の方向を決定づけたと思う。何とか表現された子どもの絵から、子どもの心を読み取ろう、子どもの声を聞こうと努力した。金井秀男先生からはたくさんのことを教えていただき、実践に生かさせていただいた。今、美術教育の実践をふりかえると、素晴らしい子どもたち、素晴

らしい先生方と出会えたことを大変幸せに思い、それは、私の貴重な財産となっている。

セピア色の写真から

札幌市立三角山小学校
窪田恵子

先日、記念誌編集のためにと金井秀男先生からお預りした写真を、こっそり拝見させてもらいました。

諸先生方の若い頃の実践が次から次へと写されていて、今でもたいへん新鮮に感じられ、改めて本連盟の歴史を思いました。

中でも、私がびっくりしたのは、かつて桑園小学校で担任だった荒木アイ先生の写真です。第十一回と第十二回全道造形教育研究大会の集合写真の中に、いつものやさしいお顔を拝見して、なつかしさでいっぱいになりました。

思えば、三年、四年、五年と担任だった荒木先生が、夏休みに絵の研修会に行ってきたとのこと、そして、「木は緑、土は茶色でなくていいんだよ。」と、絵の楽しさを話してくれたことがありました。私たち子供にとっては、それまでの既成概念をうち破る画期的なことでした。

その頃は、どこの主催だったのでしょうか、中島公園で「日曜写生会」が行われていて、何度か連れていってもらったものでした。今でも中島公園の池の中の島の柳の木を見ると、ふっと当時を思い出します。又、夏休みには、「夏の学園」というのがあって、円山公園の大きな樹々を描いた記憶があります。

さらに、学校では、「歳末大売り出し」と題して、昔のレンガ造りの五番館前で、豆しぼりのおじさんが多くの人々の行き交う中でお正月用品を売っている絵を描いたのが印象に残っています。「不思議の国のアリス」というお話の絵も、確か点描のように芝生を描きこみ、完成させた記憶があります。

セピア色の写真から、思わず私の小学校時代にタイムスリップし、なつかしいひとときをすごしてしまいました。

園児から学ぶ

連盟OB
小尾　喬

幼稚園の子供たちの遊びは実に楽しい。段ボールに穴を開け、体を通してロボットに変身し園長室に参上。回転ずしコーナーを作ってお寿し屋さんが開店し、柔らかい紙を丸めたにぎりの上に『いらっしゃい！』の掛け声と共に様々なネタが乗っかる…。砂で固めたお菓子の上は花びらや小石で覆われ、おいしいケーキの出来上がり…。豊かな感性が様々な作品を作り出していく。そこには教師の指導はなく、適当な環境を準備するだけである。

教職最後の四年間を市立幼稚園に勤務し、理想的な造形活動を目の当たりにした。よさや美しさを子供たちが自ら関心や意欲を持って取り組む姿がそこにはあったからだ。

今、長い教員生活に終止符が打たれようとしている。思い返せば、札教研図工部に入り教科研究や実技研・実践事例集の編集発行などを通し、子供たちが主体的に取り組む授業づくりを追求したものである。しかし、その

方法が適切であったかどうかが、ある意味で考えさせられるのである。

造形教育連盟に籍を置き、悩みを打ち明け論議を交わした時代もあった。多くの先輩が支えであった。授業に於ける教師の遊び心の大切さも理解できた。第四十一回・第四十六回の全道大会では、玄関先に大看板・大立体看板などを手掛けさせて頂いたが、遊び心の絶頂であったように記憶する。

今の私にとって、幼児に教えられながら、幼児と遊び、幼児の心に寄り添って行くことが残された仕事。そして、この子たちが豊かな心をしっかりと身につけ、次の小学校へと向かうことができれば……と思っている。

教師の意識改革とひとみを輝かせて取り組む造形学習

釧路市立愛国小学校長
中村紀雄

「生きる力」の育成を掲げた学習指導要領が改定され、平成12年度より図画工作科は、全部又は一部を新指導要領に実施が可能となった。図画工作科の年間標準授業時数は学年により違いはあるが大幅に削減された。

限られた授業時数の中で一人一人の想いを生かし目標を達成するには、題材の精選が重要となる。造形活動では、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え主体的に判断し活動できる子供たちを育成することが求められているが、まず新鮮で知的好奇心を喚起し子供たちがひとみを輝かせ取り組む題材の選定である。そのために、一人一人の学び方を育成すると共に興味・関心・追求の仕方などを把握することが前提条件となる。教師中心の授業展開でなく今までの独りよがりの授業を脱却し、子供たちがさまざまなよさや可能性を内に秘めた存在であるという子供観に立脚した授業展開が要求される。

教師が変わらなければ、創意ある特色ある教育活動や望ましい総合的学習の展開も望まれない。教師は、教育者としてのプロ意識に徹して欲しいと願わずにいられない。未来の世を創り出すのは、教師一人一人の肩にかかっているのである。

私と造形連盟

札幌市立清田南小学校
藤井正治

昭和四十一年に稚内中学校の教師としてスタートした私は、現顧問の伊藤善彬先生と同じ学校で勤務することとなり、多くのことを学ばせていただきました。この前の年に稚内で全道大会があり、そのご苦労も聞くことができましたが、私にとって造形連盟の存在は、まだ実感を伴ったものではありませんでした。

昭和四十五年の旭川大会の折に、稚内の仲間と初めて大会に参加し、連盟の役員のお顔の一人二人が記憶に残る程度となります。

昭和五十年に江別に転勤になりますが、この年、江別で大会があり、私も授業者として参加することとなりました。

この時の実行委員長が、稚内中学校でご一緒した伊藤先生でした。現副委員長の関建治先生、教育大学教授で顧問の村瀬千樫先生、そして現顧問の宮川誠一先生などに指導していただきながらの無我夢中の大会であったことを思い出します。

私が札幌に転入して三年目に開催された札幌大会は、白楊小学校を主会場として行なわれましたが、この時は、札教研会員としての参加でした。会場係として仕事をしたことが懐かしく思い出されます。

連盟の一員となったのは、創成小学校に転勤になり、森川校長先生の元で勤務することとなる昭和六十年からのことです。

事業部の一員として「教育美術展」と「立体造形展」に関わり、多くの常任委員の方々との交流の中で、図工・美術教育の研究に取り組む機会が持てたことは、今の自分にとってこの上ない環境であったと感謝しています。

連盟の運営に携わる今、ご指導いただいた諸先輩のご苦労に報いるためにも、また、会の発展のためにも、全力で取り組まなければと意を新たにしています。

立体造形展審査風景

新教育課程とこれからの美術教育

連盟OB
村谷利一

新教育課程が告示され、二〇〇一年から学校週五日制とともに完全実施されます。二十一世紀を展望した教育の在り方について中央教育審議会は『子供に「生きる力」と「ゆとり」を』の中で、これまで知識を一方的に教え込むことになりがちであった教育から、子供たちが自ら学び自ら考える教育への転換を目指すことが必要であると答申しました。

各学校では今、自校の教育課程編成をどのようにし、教育改革を行うべきかの検討と研修を進めていることと思います。これまでの教育の在り方から大幅な学びの転換が期待されておりますが、この教育改革が成功するかどうかは何と言っても教職員の意識改革がどの程度まで高められるかがポイントになるだろうといわれております。特に学校は閉鎖性が強く保守的な面を根強く持っているために新しい教育の理念が根づき改革の効果がどの程度まで期待できるのか疑問の声も聞かれます。これからの美術教育についても授業時数削減を始め心配な面もあり、厳しい状況におかれていますが、特に重要な指導のポイントとしてスケッチの重視と鑑賞教育の重視を挙げたいと思います。紙面の都合で詳しくは述べられませんが、一般的には絵を鑑賞するのは好きであるが、描くことは苦手であるとする人が多いのが実状です。もしできれば基礎を勉強し、自分の思うような形を描きたいという人がたくさんおります。生涯にわたり美術を愛好するための基礎として簡単なスケッチに親しむこと、また美術館で鑑賞する人は現在国民の半数以上いると言われておりますが、学校では表現の指導に重点がおかれ、鑑賞（見る）の教育があまりされていなかった実状を改めることが今求められております。

回想

小平町立鬼鹿小学校
竹内堅治

昭和四十三年新卒で留萌小へ赴任。翌年に「全留萌子どもの作品を語る会」（昭和五十一年、「留萌地方美術教育研究会」に改称）が発会。同校におられ初代会長をされた橋場先生の影響で入会。毎年開催される「子どもの作品を語る会」は、子どもとは何か、図工美術教育とは何かを本音で徹底的に語り合う会員の熱気でいつも満ち溢れていました。大会前夜有志が集まり宿屋の一室で酒を酌み交わしながら図工美術を大いに語り合いました。そんな中で、図工には素人の私も先輩や仲間に育てられていったのです。想画指導に熱中し「くじらに乗って空の旅」等自作教材で実践を試みた時代もありました。時々退職した先輩達と旧交を温めるのも貴重なひとときです。

全道造形研が昭和五十八年、平成十年と二度留萌市で開催され、最初は提言者、次は大会運営で協力できたことを嬉しく思います。

金井秀男先生の「不思議なつぼ」の実践発表をし、部会で直接助言をいただいたことを覚えています。全道大会は第三十二回室蘭大会から毎年参加しています。

さて、最近本音で徹底的に語り合う研究会が少なくなってきているように思えます。新学習指導要領に基づき二十一世紀の教育へ向かう今こそ、子どもとは何か、図工美術の指導とは何か、図工美術教育とは何か……を、本音で、熱く語り合うことが必要なのではないかと思います。これからも、留美研の仲間として、全道の図工美術の仲間として、子どもの心を拓く造形教育のあり方を、さらに求め続けていきたいと思います。

ある授業研究から

南富良野町立落合小中学校
川合　薫

今から二十数年前、上川の研究会に参加したときのことである。私よりも一回りくらい若い先生が汗だくで版画の研究授業をしていた。版の種類を生徒が選び、いろいろな版画をしている。あちこちから質問の声が上がり一人でてんてこ舞い、色々な版画ができ、友だちのを見て、「私もその版画にすれば良かった。」「簡単にきれいに出来たぞ。」と生き生きとした子どもの声、しかし、なかなか指導案の通りには進まず混乱の中でチャイムが鳴った。授業後の研究会では、やれ、「指導案の作り方が甘い。」「生徒に選択の幅を与え過ぎだ。」「こんなに沢山の種類の版画では評価はどうするのか。」と、授業中以上の汗を流していたのが脳裏に焼き付いている。

その時は本当にひどい授業だと思っていたが、今考えると大変な先進的授業だったと驚いている。

美術科では創造性を育成する為に適切な題材を用意し、生徒が自分の課題を持ち、必要なことを学び取りながら創意工夫して解決していくことが大切であると考えられている。今回の改訂で「必修教科」として辛うじて生き残ったことの重大さを認識し、「学校教育としてすべての子どもに学ばせなければならない教科ではないのではないか。」と言う人々に、どのような解釈で臨んだらよいか真剣に考えていかなければならない時期である。

「第30回全国大会、札幌大会」の思い出

札幌市立もみじ台南中学校
多田紘一

夜の十時を廻っていた。

もう、何日目の集まりになっていたか。

我々の担当する研究発表の代表をしていただいた更級　秀先生のおられる八軒中学校の美術室で、今夜も粘土と格闘している。

焼物のプロ土居洋公先生（現、簾舞中）と素晴らしい発想をされる川畑盛邦先生（現、大谷短大）方と公開授業のための教材づくりを行っている。題材は、使用のデザインで、「土笛」とした。粘土を使ったものを考えてみようということで、「土鈴」では物足りない。笛はどうだ！ということになった。

簡単だと思った。鳩笛だってある。オカリナだってある。ホイッスルだって。

それらしい形を造り、吹いてみるがことごとく鳴らない。みんなの唇は粘土が付き、乾いて白くなっている。

もったいないがリコーダーを切って構造を調べた。音楽の先生に聞いた。理科の先生にも聞いた。が、どうすれば鳴るのか、分からない。悪戦苦闘して挫折寸前。気持ちが沈んで行くのを更級先生が明るく励ましてくださり、頑張ることができた。

「ポー」と誰かの笛が鳴った。一瞬、皆、ポカンとして、「あっ！」「やったー！」そっーと手に取って、拝むように眺め透かしどうして鳴ったのか、全神経で読み取ろうとした。

後は、勇気百倍。どんどん笛の仕組みが明らかになってきた。「どんな形のものでも鳴らせる」「全生徒の笛を鳴らす」ことを目指して、次々いろいろな形に挑戦した。

もう大丈夫。

大会当日、私は土笛制作の計画の部分の授業。土居先生が形になった粘土をくり抜き、吹き口をつくり音を鳴らす場面で、この授業のハイライト、感動の場面を公開。

最初の生徒の音が出て、生徒も参観の先生方も驚きの声を発した。これに触発されて次つぎに音が出る。そして、全員の音が出て授業が終わる。その場にいた全員が満足感に満たされた。と、授業の後の報告であった。

この授業案と作品例は、以後、多くの方々から求められ、大いに喜ばれた。

「工芸分野だろう、これは」との批判が事前の検討の段階で出たが、当時の美術科の分野が必要以上に細分化され過ぎ、不合理な面があった。それらを指摘する取り組みでもあったことを思うと、素晴らしい実践に参加させて頂いたことに、今でも感謝している。

「何を創っていますか？」

札幌月寒高等学校
松井茂樹

小学校の日曜には、担任の先生につれられてあちこちに写生に行った。支笏湖で「よーくみて」という言葉が今だに生きている。絵が黒板の横に貼られると、授業中も自分の絵しか目に入らず、どきどきした。親から買ってもらった油絵の具に興奮した。兄弟に見つからないようにこっそりと楽しみながら色や形、素材の体験を深めた。

中学校には専門の美術の先生がいて、クラスの担任だった。家庭訪問のときに描いた油絵をみていただいた。予期せぬ場所を褒められたので、いたく驚いた。色の使い方や平面、立体の授業が何もかも新鮮だった。形の不思議さ、形の面白さに夢中になった。恩師にあらためて感謝したい。

高校の芸術は生涯学習の入り口と位置付けられたが、はたして何人が美術に関わりを持ちながら豊かな生活を送っているのだろうか。投げかけた言葉で「金輪際、美術なんかやるもんか」と嫌いになった卒業生がいるに違いない。敏感な時機である。大人だって褒められると木に登る。けなされるとやる気が失せる。

先日、卒業生から個展の案内が届いた。専門の道に進まなかったが、働きながら、時間をやり繰りし制作しているようだ。授業中、何か大切なことを言い忘れたような気がするし、間違ったことを言ったような気もする。言い訳ではないが、忙しく何度も行きそびれ失礼している。「学校祭のときすごく楽しかったから…」新たな自分探しが始まったのか。追伸に「先生は今、何を創っていますか？」その文字を繰り返し目で追い、深く息を吸い込んだ。

雑感

室蘭市立武揚小学校
北村哲朗

「図工や美術は文句なく大好き」という言葉が、子どもの口からあまり聞かれなくなったような気がする。「もの」の仕組みや構造を簡単に解き明かすことが難しくなった現代のまるで「繭」のようで閉塞的な状況が、子ども達の目を曇らせてはいないだろうか、手を引き込ませてはいないだろうか、何よりも感動の心を薄れさせてはいないだろうか。

絵を描かなくなった子、土をいじらなくなった子が増えているのは確かなことであるように思われる。学校での授業がほとんど初めての造形体験の場である子もいることであろう。

自らの心で感じ、思考し表現するという人間がより人間らしく生きていく根幹に関わる力が失われつつある今、図工・美術教育で大切にされるべきことは奇を衒うことではなく、創造にいたるプロセスの積み上げを地道に続けていくことであると思う。

時にはその指導のあり方が、技術主義、作品主義の誹りを受けることもあろうが、『美への感動』を前提としたものであれば問題ではないだろう。表現力の獲得は生きる力を増幅させるものであるからだ。

美術教育不用論をよく耳にするようになった。一つの物事を企画から制作の最終段階まで、一己の人間が責任をもってやりとげるという経験はそうできるものではない。美術教育はまずもってこのことを自明の理とすべきである。

そして、我々教師はよき「美の翻訳者」でもありたいと考える。

オホーツク造形教育連盟と私

連盟顧問
須貝　徹

研究会に参加したらいつの間にか会員になっており、真面目に参加していたら、いつの間にか役員のポストをあてがわれていた。そして教職の最終の年、少しは楽をさせてくれ

るかと思いきや全道大会。今はホッと一息。

昭和四十三年に大先輩がオホーツク造形教育連盟を結成して以来、全道大会を含め今年で二十六回目の研究会。先輩たちが続けてきた研究会を切っては申しわけない。ただそれだけの気持ちで私たち後輩は進めてきました。

研究大会といえば会場校をどこにしようかということで頭を悩ませることが多いのですが、わが連盟の会員は結構気軽に公開授業を引き受けてくれるのです。

私は平成二年、斜里町の宇登呂小中学校（併置校）に勤務していた時「ウイルタ紋様」と「ウトロの伝説」を題材に、今研究大会で授業をしてくれた里見先生と二人で公開授業をしましたが、知床半島の付け根まで沢山の先生方に参加してもらい、また実技研講師として、学生時代一緒に机を並べた伊藤善彬先生が来てくれ感激したのを覚えています。

翌平成三年は雄武町。ウトロからはおよそ二四〇キロ。とにかく網走管内は広いのです。

年一回の研究会と懇親会。オホーツクの連盟はOBとの絆が強く、研究会のときも参加され、私たちにカツを入れてくれています。

普段は一人で頑張っている仲間が久しぶりに顔を合わせる楽しい一時でもあります。

また、毎回道連盟から派遣していただく講師の先生からいろいろな作品作りを教えていただき沢山の財産ができています。

今回全道研で活躍した若い先生方がこれからのオホーツク造形教育連盟を担ってくれることを期待しています。

人との出会い

札幌市立創成小学校
稲　實　　順

連盟の仕事をしていて、たくさんの先生方との出会いがありました。この出会いの中から多くのことを学ばさせていただきました。私が図画工作科という教科で、自分を主張できるようになったのもたくさんの出会いがあったからだと思います。

新卒当時、「あんた、私のクラスに図工の授業を見においで…」そして「とにかく自分でつくりなさい。自分でつくったら、どこが難しいのか、その難しいところはどう指導したらよいのか、子どもはどれくらいの時間が必要なのかがわかるから…」などと授業をどう構築していったらよいのか、教材化をどうすればよいのか、授業後の話し合いで質問されたらどう受け答えをしたらよいのかなどを厳しくそして温かく教えてくださった先輩の先生がいました。

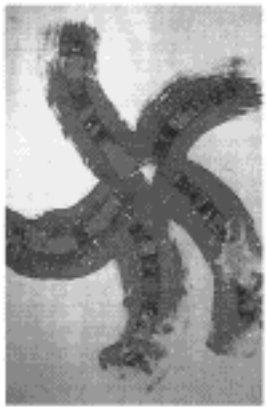
次の学校では、「いや～、新しく来た人が授業（札教研）やることになっているんだ。」「いや～先生しかいないんだわ。うんと言って…俺の夏にやった授業をリメイクして冬バージョンに…（二月会）。」などと、連盟のこれからを真剣に考えるカリスマ的先輩の先生がいました。（もちろん今もバリバリですが）

また、全道大会でのバス旅行では、大先輩の先生方に囲まれて、今までの連盟の歴史や授業感などを聞くチャンスに恵まれ、改めて身を引き締めたこともありました。

この紙面では、まだまだ書き尽くせないのですが、このように多くの先生方との出会いの中から、たくさんの知恵や心をいただき、今の自分があるのだと思います。

これからも、たくさんの出会いと新たな感動を吸収しながら連盟の仕事に携わっていきたいと思います。

全道研と教育界の激動の時を同じくして



旭川市立永山南小学校
玉手稔唯

私が最初参加した頃の全道研というと、"作品を語る会"が常設され、子供たちの力作を基に、先輩たちの鋭い絵作り談義が展開されていたことが思い出されます。

造形に対する見方考え方の甘かった自分にとっては、子供にイメージを喚起させたり構図や色などを効果的に表現させたりする方法を、名人芸のように指導されている先生方の様子を垣間見て、大きな驚きでしたし刺激ともなりました。

間もなくして"ゆとりの時間"の新設と同時に、"造形的な遊び"が登場しました。遊びが造形活動に値するか否か、諸先輩が手探りの中で白熱した論議を展開していたことも記憶に鮮明に残っています。それまでの絵や工作、つまり作品至上的なとらえを根底から揺るがす大きな問題をはらんでいたのです。「遊びだけに止まっていいものなのか?」と半信半疑で実践しながらも、子供は造形活動を行うことの楽しさを全身で味わっている姿が印象的でした。

しかし、生活科や総合的な学習の台頭は、それをさらに凌駕するものとなりました。一人一人の感性を育むことを願い、図工科という教科そのものの価値を問うものでした。

しかし、人は何かをつくり出さずにはいられない本能のようなものが備わっている以上、図工科の存在価値はいつの時代であろうと、普遍ではないかと信じています。

激動変革の時代であればこそ、造形連盟の果たす役割は大きいのではないでしょうか?

今、三年生は人生初めての岐路に立ち、夢と現実との間で大きく揺れ動いている。自分とは一体何なのか、これからどうなっていくのか、そんな不安ばかりが先行している彼らにとって、戦後の自由奔放とも思える美術作品の数々は一服の清涼剤となり、ある種憧れのようなものを抱かせたようだった。

何もないところから発想し、自分の手でつくる。そんな活動が自分自身を支えてきたのではないかとふと思う時がある。今と反対の立場であった頃の自分を振り返ると、うまい・へたなんて全然関係なく、ものをつくるという過程が自分を見つめ、心和ませることのできる時間であり、場所であったように思う。

〈芸術家〉というのは大げさすぎるかもしれないが、人間として考えたり、想像したりするのは当然のことである。その機会の一つである美術や音楽といった時間が少なくなることは子ども達から「自分を見つめ、考える」時間を奪うことになるのではなかろうか。言い過ぎかもしれないが、結局今以上に子ども達を苦しめることにはならないだろうか。

数年後に訪れる新教育課程を前にして、自分自身不安で一杯である。現実を受け止めなければならないとわかってはいるのだが、子ども達の気持ちが反映されたものとはどうも思えない。少なくとも本校の子ども達はヨーゼフ=ボイスの言葉に心打たれていた。

自分を見つめる機会を

網走市立第五中学校
久住呂志奈子

「『思想と想像力をもった人間はみな〈芸術家〉である』という言葉にとてもひかれた。」

これは先日行った現代美術の授業で紹介したヨーゼフ=ボイスの言葉に対する一生徒の感想である。

造形連盟での学び

岩内町立岩内第一中学校
佐藤聖子

仙台の中学校に新卒で入った年に造形連盟の東北大会があり、中学校の分科会で記録をやらせてもらいました。研究授業は、宮沢賢治の『なめとこ山の熊』の、物語の絵でした。分科会の討論は迫熱した議論が続きました。私には討論の内容は全く理解できず、飛びかう発言を速記するのがやっとでした。提言で福島の絵画と他県のデザインが出されていました。どちらも完成度の高い生徒作品でそれを見ていて指導の差に唖然としてしまいました。

北海道の採用試験に受かり岩内町に配属されました。造形連盟の札幌と函館大会に参加させてもらいました。研究授業はとても素晴らしく、感心してしまいました。函館の野呂先生にデザインの資料を頂きました。他の方からも色々と資料提供やアドバイスをしてもらいありがたく思いました。又、手稲中学校時代に感化を受けた恩師の多田先生にもお会いすることができました。

まだ校内暴力の時代の名残りがある時期で授業を成立させるのに苦労していました。生徒達が集中して取組める題材と指導法を模索していました。教育美術展に出品するようになってから数年して入選するようになりました。毎年教育美術展を時間をかけて観察していました。生徒の感性と技量の差異はどうなのか、指導はどこまでなされているのか、すごく参考になりました。美術の指導の形が少しわかってきたようで嬉しくなりました。

あれから病気を患いしばらく造形連盟の大会から足が遠のいてしまいましたが、又勉強させてもらおうと思っています。

"友達大好き、人間大好き"

札幌市立円山小学校
池田悦子

私が以前担任した五年生のA君。当時校内では言わずと知れた有名人でした。廊下は走るものと思い、自分の持ち物は好きな所に置き、何か騒ぎがあれば必ずそこにいて…。でも、私は彼のことが大好きでした。それは、A君が「友達大好き、人間大好き。」の子だからです。そのA君、図工の学習「夢の島」で友達とサッカーをしたり、遊んだりできる島をつくりました。左手四指欠損のハンディがあって作業が思いどおりにできないこともあり、図工は苦手としている彼が、どうしたことか家でその島に置く人を紙粘土でつくってきました。喜々として見せてくれた粘土の人。A君といつも一緒に遊んでいる友達四、五人です。「これはねえ、○○ちゃんで、これはサッカーしている△△ちゃんだよ。」「僕ね、父さんに友達の特徴話してさ、一緒につくったんだ。」と嬉しそうに話してくれました。二等身のその人はどれもニコニコ顔で、それでいて友達の特徴がとってもよく表現されていました。そこからは可愛くて温かくて、そして何よりも父と子のほほえましい姿を感じ取ることができました。そういえば、彼のお父さんから「いつも風呂で背中を流しながら、今日一日のことを話すんですよ。」と聞いていました。A君の「友達大好き、人間大好き。」はこんな温かい親子のかかわりから生まれたものかと感じさせられました。

完成した作品は、たとえ技術的に未熟なものであっても、子供同士の温かいつながりが感じられるものになったことは言うまでもありません。何よりもA君の顔が一段と輝いて見えたのがいつまでも心に残りました。

「感動と喜び」

岩見沢市立上幌向中学校
吉　水　由　華

二学期のある日、本校の中学二年生が国語の授業の中で作文を書いていた。テーマは「二十一世紀で私は」だ。書き終えて、国語の先生がニコニコしながら私に紹介してくれたのは、絵に関する作文だった。

美術の授業の中で静物画を描いたとき、思いがけないほど良くできて、とても嬉しかった。家でもスケッチブックいっぱいに絵を描いてみた。一番うまくいったのは「ひまわり」の絵で、仕上げるのに一番時間がかかった。ひまわりを描いた理由は、ちょうど家の前の花壇に、すごくきれいに咲いたひまわりがあったからだ。それを見た瞬間「描きたい！」という気持ちでいっぱいになった。

完成してまっさきに家族に見せると、「きれいだね～。」と誉めてくれて、とても嬉しかった。次の日は敬老の日だったので、その絵にリボンをつけて祖母の家に向かった。「はい、おばあちゃん。これ私が描いたんだよ。」

祖母は少し間を置いて「わー！これずっと飾っておくね。」と、とても嬉しそうに言ったそんなおばあちゃんを見て、プレゼントして本当に良かったと思った。

これからも人を感動させる絵、喜ばせる絵をたくさん描いていきたい。これが私の二十一世紀の夢です。

高校入試の内申点の九分の一を占める美術教科。焦る子供たちを目の前にして、評定の出やすい題材に流れそうになる毎日。そんな中で、「美術を通して何を伝えるのか。」を見つめ直すきっかけになる作文となった。

雑　感

函館市立旭岡小学校
瀧　本　伸　幸

平成四年、第四十二回函館大会にて「造形遊び」の授業を公開、当時は、「新しい学力観」なるものが少しずつ巷で囁かれ始め、教師主導型の授業から、児童の主体性を生かした授業への転換が図られようとしていた時期であった。「支援」という言葉にも異和感があり、基礎・基本の重視と教え込みは、切り離すことのできないものだ！などと真剣に考えたりもしていた。各種研究団体では「造形遊び」の指導法についても口角泡飛ばす議論がなされ、方向性もまだはっきり定まっていない時期でもあった。

暗中模索の中で授業当日を迎えたのだが、今、想い出してみると、「子供一人一人が…」と唱えながら、テーマ設定や展開に、教師の意図が強く反映され過ぎ、子供のニーズに応えた授業の提供ではなかったように思う。（当時は、最高!!と自画自賛していたことが恥かしい…）分科会でご助言頂いた「教師に意図的に遊ばされた造形遊び」の言葉を、今でも授業を構築する度に思い出し、苦笑するのだが……。

以後、毎年大会には参加し、各支部の実践と飲食文化に触れ、美術教師としての資質を高めている（？）のだが、あっという間に七年の歳月が流れ、再び函館大会が巡ってくる。今回は、今後の新しい美術教育の方向性について活発な論議が沸き上がるような実践提示をしたいと考えている。

観光とロマンの街、函館での大会。乞う、ご期待。

造形との係わりと思い

室蘭市立向陽中学校
矢元政行

自分と造形の係わりということで、今から35年前の小学校4年生の頃、担任の先生に連れられて全校写生会に行った記憶を思い起こしました。

当時、国道の舗装工事に活躍していたブルドーザーがめずらしくて興味を抱いて描いていました。その絵を担任の先生が大変ほめてくれて、教室の正面に額に入れて掛けてくれました。自分の作品を認めてくれたことが、大変うれしくて、それがきっかけだと思いますが、美術教師として造形と深く係わる事になりました。

上川管内風連町の中学校に赴任し、その後室蘭に転勤して、すぐに第32回全道造形大会が行なわれ、授業者として何もわからずに授業の内容検討や指導案に取り組んでいたことが思い出されます。小学校の図工の時間として「造形遊び」が取り入れられ始め、盛んにその研究が行なわれたことを思い出します。大会当日の授業では、体育館でいろいろな物を新聞紙や紙で包み込む活動を通して造形に対する意欲を高める授業を行ないました。普段使っている絵の具や筆、粘土などを使わないため図工の苦手な子供たちも生き生きと授業に参加していた姿を思い出します。

今は、授業との係わりもなく職員室で過ごすことが多くなり、少し物足りなさを感じていますが、絵を描く創作活動は一生続けて行こうと思ってます。何事も両立させることは、苦労も多く大変ですが造形との係わりがあることは、自分にとっても大変良かったと思います。

回想

函館市立中の沢小学校
柿崎雄二

秋も終わりだというのに、珍しく晴天が続いたある金曜日のことです。二年生の子どもたちと帰りの会をしていました。

「明日はお休みですね。天気が良かったら外で遊ぼうね。」というと、

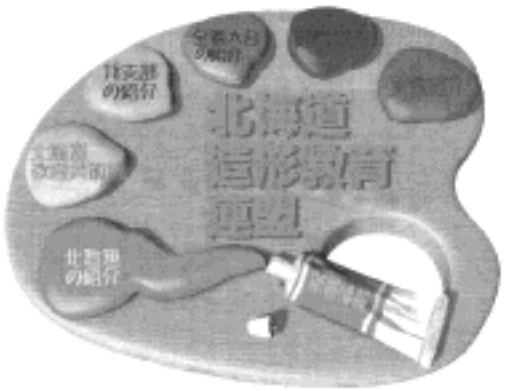
「先生、ぼく家の中でゲームするよ。」と言い、他の子も同じようなことを言うのです。

我が少年時代は田舎育ちで、川や山でいつまでも遊んでいたのを思い出します。家の中でも、おもちゃもほとんどなく、自分で紙の力士を作って、それを使って相撲をして遊んでいました。また、家の周囲は自然しかなく、自然という言葉すら知りませんでした。おまけに、いたずらもしほうだいで、土や水、草木、虫、土や石みんなおもちゃにして遊び、（それがいいのかは、別だが…）後始末という言葉すら知りませんでした。

現代っ子たちは、外でどんな遊びをしているのだろうか。自然の中で遊べる環境の少ない子どもたちは、どう遊ぶといいのでしょうか。唯一の遊び場である公園では、子どもたちは本当に自由に遊んでいるのでしょうか。（また、公園すら近くにない子もいるでしょう。）また、遊ぶ時間すらない子もいます。自動車と交通安全、酸性雨（雪）、崩壊した遊びのルール…どの問題をとっても、子どもたちが自分から外で遊ぶことが楽しいと思うはずがありません。

ここ数年、造形遊びが導入され実践されている。自然を取り戻すということを考えている。しかし、今を生きる子にとって、どう考えてあげるべきか、なかなか難しいものがあるのです。

ネットワーク奮戦記



教育大附属札幌小学校
野　切　　卓

「野切さん、ネットワークやってくれない。」

「はい！。（でもネットワークって何だろう？）」菅原先生にそう言われ、訳も分からず返事をしました。

「これからは、なんと言っても、ネットワークの時代だからね。」

「そうですね。」パソコンの「パ」の字もわからない私でしたが、菅原先生の迫力に思わずうなづいてしまいました。

その時の菅原先生のお話はこうでした。

今、インターネットが急速に普及し、Eメールなどでの情報のやりとりが活発になってきている。これは、全道にまたがる造形連盟の各支部を結びつける手段として適しているのではないか。

また、インターネットではホームページというもので自分たちの活動を全世界に宣伝できる。二〇〇二年の北海道大会に向けて情報を発信していきたい。

ゆえにネットワーク部というものを立ち上げて活動を開始したい。

以来、ネットワーク部は、全道一八支部の名簿を集めたり、ホームページをつくったりしてきました。

また、全道大会ごとにネットワーク分科会という集まりを持ち、全道各支部の先生たちと研究レベルの話し合いを行ってきました。

まだまだ十分とは言えない活動ですが、先輩たちの手で蒔かれた種がようやく芽を出したところです。大切な大切なこの苗を大きく育てていきたいと思うのです。

※造形連盟ホームページアドレス
http://ha5.seikyou.ne.jp/home/hokuzou/

生きかえる材料

役員・委員名簿
北海道造形連盟規約
編集を終えて

■ 平成12年度　北海道造形教育連盟名簿 ■

●役　員

2000.6.1（改定版）

役　名	氏　名	勤　務　校	所　在　地		電　話
委員長	芝木　秀昭	札幌市立幌南小長	〒064−0921	札幌市中央区南21条西5丁目	011-521-0214
副委員長	重山　恵	旭川市立神楽中長	〒070−8006	旭川市神楽6条12丁目	0166-61-7196
〃	繪面　和子	函館市立大森小長	〒040−0034	函館市大森町6-11	0138-22-2181
〃	古田　英夫	江別市立野幌中長	〒069−0832	江別市西野幌92-3	011-384-3339
〃	出村　英和	音更町立東士幌小長	〒080−0562	河東郡音更町東音更東4-15	0155-43-2311
〃	多田　紘一	札幌市立もみじ台南中長	〒004−0012	札幌市厚別区もみじ台南7丁目3	011-897-9331
監　査	阿部　賢一	網走市立南小長	〒099−3119	網走市鱒浦79	0152-43-3398
〃	内田　暢一	美唄市立中央小長	〒072−0033	美唄市西4条北1丁目3-2	01266-3-4215

●本部事務局（常任委員）　＊印＝ネットワーク

役　名	氏　名	勤　務　校	電　話
事務局長	藤井　正治	清田南小長	881-1975
次　長	伊藤　暢紀	開成小長	783-4492
〃	永井　恭子	みどり小長	812-8164
〃	江川　佳徳	札幌中長	781-2221
〃	角力山　旭	栄南中頭	781-1260
〃	石川　雅昭	東海第四高	571-5175
〃			
会計部長	冨田　泰	八軒小長	642-0155
副部長	篠原　寛	福井野小	664-5551
〃	元茂　章子	澄川南小	584-2115
庶務部長	池田　悦子	円山小	631-3437
副部長	益村　豊	真駒内緑小	582-2131
〃	古谷　壽朗	屯田西小	773-6105
次　長	今谷　孝	平和小	663-4384
〃	氏家　珠実	西　小	662-5227
〃	谷山　圭子	白楊小	726-4158
〃	高向　修子	中央小	261-6568
〃	小林　知広	手稲鉄北小	681-2287
〃	椿野　衣江	新陵中	683-6333
〃	寺田　実	柏　中	521-2341
事業部長	田口　和男	白石小	861-9265
副部長	稲實　順	創成小	241-1756
〃	白井　真澄	西宮の沢小	694-4291
〃	土井　善範	伏見小	551-2771
次　長	大村　憲一	簾舞小	596-2852
〃	安木　尚博	幌南小	521-0214
〃	箭内　浩之	幌西小	561-2201
〃	福島由紀子	桑園小	611-4211
〃	小野　正二	札苗緑小	792-2480
〃	毛利　聡	藻岩南小	572-2101
〃	松本　和彦	元町小	781-8111
〃	池田　武彦	東園小	811-8138
〃	八田　博之	発寒小	661-2521
〃	田中かおる	美しが丘緑小	886-5511
〃	平井　歩	厚別北中	895-7461
〃	大高　雅子	平岡緑中	888-3110
〃	八子　正人	発寒中	661-0412
〃			

役　名	氏　名	勤　務　校	電　話
研究部長	桜田　豊	北園小	721-5245
副部長	森　美由紀	いなづみ幼	683-3185
〃	川島　正夫	南の沢小	571-1096
〃	合田　典史	前田北中	694-2320
〃	澤田　範明	札幌清田高	882-1811
次　長	柏木　順	いなづみ幼	683-3185
〃 ＊	細川　依子	丘珠幼	782-5235
〃	加藤　雅子	開成小	783-4492
〃 ＊	野切　卓	附属小	778-8607
〃 ＊	堀口　基一	屯田西小	773-6105
〃 ＊	山　薫	澄川南小	584-2115
〃 ＊	湯浅　大吾	新陽小	756-1538
〃 ＊	櫻田　悟	幌西小	561-2201
〃	田中　潤	屯田中央中	771-5981
〃	阿部　時彦	中央中	241-6266
〃	伊藤　尚	米里中	875-5711
〃	小野　泰裕	藻岩中	571-6039
〃	高橋久美子	宮の森中	612-1147
〃	安田　仁昭	西岡北中	853-2422
〃	岡澤　邦彦	前田中	682-9511
〃 ＊	舘内　徹	月寒中	851-8158
〃	石川　早苗	手稲中	681-2557
〃	水野　一英	附属中	778-0481
〃	斎藤　周	札幌開成高	781-8171
〃	本庄　隆志	札幌南陵高	591-2101
〃	松井　茂樹	札幌月寒高	851-3111
〃	本田　勝哉	札幌丘珠高	782-2911
〃	板東　宏哉	札幌手稲高	683-3311
広報部長	中居　正光	月寒東小	851-7924
副部長	土肥　宏充	清田南小	881-1975
〃	加藤　正幸	新川中央小	761-1511
次　長	小泉　誠	東光小	782-8097
〃	東　尚典	大通小	251-0228
〃	山室ゆかり	西岡南小	582-6350
〃	太田寿栄子	東園小	811-8138
〃	富田　賢司	美香保中	711-8151
〃	中山　龍男	手稲西中	681-3392

事務局	〒004−0845　札幌市清田区清田5条2丁目18番1号 TEL　011-881-1975・011-881-9759	札幌市立清田南小学校　藤　井　正　治

● 事務局顧問（常任委員）

校種	氏名	勤務校	電話	担当
幼保部	芝木　捷子	中の島幼長	821-7414	研究部担当
	斉藤　三佳	白楊幼	736-0764	研究部担当
小学部	西　寛	中央小長	261-6568	広報部担当
	窪田　恵子	三角山小長	643-1133	会計部担当
	赤石　芳郎	常磐小頭	591-8880	庶務部担当
	佐藤　靖	栄南小頭	752-4130	庶務部担当
	廣瀬　恵子	北光小頭	721-0377	庶務部担当
	板木　武	大谷地東小頭	894-7211	広報部担当
	毛馬内國夫	発寒小頭	661-2521	広報部担当
	長野　祐平	小野幌小	898-0552	研究部担当
	冨所　玲	南小	581-0188	事業部担当
	花田　正雄	藤野南小	592-2120	事業部担当
	熊谷　悦代	八軒北小	642-8603	事業部担当
	小林万咲彦	石山南小	591-4747	広報部担当
	板田　恭侑	藤野南小	592-2120	研究部担当
	小柳　雄嗣	手稲東小	661-1516	事業部担当
中学部	三輪　望	新陵中長	684-6333	研究部担当
	中尾　孝典	東月寒長	853-1520	事業部担当
	石谷　正美	もみじ台南中頭	897-9331	研究部担当
高校部他	近藤　暢男	札幌新川高頭	761-6111	研究部担当
	阿部　宏行	指導担当課	214-4572	研究部担当
	菅原　清貴	市研究所	822-1130	研究部担当
	向井　正樹	道研究所	386-4511	研究部担当

● 連盟創立50周年企画委員会（常任委員）

役名	氏名	勤務校	電話	役名	氏名	勤務校	電話
委員長	今　裕子	山鼻小	551-6616	副委員長	槙木　則子	西岡南小	582-6350
				〃	小林　光裕	円山小	631-3437

● ネットワークプロジェクトチーム（研究部）

役名	氏名	勤務校	電話	役名	氏名	勤務校	電話
代表	野切　卓	附属小	778-8607	次長	細川　依子	丘珠幼	782-5235
				〃	加藤　雅子	開成小	783-4492
				〃	堀口　基一	屯田西小	773-6105
				〃	湯浅　大吾	新陽小	756-1538
				〃	山　薫	澄川南小	584-2115
				〃	舘内　徹	月寒中	851-8158

● 個人会員

校種	氏名	勤務校	所在地	電話
小学校	横山　猛	様似中長	〒058-0012　様似郡様似町旭日丘46（日高小中造形研究会）	01463-6-3141
中学校	高野　亮	宗谷中長	〒098-6754　稚内市宗谷村字清浜	0162-77-2019

地区サークル役員名簿 2000　北海道造形教育連盟

■＝連盟役員　＊印＝地区委員　◆印＝全国大会運営委員

札幌造形教育連盟（156）

役名	氏名	勤務校
委員長	＊窪田　恵子	三角山小長
副委員長	西　寛	中央小長
	＊◆三輪　望	新陵中長
	近藤　暢男	新川高頭
事務局長	川島　正夫	南の沢小
研究部長	野切　卓	付属小

事務局　南の沢小学校　川島　正夫
〒005-0823　TEL 571-1096　FAX 571-2769

石狩造形教育連盟（68）

役名	氏名	勤務校
委員長	吉田　英夫	江別市野幌中長
副委員長	＊◆桑田　正博	恵庭市恵明中頭
事務局長	＊墓田　充泰	北広島市大曲中頭
次長	豊田　治子	恵庭市和光小
研究部長	山崎　正明	北広島市大曲中
組織部長	蓑島　裕二	恵庭市和光小
事業部長	西村　司	千歳市北斗中
広報部長	工藤　雅人	北広島市大曲中
監査	野澤　紀義	江別市大麻東中長
〃	竹内　督人	北広島市広葉中長
〃	林　憲一	江別市野幌小長

事務局　北広島市大曲中学校　墓田　充泰
〒061-1271　北広島市大曲中央2-4-1　TEL 011-376-2354

空知美術教育研究会（70）

役名	氏名	勤務校
会長	内田　暢一	美唄中央小長
副会長	◆佐藤　正幸	三笠萱野中長
	渡辺　貞之	深川小
	鎌田　俊博	美唄中
事務局長	＊廣川　徹	奈井江小
次長	中澤　孝仁	滝川東小
会計	吉永　由華	岩見沢上幌向中
総務部長	上杉真智子	上砂川中央小
研究部長	乙丸　聡史	岩見沢明成中
事業部長	日隈あずさ	深川中
広報部長	熊本有未代	赤平中
監査委員	青竹　栄子	岩見沢第二小
〃	佐藤　祈	三笠幾生中
〃	大林　誠	芦別中

事務局　奈井江小　廣川　徹
〒073-0313　奈井江町字奈井江162　TEL 0125-65-2108

上川造形教育研究会（41）

役名	氏名	勤務校
会長	＊及川　輝夫	字莫別小長
副会長	◆原　完	名寄中頭
	伊藤有為男	美沢小長
	加藤　隆	下士別小頭
	川合　薫	落合小中頭
事務局長	nc鈴木　敏春	東川中
次長	吉野　法行	上川中
	藤沢　恵	名寄東小
研究部長	岩永　総子	上川中
広報部長	刀禰　典雄	扇山小

連絡先　美瑛町立字莫別小学校　校長　及川　輝夫
〒071-0228　美瑛町中字莫別第二　TEL 0166-92-3715

旭川市教育研究会図工美術部会（87）

役名	氏名	勤務校
部長	＊森　清行	神居東中
副部長	渡邊　盛二	永山東小
〃	＊品田　潤	緑が丘中
事務局長	菅原　良和	豊岡小
研究部長	◆川原　潤	光陽中
事業部長	宮嵜　智	六合中
研修部長	渡辺　万紀	東明中
編集部長	森　洋	東陽中
顧問	大久保正義	
	重山　惠	
	大口　優	
	山理　利春	
	氏家　貞	
	築山　尚明	
	木村　典義	
特別委員	宮川　昭雄	
	鳥本　捷夫	
	坂野　潤治	

連絡先　旭川市立神居東中学校　森　清行
〒070-8014 神居4条19丁目70-3　TEL 0166-28-2017

留萌地方美術教育研究会（32）

役名	氏名	勤務校
会長	◆織田　達史	留萌市幌糠中長
副会長	岡田加世子	留萌市東光小
	伝法谷　厳	小平町達布小長
事務局長	＊斉藤　友昭	小平町本郷小頭
次長	工藤　臣	留萌市留萌中
会計	佐々木　忍	小平町本郷小
研究部長	塩田　晃	留萌市札受小
事業部長	酒井　典子	留萌市北光中
監査	上坪　敏	小平町小平小長
	竹内　堅治	小平町鬼鹿小長

事務局　増毛町立阿分小学校　斉藤　友昭
〒077-0131 増毛町阿分116　TEL 0164-54-2304

函館市美術教育研究会（29）

役名	氏名	勤務校
会長	鵜面　和子	大森小長
副会長	藤井　昭夫	
	清野　恒夫	南本通小長
	藤川　潔	鱒川小中長
	武田　誠	高丘小頭
幹事長（中）	横岸沢英二	港中
〃（小）	＊鈴木　秀明	昭和小
研究部長	中村　吉秀	戸倉中
	東堂　亮之	中島小
事業部長	仲井　靖典	潮見中
	高石　悦郎	青柳小
庶務部長	三谷　龍司	戸倉中
	瀧本　伸幸	旭岡小
経理部長	岩舘こずえ	大川中
	角谷　聖子	駒場小

事務局　函館市立昭和小学校　鈴木　秀明
〒041-0812 函館市昭和1丁目5-5　TEL 0138-41-4946

渡島美術教育研究会（51）

役名	氏名	勤務校
会長	◆長政　裕	大野町大野小長
副会長	紀谷　義彦	上磯町上磯小長
	石原　佑一	八雲町八雲中長
	近藤　貢	長万部町長万部中長
	橋本　紀勝	知内町湯の里小長
	藤澤　建二	八雲町立春日小長
	大島　道夫	松前町原口小頭
	黒田　雅世	恵山町立古武井小頭
幹事長	＊水口　司	七飯町大中山中
会計	大場　育夫	七飯町七重小
研究部長	横井　真	七飯町七飯中
事業部長	安達　孝義	七飯町大中山小
監査	山本　隆夫	木古内町立木古内中
	林　弘実	上磯町立上磯中

事務局　七飯町立大中山中学校　水口　司
〒041-1121 七飯町大中山291-1　TEL 0138-65-2221

胆振造形教育研究会（34）

役名	氏名	勤務校
会長代理	*♦佐藤　輝彦	苫小牧市泉野小頭
副会長	矢元　政行	室蘭市向陽中頭
〃	長谷川英二	伊達市長和中長
〃		
監査	本多　正機	虻田町虻田中長
事務局長	森　康博	苫小牧市苫小牧東中
会計	川村　友子	苫小牧市大成小
理事	千葉　光弘	白老町白老中
〃	北村　哲朗	室蘭市武揚小
〃	常磐　欣也	壮瞥町壮瞥中

事務局　苫小牧市立苫小牧東中学校　森　康博
〒053-0018 苫小牧市旭町1-7-10　TEL 0144-32-5231

室蘭造形教育研究会（11）

役名	氏名	勤務校
代表	♦*北村　哲朗	武揚小
	加藤智佳子	高平小
	高橋　原子	大和小
	大野　達也	陣屋小
	登坂　千賀	八丁平小
	高倉かおり	〃
	吉田　佳子	中島小
	矢元　政行	向陽中頭
	山本　弘司	北辰中
	佐藤　宏茂	鵜ヶ崎中
	黒田　孝	東明中

連絡先　室蘭市立武揚小学校　北村　哲朗
〒051-0014 室蘭市栄町2丁目3-3　TEL 0143-22-1788

苫小牧市教育研究会造形部会（73）

役名	氏名	勤務校
会長	佐藤　公毅	凌雲中
副会長	宮森　俊治	美園小
幹事	大年　教子	啓明中
理事	吉田　隆一	泉野小
〃	♦*中畑　一彦	開成中

連絡先　苫小牧市立開成中学校　中畑　一彦
〒053-0034 苫小牧市清水町2-9-2　TEL 0144-32-8278

帯広市教育研究会図工美術部会（88）

役名	氏名	勤務校
部長	◆山口　雅子	明和小
副部長	海富　隆	緑園中
事務局長	堂山　早苗	豊成小
次長	*上山　映子	西陵中
局員	高畠真知子	明星小
〃	梅澤　和行	稲田小
〃	佐々木　忍	明和小
〃	佐々木智穂	森の里小
〃	澤田　佳子	一中
〃	神　史明	四中
〃	奥村美智子	五中
〃	奥野　淳一	七中

事務局　帯広市立西陵中学校　上山　映子
〒080-0028 帯広市西18丁目2-2　TEL 0155-33-3007

十勝造形サークル（24）

役名	氏名	勤務校
会長	♦*下坂　正之	新得町屈足中頭
事務局長	根岸　邦昌	芽室町芽室西中
次長	小泉　佳一	清水町清水中
次長	鎌田真奈美	足寄町足寄中

連絡先　新得町立屈足中学校　教頭　下坂　正之
〒081-0164 上川郡新得町屈足緑町西4丁目5 TEL 01566-5-2004

釧路造形教育研究会（36）

役名	氏名	勤務校
会長	◆渋木　弘志	釧路市緑陵中長
副会長	中島　郁子	釧路市仙鳳趾小長
〃	宝輪　克巳	浜中町榊町小長
〃	奥田　泰朗	浜中町霧多布中頭
事務局長	＊葛西　新吾	釧路市共栄中
次長	内山　博之	厚岸町真龍小
局員	＊高橋　潤	釧路市大楽毛中
会計	古川　史実	釧路市東中
監事	中村　紀雄	釧路市愛国小長
	中島　欣也	釧路市鳥取小長

連絡先　釧路市立共栄中学校　**葛西　新吾**
〒085-0038　釧路市花園町9-40　TEL 0154-23-1691

オホーツク造形教育連盟（19）

役名	氏名	勤務校
委員長	＊阿部　賢一	網走南小長
副委員長	佐藤　敬司	網走市卯原内小長
〃	◆花田　光正	佐呂間町栄小長
事務局長	光岡　光彦	網走市南小頭
次長	里見　貴史	女満別大成小
会計	野川　真妃	北見市高栄中
研修部長	石橋　一郎	網走東小頭
副部長	添田　好美	北見緑小
組織部長	久住呂志奈子	網走市第五中
副部長	宮武喜美子	網走市中央小
広報部長	平岡　良一	上湧別町上湧別中
副部長	佐々木真穂	雄武町豊丘小
理事	神田　国昭	美幌町美幌小頭
	光成　英二	清里江南小頭
監査	荒井　孝範	佐呂間町若里小長
	青木　修	丸瀬布町丸瀬布中長

連絡先　網走市立南小学校　**阿部　賢一**
〒099-3119　網走市鱒浦79　TEL 0152-43-3398

根室造形教育連盟（15）

役名	氏名	勤務校
委員長	◆煤賀　克文	根室市共和小長
事務局長	＊大井誠一郎	中標津東小頭
次長	吉田久美子	中標津開陽小
研究部長	大清　雅之	羅臼春松中
副部長	小出　秀明	根室市啓雲中
〃	柏尾　和市	根室市柏陵中
会計監査	久保　英樹	別海町別海小長

事務局　中標津町立中標津東小学校　**大井誠一郎**
〒086-1007　中標津町東7条南7　TEL 01537-2-3314

檜山管内造形教育研究会（19）

役名	氏名	勤務校
会長	＊◆若竹　隆邦	熊石町雲石小長
副会長	田中　俊一	瀬棚町馬場川小長
事務局長	谷口　光伸	乙部町乙部小
次長	目角　朱実	江差町日明中
研究部長	野呂　憲一	今金町今金中頭
事業部長	茶碗谷　稔	大成町久遠小頭
幹事	細川敬太郎	厚沢部町厚沢部小頭
〃	山谷　佳公	奥尻町宮津小頭
〃	鈴木　修一	今金町今金小頭

連絡先　熊石町立雲石小　校長　**若竹　隆邦**
〒043-0416　熊石町雲石744　TEL 01398-2-3387

●顧　問

氏　名	自　宅　住　所		電　話
秋山　修世	〒042-0941	函館市深堀町27-1	0138-51-1992
石井　　久	〒042-0954	函館市上野町19-8	0138-59-0857
石崎　義政	〒050-0083	室蘭市東町2-25-12	0143-44-7265
石塚　　潔	〒059-0036	登別市美園町5 丁目35-12	01438-4-8820
伊藤　　恵	〒062-0053	札幌市豊平区月寒東3 条18丁目20-20	011-851-8396
伊藤　英明	〒041-0801	函館市桔梗町337	0138-47-1594
伊藤　善彬	〒064-0913	札幌市中央区南13条西13丁目1-30	011-561-3823
一ノ戸信雄	〒063-0036	札幌市西区西野6 条10丁目15-2	011-662-5002
稲船　正男	〒085-0804	釧路市白樺台1-8-13	0154-91-7092
遠藤　久男	〒005-0841	札幌市南区石山1 条2 丁目13-5	011-591-3647
遠藤　満男	〒053-0801	苫小牧市白金町2	0144-74-2767
奥野　郁男	〒063-0035	札幌市西区西野5 条5 丁目2-22	011-661-1187
鹿嶋　　健	〒065-0020	札幌市東区北20条東6 丁目2-24	011-721-5554
加藤　　彬	〒040-0011	函館市本町22-23	0138-53-3519
金井　秀男	〒064-0944	札幌市中央区円山西町3 丁目4-13	011-631-2748
金谷　　彊	〒042-0931	函館市榎本町13番地21号	0138-57-0685
上條　雄也	〒071-8121	旭川市末広東1 条5 丁目	0166-51-0057
川島　信也	〒071-8136	旭川市末広6 条5 丁目2-7	0166-51-8692
小杉　信雄	〒078-8354	旭川市東光14条5 丁目	0166-32-6244
佐藤　　潔	〒085-0813	釧路市春採3-5-14	0154-41-1767
佐藤吉五郎	〒006-0818	札幌市手稲区前田8 条10丁目6-3	011-683-1054
庄　　栄一	〒006-0806	札幌市手稲区新発寒6 条10丁目10-1	011-684-8542
白井　図毅	〒060-0845	札幌市中央区北2 条東7 丁目82ラポール永山公園911	011-232-7646
須貝　　徹	〒099-0401	紋別郡遠軽町学田190-13	01584-2-2315
諏訪　英雄	〒050-0035	登別市若草町5-13-5	01438-6-3630
関　　建治	〒061-1355	恵庭市寿町2 丁目33-10	0123-36-5726
高橋　栄吉	〒064-0916	札幌市中央区南16条西13丁目	011-561-9024
高橋　錄治	〒077-0023	留萌市五十嵐町1 丁目7-21	0164-42-4661
滝村　虎雄	〒041-0832	函館市神山2 丁目13-12 シュロス神山202	0138-51-6440
谷　　熱	〒003-0832	札幌市白石区北郷2 条7 丁目7-7	011-872-5063
田邊　康夫	〒040-0001	函館市五稜郭町25-13	0138-53-7095
種市誠次郎	〒063-0821	札幌市西区発寒1 条12丁目1-11-3	011-667-2267
寺本　吉明	〒082-0001	河西郡芽室町平和	0155-62-2106
出村　　保	〒077-0033	留萌市見晴町1 丁目18番地	01632-7-2034
鍋谷　尊之	〒069-0382	岩見沢市幌向北2 条1 丁目611-62	0126-26-2662
長谷川　傳	〒064-0928	札幌市中央区南28条西10丁目5-2	011-511-7509
畠山三代喜	〒005-0032	札幌市南区南32条西9 丁目388-238 グランドハイツ320	011-581-2709
早弓　弘行	〒073-0021	滝川市本町1 丁目7-23	0125-23-4828
船着　昭弘	〒007-0836	札幌市東区北36条東28丁目2-11	011-781-5552
松島　輝男	〒001-0853	札幌市北区屯田3 条4 丁目11-12	011-771-6191

●顧　問

氏　名	自　宅　住　所	電　話
三浦　敏勝	〒041-0836　函館市山の手3 丁目13-1	0138-32-3070
三谷　哲司	〒062-0022　札幌市豊平区月寒西2 条10丁目1-15	011-851-8557
宮川　誠一	〒005-0832　札幌市北の沢1909-118	011-571-6848
宗廣　義彦	〒069-0232　空知郡南幌町緑町2 丁目4-8	011-378-1811
村瀬　千樫	〒002-8075　札幌市北区あいの里5 条3 丁目北海道教育大学札幌校	011-778-8811
森川　昭夫	〒001-0028　札幌市北区北28条西5 丁目2-25-501号	011-709-5368
柳原　寿夫	〒070-0822　旭川市旭ヶ丘4 丁目	0166-52-6086
山宮　衛也	〒090-0836　北見市三輪549-33	0157-36-0114
吉田　倭雄	〒063-0035　札幌市西区西野5 条1 丁目3-7	011-667-9486
米谷　哲夫	〒064-0803　札幌市中央区南3 条西23丁目	011-621-0793
和田　　弘	〒061-1133　北広島市栄町2 丁目2-3	011-373-4230

●協賛会員

会　社　名	代表者	所　在　地	電　話
KKサクラクレパス札幌営業所	大塚　正雄	064-0804　中央区南4条西13丁目	011-563-5161
ベンテルKK札幌支店	吉村　隆史	003-0030　白石区流通センター1丁目4-18	011-862-8921
開隆堂出版KK北海道支社	安達　研二	060-0061　中央区南1条西6丁目札幌北辰ビル8F	011-231-0403
東京書籍KK北海道支社	杉本　静昭	064-0804　中央区南6条西14丁目東書ビル内	011-562-5721
日本文教出版KK札幌出張所	中本　　忠	001-0909　北区新琴似9条12丁目1-1　011(764)1201	011-764-1201
コニシKK札幌支店	小林　保夫	063-0811　西区琴似1条5丁目5-2-27札幌松井ビル内	011-612-0211

北海道造形教育連盟規約

1. 名称と目的

本連盟は，北海道造形教育連盟といい，北海道造形教育の振興を図るをもって目的とする

2. 事　　業

本連盟は，目的を達成するため次の事業を行う

① 研究会・講習会・展覧会等の開催及び後援
② 造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究
③ 機関誌の刊行
④ 他の造形教育団体との連絡提携
⑤ その他造形教育振興上必要な事項

3. 会　　員

正 会 員　本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員
賛助会員　本連盟の目的に賛同するもの

4. 組　　織

サークル　本道各地にサークルを置き，会員は原則としてこれに所属する
本　　部　本連盟の本部は札幌に置く

5. 構成及び任務

①役　員

委 員 長	1　名	本連盟を代表する
副委員長	若干名	委員長を補佐する
会計監査	2　名	会計の監査をする

②委　員

地区委員	地区1名	地区サークルを代表する
常任委員	若 干 名	本連盟の運営に当たる
顧　　問		連盟の重要な問題につき意見を述べる

6. 選　　任

＊委員長，副委員長，会計監査は委員総会で選出する
＊地区委員は地区サークルで選出する
＊常任委員は委員長の委嘱による
＊顧問は委員総会において委嘱による

7. 任　　期

役員及び委員の任期は1カ年とする　但し重任を妨げない

8. 会　　議

＊総　　会　必要に応じ開催し，連盟事業につき協議する

＊委員総会　役員，委員をもって構成し毎年開催する

役員の選出，予算，決算及び年度計画等につき審議する

＊常任委員会　役員及び常任委員をもって構成し，連盟の事業を執行する

9. 会　　計

本連盟の会計は，会費・事業収入及び寄付金により執行する

会　費　正会員は1人年額2,000円を納入するものとする

サークルは，年額10,000円を本部に納入するものとする

10.事　務　局

＊事務局は事務局長在勤の学校に置く

＊事務局長は常任委員中より委員長が委嘱する

＊事務局には必要に応じて各部を設け業務の分担をする

11.年　　度

本連盟の事業並びに会計年度は，5月に始まり翌年4月に終わる

12.規約の改廃

本規約の改廃は委員総会の議決による

（平成6年4月29日改訂）

（平成9年4月29日改訂）

――記念誌「あとがき」をたずねて――

十周年記念誌『造形教育の十年』

苦難に充ちた十年の一切について、一人一人の会員の動きがどうだったのかを、えぐり出すような仕方で書くべきだと思ったりしたが、百頁という限られた中では、とてもできることではなかった。けれども、今後何年かにわたって、前の十年をふりかえる必要があって、開いた時、そこに最小限の必要な記録がのっていなければならない。

百頁はそのためについやされた　（伊藤　恵）

二十周年記念誌『造形教育連盟二十年』

連盟も誕生以来二十年。全道各地の熱心な研究者やサークルが集い合い、年々つみあげ、積み重ねた二十年の業績は雄大佳良なここでの眺望のように素晴らしく偉大である。（略）

これからの連盟は、更に新しきもの、より鋭き研究者、そしてより情熱を美術教育に捧げる人達によって、一層希望に輝く新時代へ逞しく歩みだすことであろう。

今回の二十周年記念誌は先の十周年記念誌と共に、連盟の二大記念塔でもある。（長谷川伝）

三十周年記念誌『創造の炎』

外は雪、今年は雪が少ないといっていたのが、ドカ雪の年となった。新卒で初参加の滝川大会で友人と熱心に参観したことが昨日のようだ。造形連盟も三十歳、壮年に入る。三十周年記念誌の編集にささやかながらお手伝いできて嬉しく思う。

（香西富士夫）

四十周年記念誌『創造の大地』

十年前の三十周年記念誌、この四十周年記念誌、ともにささやかながら編集に関わることになりました。すっかり忘れていた何十年前の自分の文章にときどき出会ってギクッとさせられたり、いとど積年の思いにかられたりしています。

（佐野千尋）

五十周年記念誌『虹色の造形』

『麓から歩き始めて十年、ようやくここまで来たが、山のかなたの空遠く、幸いすむ・・・というそのくにへ続く道の上にわたし達は今、たっている。足の裏いっぱいのこの土地の土の感触。そこで、友よ。また歩こうではないか。』（新妻清・十周年記念誌より）

表紙の色が少しずつ変わり始めている十周年記念誌。わたし達が初めて手にする記念誌と資料が数多くありました。全道の会員、先輩の先生方が築き上げてきた歴史の重みに胸が高鳴ってきました。

伝え、繋ぎ、そして学ぶことが、編集する者の責務であり、喜びであることを全道各地から送られてくる原稿を前に感じるようにもなりました。

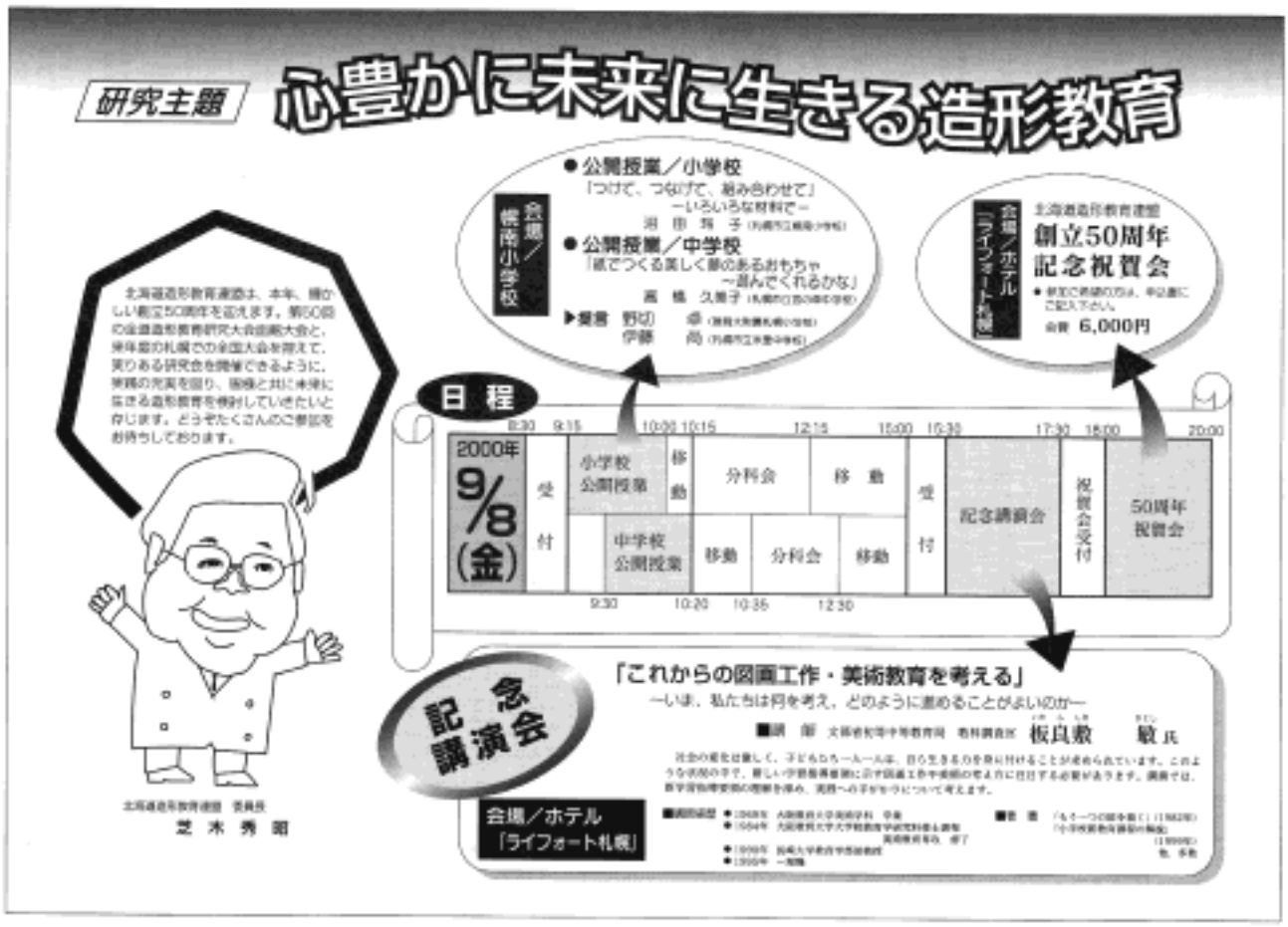
歩み始めて半世紀。『虹色の造形』は二十世紀と二十一世紀をつなぐ「掛け橋」となることを願い、編纂させていただきました。

人と人をつなぐ掛け橋。築き上げてきた連盟の文化を繋いでいく掛け橋。

虹色の造形はまた新たな輝きと文化を生みだすことでしょう。

『麓から歩き始めて五十年』足の裏いっぱいの感触を忘れずに、二十一世紀への虹の掛け橋をゆったりと歩んでいきたい。

（五十周年企画委員会・今）



北海道造形教育連盟50周年記念誌

「虹色の造形」

発行者　北海道造形教育連盟
代　表　委員長　芝木　秀昭
事務局　札幌市立清田南小学校
　　事務局長　藤井　正治
　　TEL（011-881-1975）
　　FAX（011-881-9759）

連盟創立50周年企画委員会

今　裕子（札幌山鼻小学校）
植木　則子（札幌西岡南小学校）
小林　充裕（札幌円山小学校）

編集委員

伊藤　暢紀（札幌開成小）
佐藤　靖（札幌栄南小）
細川　依子（札幌丘珠幼稚園）
元茂　章子（札幌澄川南小）
加藤　正幸（札幌新川中央小）
高橋久美子（札幌宮の森中）
田中　潤（札幌屯田中央中）
石川　雅昭（東海第四高等学校）

表　紙　藤井　正治

印刷・製本
小南印刷株式会社
札幌市中央区北9条西23丁目
TEL011-641-5373